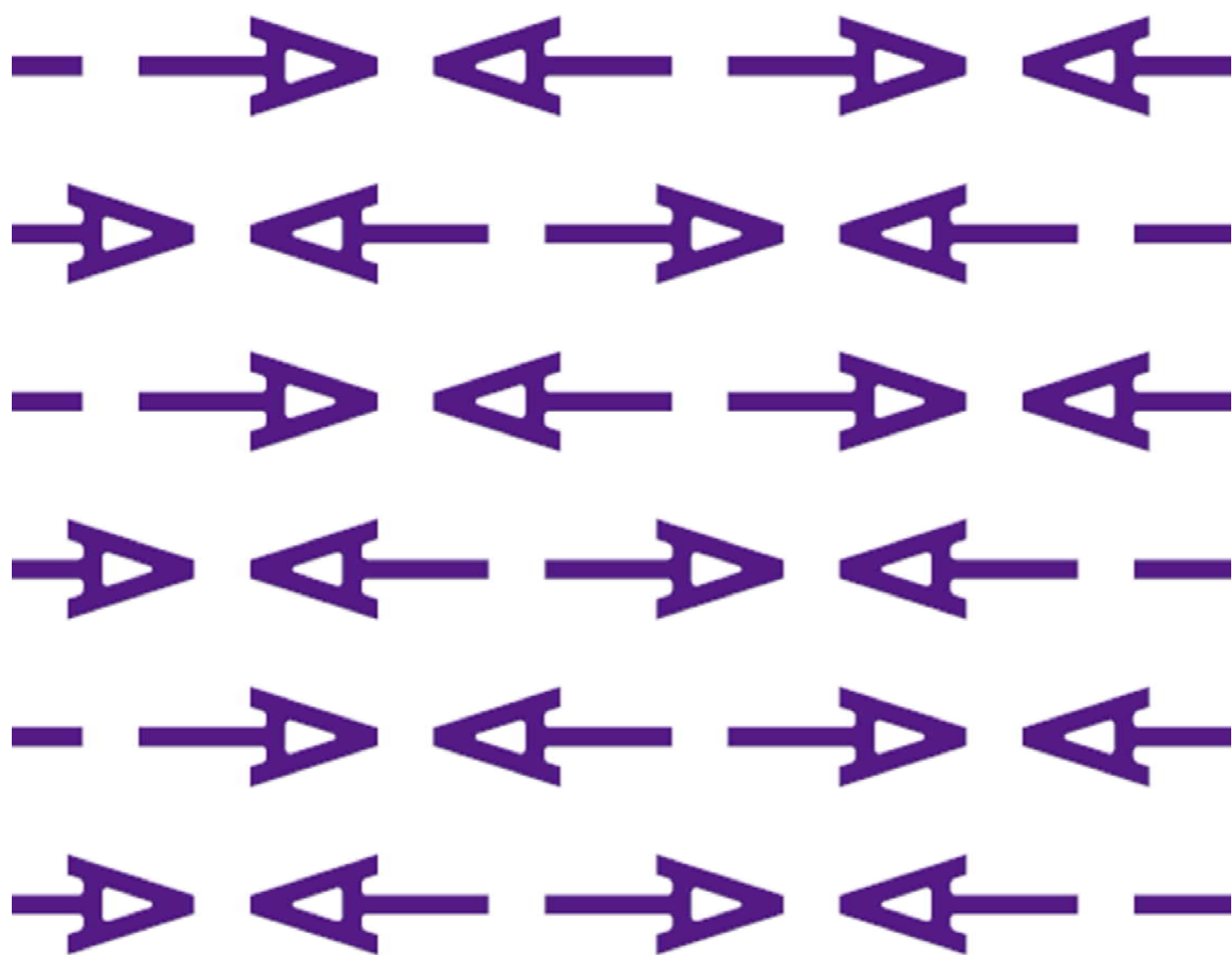


あいち トリエンナーレ 2019

AICHI TRIENNALE 2019:
Taming Y/Our Passion

情
の
時
代



8月1日[木]–10月14日[月・祝]

開催報告書

目次

I 主催者あいさつ1	5 その他
II 芸術監督報告2	(1) 会場運営.....57
III 開催概要10	(2) 広報・PR.....59
IV 企画体制20	(3) 公式出版物.....67
V 展開概要	(4) 公式アプリ.....68
1 現代美術	(5) オフィシャルグッズ.....69
(1) 国際現代美術展.....23	(6) 会場間シャトル.....71
(2) 映像プログラム.....25	(7) 旅行会社・ホテルとの連携.....71
(3) 主なイベント等.....27	(8) 会場周辺店舗等との連携.....72
(4) チケット.....31	(9) 企業・団体等からの協賛・協力.....73
2 舞台芸術	6 「あいちトリエンナーレ2019」
(1) パフォーミングアーツ.....32	「表現の不自由展・その後」の
(2) 音楽プログラム.....35	展示中止・再開に係る主な経緯.....74
3 ラーニング	【会期中のイベント・プログラム】.....77
(1) アート・プレイグラウンド.....37	VI 来場者の状況等
(2) ボランティアによるガイドツアー.....40	1 来場者数84
(3) 鑑賞プログラム.....41	2 チケットの販売状況87
(4) 学校向けプログラム.....42	3 アンケート調査結果
(5) その他.....44	(1) 来場者アンケート.....90
4 連携事業	(2) 関係者アンケート.....112
(1) モバイル・トリエンナーレ.....45	(3) 関係機関等アンケート.....120
(2) 舞台芸術公募プログラム.....46	4 有識者意見124
(3) 芸術大学連携プロジェクト.....48	5 経済波及効果128
(4) 連携企画事業.....49	6 パブリシティ効果129
(5) パートナシップ事業.....50	VII 実行委員会の状況等
(6) ボランティア.....54	1 実行委員会の収支状況130
(7) 市民団体等との連携.....56	2 実行委員会委員等133
	3 実行委員会事務局組織135
	資料
	・あいちトリエンナーレの開催経緯.....136
	・あいちトリエンナーレ実行委員会規約等.....141
	・あいちトリエンナーレの推移.....147

《御利用にあたって》

数字の表示単位未満は、四捨五入を原則としました。したがって、合計の数字と内訳が一致しない場合があります。

I 主催者あいさつ

2019年8月から10月にかけて、愛知県で4回目となる国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」を開催致しました。「情の時代 Taming Y/Our Passion」をテーマとして、国際現代美術展のほか、映像プログラム、パフォーマンスアーツ、音楽プログラムなど、様々な表現を横断する、最先端の芸術作品を紹介し、75日間の会期中には、国内外から過去最高となる67万人を超える多くの皆様に御来場いただき、無事芸術祭を終えることができました。

会期中、106の企画のうちの一つである「表現の不自由展・その後」を巡って、電凸攻撃、脅迫電話・メール、犯罪・テロ予告のFAXなどにより、8月4日から中止とさせていただいておりましたが、9月25日のあいちトリエンナーレ検証委員会の検証報告の中での「リスク回避等を十分に講じるなどの条件が整い次第、すみやかに再開すべきである」との提言を受けて、関係者と精力的に協議を行い、安全面、セキュリティ対策に万全を期して、10月8日から、この展示と共に中止等となっていた14組の作家が復帰して全面再開とすることができました。

今回のトリエンナーレの主な特徴として、ロックやポップスなどのポピュラーミュージックを新たなプログラムとして加え、愛知芸術文化センターやまちなか会場でのライブパフォーマンスを通して、その魅力を伝えました。音楽プログラムを呼び水として、これまでトリエンナーレに関心がなかったお客様にもご来場いただき、賑わい、盛り上がりを創出できたと考えています。また、パフォーマンスアーツの一環として国際現代美術展の参加アーティストが、展示空間から活動の場を「拡張（エクステンション）」し、作品をめぐるレクチャー形式のパフォーマンスや、作品を集団で鑑賞・議論する場をつくる企画を、今回初めて取り入れました。これは現代美術と舞台芸術を複合的に展開するあいちトリエンナーレならではの取組と言えます。更に、従来の「普及・教育（エデュケーション）」から「ラーニング（Learning）」へと名称も改め、来場者の誰もが相互に学びあう事業を展開しました。

まちなかでの展開については、名古屋市内は過去3回開催してきた長者町から、新たに四間道・円頓寺に場所を移し、名古屋市外の会場としては、初めて豊田市内で展示や公演を展開しました。これまでの愛知芸術文化センター、名古屋市美術館に加えて、蔵や町家などが残り下町の情緒を残す町並み保存地区である四間道と、レトロな昭和の雰囲気が残る円頓寺商店街、豊田市美術館や大正期の代表的な町屋建築の元料理旅館「喜楽亭」があり、自動車産業をはじめ、ものづくりが盛んな豊田と、それぞれの地域や会場の雰囲気に合わせた魅力ある作品展示を行いました。更には、設楽町・津島市・小牧市・東海市の県内4市町でも移動型展示「モバイル・トリエンナーレ」を実施し、多くの方に現代アートに触れていただく機会となりました。

さて、このたび、開催概要や、各プログラムの実施結果、来場者の皆様へのアンケート結果などを内容とする報告書を取りまとめました。私どもといたしましては、今回の経験や反省を活かしながら、皆様により一層親しんでいただけるトリエンナーレとして大切に育て、文化芸術の日常生活への浸透を図り、創造性豊かな魅力ある地域づくりに繋げてまいりたいと考えております。

最後になりますが、御来場いただきました皆様をはじめ、出品してくださったアーティスト、開催に当たり御支援、御協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

2020年3月
あいちトリエンナーレ実行委員会

Ⅱ 芸術監督報告

[あいちトリエンナーレ 2019 の報告]

われわれを飼いならそうとする者へ

あいちトリエンナーレ 2019 芸術監督
津田 大介

芸術監督を引き受けたときから、ドクメンタやマニフェスタ、ミュンスター彫刻プロジェクト、ベルリンビエンナーレなど、欧州で定期的に行われている社会的・政治的なテーマを中心に扱う都市型国際芸術祭を日本でも開催すると心に決めていた。

最大の理由は自分がジャーナリストだからである。もう一つの理由は、芸術監督を選任する有識者会議のメンバーである五十嵐太郎芸術監督の「あいちトリエンナーレ 2013」を観ていたことだ。東日本大震災から2年というタイミングで、ストレートに震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故を取り上げた展示作品の数々は、いまでも自分の中に鮮烈な記憶として刻まれている。「日本版ドクメンタ」の嚆矢ともいえる2回目のあいちトリエンナーレには、アートとジャーナリズムの境界にあるような生々しい社会性・政治性を帯びた表現が並んでいた。美術の専門知識はなくても、取材で東北に足繁く通った経験から、「被災地の文脈」がどのように作品に生かされているか、即座に理解することができた。

「情報」によって人々の「感情」が煽られ巻き起こった問題を「情け」で解決する——「情の時代」というテーマ・コンセプトは、GAFa や FANG と呼ばれる米国のプラットフォーム事業者や、ポピュリズムが興隆する世界情勢と呼応し、非常にタイムリーなものとして受け止められた。

芸術監督としてトリエンナーレの企画を構成していくうえで意識したのは、「情報」「感情」「情け」といったテーマにまつわるキーワードに加えて、あいちトリエンナーレ 2010 の建畠哲初代芸術監督が提唱した「先端的／祝祭的／複合的」という3つの要素を高いレベルで満たすこと。そしてあらゆる分断や障壁を、芸術祭を通じて社会に気付かせる——問題提起を行うことだった。人種、ジェンダー、年齢による差別はこの国においてあまりに根深い。そして、移民や難民、テクノロジーが社会をどう変えたか、表現の自由・検閲といった問題も含めて全体の構成を組み立てていった。

「表現の不自由展・その後」をめぐる一連の騒動をトリエンナーレの中でどう位置づければいいのか。それをこのエッセイで行うには紙幅も足りず、文化庁のトリエンナーレへの補助金不交付問題など、現在進行中の事態もあるため、すべてを総括するのは不可能だ。

しかし、最初に強調しておきたいのは、同企画がトリエンナーレ全体で106あったうちのひとつであること。そして、真摯にトリエンナーレに関わる者は誰一人として、いずれの展示の中止も望んでいなかったことだ。

トリエンナーレの作品群を丁寧に見ていけば、イム・ミヌク、岩崎貴宏、小田原のどか、劇団アルテミス、高嶺格、高山明、田中功起、毒山凡太郎、パク・チャンキョン、藤井光、ジェームズ・ブライドル、タニア・ブルゲラ、キャンディス・ブレイツ、ホー・ツーニェン、モニカ・メイヤー、袁廣鳴（ユェン・グァンミン）、弓指寛治、ミロ・ラウなど、見方によっては不自由展以上に論争的かつ政治的な主題を扱った作品が、無数にあることがわかる。今回、強いメッセージ性や政治的主题で話題を集めた参加作家たちからは（ニュアンスこそ微妙に違うものの）口を揃えるように、「芸術監督がジャーナリストだから普通の芸術祭ではできない尖ったプランを提案した」と言われたものだ。

思い返せば、いくつもの作品の実現や存続が危うかった。他の芸術祭で忌避されるプランは、当然トリエンナーレ実行委員会事務局もリスクを懸念するわけで、ある時期まではほとんど中間管理職のように事務局との“調整”作業に奔走していた。それは国際現代美術展だけでなく、上演したすべての作品が強烈なメッセージを放つ“問題作”揃いのパフォーミングアーツや、映像プログラム、音楽プログラムにおいても同様だった。参加作家やキュレーターが強い意志を持ってやりたいことをプレゼンし、自分が「情の時代」というテーマに則していると判断すればGOを出した。作家やキュレーターから予算を捻出して欲しいと頼まれれば個人で協賛金を集め、制作に必要とあらばアクセスしづらい機関や人物をジャーナリストという立場を生かしてつないできた。自分の好き嫌いとは関係なく、プランを具現化するためにできることは何でもやるのが芸術監督の仕事であると思ったからだ。

作品制作過程で参加作家のやりたいことをできるだけ制限しなかったことは、後に激しい批判を浴びることになったが、「情の時代」というテーマに則した作品を実現できる作家を選出し、彼らを全力でサポートする体制を作ってきたことが、最終的に功を奏したと捉えている。政治的なアクションからは距離を取り、自分の作品展示に集中する作家も少なからずいた。不自由展騒動以降に生じた参加作家による数々のアクション（ステートメントの掲出、展示のボイコットの実現、#YOurFreedom、サナトリウム、多賀宮 TAGA-GU、あいちプロトコル、J アートコールセンターなどに加えて、作家の希望で本来予定になかった集会や、ワークショップを数多く開催した）とともに、いずれの立場もスタッフ総出で裏側からサポートした。

キュレーターの一人であるペドロ・レイエスは、8月12日に開催された参加作家有志の公開ディスカッションで、「昨年、直島などの日本の展示を見て周った。印象派の絵画や、ジェームズ・タレルなどの感動的な作品を安全な状態で楽しめるのは素晴らしいことだ。同時に、日本の現代アートの状況は、そういった美しいものしか受け入れられず、現実の問題や課題に言及する作品を展示することに障害があるように思えた。あいちトリエンナーレ 2019 にキュレーターとして参加しないかと声をかけられた時に、自分の役目は、世界の現状、政治や権力に対して、あらゆる方法の表現を行っている作家を招聘することだと考えた。そうしてキュレーションした結果、この芸術祭はとても素晴らしいものになったと感じている」と述べている（ペドロは後に政治的主题を強く打ち出すキュレーション——政治性の強い作家を集めたことが大量展示中断・変更の要因になったとも述懐している。実際に今回展示の一時中止を決断した作家の多くは彼が担当だ）。

不自由展中止に対するアクションとして、参加作家の展示中止・変更をリードしたタニア・ブルゲラは、前述の公開ディスカッションで「こういったときにいつも私が考えるのは『戦略があればあるほどいい』ということ。作品を取り下げる作家がいていいし、別のアクションをしても

いい。応答がバラバラであることを恐れてはならない。コミュニケーションが適切に行われれば、私たちの行う行動の一つひとつから、その意図を伝えることができるはず」と述べている（CINRA.NET 2019年9月6日）。

脅迫により、開始から3日で中止した「表現の不自由展・その後」は、企画そのものや、中止および再開の是非をめぐり、多くの論者が侃々諤々の議論を繰り広げた。タニアの言葉を借りれば、作家たちの「バラバラな応答」を現場のスタッフが支えたことが、残り70日近くあった会期をなんとか持ちこたえるための「戦略」と化したのである。日々刻々と変化する状況に対応し、現場のコミュニケーション不全が少しずつ回復していったことは、展示再開という一見不可能に見えたメルクマールを達成することにつながった。

不自由展をめぐる騒動は、本来望まれる事態ではなく、関係各所に多大な迷惑をかけた。とりわけジャーナリストとして展示の中止を決断したことは痛恨の極みである。そして同時に、当初企画したトリエンナーレの全てを回復できたこと、そこに尽力されたすべての人に感謝申し上げたい。また、すべての展示を観ることが叶わなかった観客と、悪意に扇動され怒りや痛みを覚えた一般の人々が存在することも忘れてはならないことだと思っている。

総勢1,219人に及ぶボランティアと彼らの高いシチズンシップを支えたラーニングチームには本当に助けられた。騒動の渦中、作家から政治家、表現の不自由展実行委員会、愛知県職員に至るまで、それぞれの正義が衝突することで再開に向けた動きをまったく進められない状況に陥ることが多々あった（※1）。一番苛烈なときには、会場に「芸術監督を殺してやる」と連呼する街宣車や、ガソリンと称して水を撒く者が現れ、爆発物と誤解させるような装置が郵便で送付されるなど、堪え難い状況であったにもかかわらず、少なくない人々がトリエンナーレの味方になってくれた。会期が終われば作家や作品はその地域から消えてしまうが、芸術祭を通してまちづくりに参加する人たちは、会期終了後も同じ場所に留まる。このことの意味を実感した。

ゆえに、一つだけ否定しなければならぬことがある。中止騒動を受けて県が組織した「あいちトリエンナーレのあり方検討委員会（旧：あいちトリエンナーレのあり方検証委員会）」による不自由展の評価だ。検討委員会の最終報告書は、以下のように要約できる。

①「表現の不自由展・その後」の展示内容は（平和の少女像も大浦新作映像も）適法で問題もないが、②不自由展実行委と芸術監督が中心となって企画を進めたため、美術の専門家の関与がなく（事前説明含めた）キュレーションに問題があり、③展示内容の報告など進め方のガバナンスにも問題があった。④しかし、再開しないで終わると愛知県や日本の美術界に大きなダメージがあるので再開すべきであった。展覧会そのものは概ね成功した。

①③④については特に異議はない。しかし、②については疑義がある。報告書83頁の「不自由展実行委員会に展覧会のキュレーションを委ねてしまい、結果としてあいちトリエンナーレの期待水準に達しない、また作品選定の妥当性とキュレーションの不足により多方面から『公的資金を使い、公的な場所で芸術の名を借りた政治プロパガンダを行った』と一部が批判される展示をみとめてしまった」と指弾されている部分だ。

まず、トリエンナーレ全体の評価としては「国際展にふさわしい統一感をもつ内容であり、全体としてのクオリティも総じて高い。練られたコンセプトをもたず、類似した芸術祭が日本国内で乱立するなか、これは高く評価すべき芸術祭」（※2）、「社会性の強いアートを集めた芸術祭としては、日本トップクラス」（※3）、「近年出色の国際芸術祭。現代アートが大なり小なり社会や政治と無関係ではいられないことがよく分かる展覧」（※4）、「技術革新や外国人労働者、移民問題に目を向けた秀作が多い」（※5）といったように、美術専門家や観客からの評価も高かった（※6）。そのため検討委員会も最終報告書で「東京や大阪と比べて交通・人口的に不利な条件下で、いわゆる『ビッグネーム』のアーティストに頼らずこの結果を出したことは特筆に値し、総じて成功したと言える」と、成果を認めざるを得なかったのであろう。

しかし、不自由展問題が炎上する前の内覧会時点で既に、不自由展という企画（キュレーション）に対する美術関係者の評価が高かった（※7）ことは、まったく無視されていると言って過言でない。不自由展のキュレーションについては、キュレーターでビコム現代美術センター芸術監督の遠藤水城が「日本のアートシーンが見過ごしてきたもの、等閑視してきたものを批判的に検討する空間が生成していた。このような状況をして、私は一段上の、クオリティの高いキュレーションが実現されたと捉えています」と指摘し、美術批評家の榎木野衣も「今回、『表現の自由』をめぐる問題を扱う展示が、津田芸術監督の発案で、あいちトリエンナーレのような公的な場で実現されたことは、第一義的には高く評価されるべき」と肯定的に述べている（※8）。

そもそも、トリエンナーレを脅迫したのは「展示を観に来ない人々」であった。これらのことから、検討委員会の指摘は、騒動の事後的に結論を決め、細かな瑕疵を指摘することで関連する様々な問題の原因をキュレーションの責任だと帰結させているように見える。

また、検討委員会が指摘する「『政治プロパガンダを行った』と一部が批判される展示をみとめてしまった」という総括も、結果的に脅迫者を利することにしかならず不適切である。

公的機関から独立した作家が、自分の作品に政治的な意図を込めるのは、断じて“プロパガンダ”などではなく、“オピニオン”である。そもそも不自由展実行委員会については、参加作家としての発表やその展示内容については3月の時点で広く一般に向けて公表しており、展示方法もその性質を考慮して、順路に組み込み観客に強制的に見せるのではなく、但し書きを掲示したうえでゾーニングもしていた。それを「特定の考えを押しつけるための宣伝」と定義することには無理がある。ソーシャルメディアにおける「プロパガンダ」という言葉の悪用は、近年専門家も指摘するところである。検討委員会はそうした批判そのものが不適切であると言及すべきだった。

もっと言えば、不自由展及びあいちトリエンナーレが脅迫を受けたことの原因をキュレーションの問題と結論付けるのは、キュレーションさえ正しければ「表現の不自由展・その後」の展示を不快に思う勢力が妨害を行うことはなかったということを前提とする物言いである。それは、妨害されないように展示の内容や方法にあらかじめ自主規制することを当然視することにもつながる。このことは、今後行政が主催する芸術祭の展示企画に対する萎縮を招きかねず、甚だ容認できるものではない。

不自由展の中止をめぐることは、様々な識者からキュレーションの問題や事前のリスク管理の不足を指摘する声が上がった。しかし、芸術監督の立場から見れば、こうした指摘はすべて結果論、

結論ありきの議論に聞こえた。事前にリスクを減らすことに注力すればするほど、あらかじめ「不自由展」をあきらめるのが適切だったという結論にしかないからだ。

10年前であれば——たとえ5年前であっても——不自由展は75日間展示を続けることができた企画ではないかと思う。10年前は今よりソーシャルメディアの社会的影響力が小さかった。ネットを使いこなす国会議員は数えるほどしかおらず、政治家が一部の偏った「ネット世論」に耳を傾けることもなかった。クレームは来ただろうが、関わる者が命の危険を感じたり、事務局機能が破壊されたりするほどのものにはならなかったはずだ。

5年前のことも、よく思い出してもらいたい。2015年は現政権与党が、選挙で盤石の議席を確保し、安保法制を通すために、高い政権の支持率を盾にメディアに対して露骨に介入を始めた年だ。不自由展実行委作成の《表現の自由をめぐる年表》からも、2014～2015年を境に検閲された作品の例が明らかに増加していることが伺える。日本社会が急速に変化したことに言及せず、不自由展の企画そのものや“やり方”を問題視する論調は、本来議論すべき本題から目を背けているようにしか見えない。また、日本の美術業界はこれまで慎重に表現の不自由や検閲の問題と向き合ってきた（水面下で戦って）きたとも聞くが、近年の状況を見る限り、問題作が不採用あるいは撤去され、自己検閲がより一層進んでいることは明らかだった。はたして美術業界の「雑ではない」「慎重な」やり方で、このひどい状況を少しでも押し戻すことはできたのだろうか。ともすると「可視化」することすらままならなかったのではないか。真相は闇の中である。

今後の芸術祭のあり方を考えるうえで重要なのは、あいちトリエンナーレ 2019 が商業的に成功したという事実である。過去最大の来場者数を記録しただけでなく、チケットの売り上げは前回の1.5倍、予算額を約7,000万円上回る増収となる見通しだ。この商業的な成功は決して「炎上商法」と呼ばれるようなものではない。そもそも不自由展は、最初の3日と最後の1週間しか見ることができなかったのだ。今回の過去最多来場者数は、多くのリピーターによって支えられている。不自由展にだけ関心があった観客は、一度は来場してもリピーターになることはない。来場した観客が展示内容に満足していたからこそ、この結果を出すことができたと言える。

モニカ・メイヤーは『新潮』2020年2月号への寄稿で「心残りなのは、検閲された展示作品のいくつかはメディアの注目を集めたが、その他の作品たちが無視されていたこと」と、不自由展ばかりに注目が集まった状況を嘆いていた。しかし細かくメディアをチェックすると、少し違った見方もできる。たとえば朝日新聞はこの間に、個別の作家や作品に焦点を当てた記事を20記事以上報道している。この数だけで過去3回とほぼ同じか、それを上回る水準だ。

ツイッターで期間中の来場者の感想を解析したところ、多寡はあれど、すべての作家や作品について来場者が感想を述べており、インスタグラムのハッシュタグも前回の1.5倍に届く勢いで利用されていた。中には、マスメディアやソーシャルメディアが不自由展ばかりに注目していたからこそ、実際に来場して展示内容に感銘を受けた観客が感想を投稿している例も多々見られた。最多来場者を記録できたのは、そうした観客たちの功績でもある。

この問題に立ち向かうため、様々な立場の人間が連帯して解決に向かう過程で「あいちプロトコル」が生まれた。そして次回以降、政治から表現への介入を防ぐアームズ・レングスの原則に基づいたアーツカウンシルの仕組みが導入予定だ。トリエンナーレが撒いた種やレガシーを今後日本の美術業界が（そして日本社会が）どのように育てていけるのかが問われている。

あいちトリエンナーレ 2019 は、国際現代美術展以外もすばらしかった。テーマに則した作品を作るという点で、相馬千秋キュレーターのパフォーミングアーツ、杉原永純キュレーターの映像プログラムとも、潜在的な期待を超える作品群をプロデュースしてくれた。あいちトリエンナーレ 2019 で初演された市原佐都子 (Q) の「バックスの信女—ホルスタインの雌」が会期終了後に第 64 回岸田國土戯曲賞に輝いたことは、望外の喜びとなった。また、過去 3 回は動員が振るわないこともあった映像プログラムは連日満員御礼であった。いずれも芸術祭というフレームを巧みに利用し、尖った内容であっても観客を動員でき、高い満足度を導き出せることを証明した。

過去 3 回実施してきたオペラの代わりに導入された音楽プログラムは、建畠哲初代芸術監督が打ち立てた方針である「先端的／祝祭的／複合的」を意識し構成された。実験的な巨大サウンドインスタレーションで観客の度肝を抜いたサカナクション、ストイックなタブラ修行を 40 日間続けたユザーンは「先端性」を。連日、円頓寺商店街をすばらしい音楽で満たしてくれたデイリーライブは「祝祭性」を。音楽と現代美術を横断した MUSIC&ARTSFESTIVAL は「複合性」を体現したものだ。デイリーライブの会場となった円頓寺商店街は、トリエンナーレ期間中人であふれかえり、商店街の店舗の売上げが軒並み 2~3 割アップしたと聞く。トリエンナーレの経済効果を象徴する話であり、音楽プログラムのもつ祝祭性が地域おこしに大きく貢献したことを示している。

2 年半前、門外漢である自分が芸術監督に着任したことで、近年地方創生の文脈で拡大してきた芸術祭やビエンナーレ、トリエンナーレブームが終焉を迎えるといったネガティブな言説が、事あるごとに囁かれてきた。騒動を経てなお、そうは思わない。強いて言うなら、2019 年を境に、芸術祭やトリエンナーレは「多様化」の時代に入り、強さを持つ本物の芸術祭だけが生き残っていくように変わったのだと思う。榎木野衣は『新潮』2020 年 2 月号への寄稿で「(今回のあいちトリエンナーレが) 政治的なトリエンナーレとしてまっとうされたのだから、次回からは、いたずらに祝祭を求める芸術祭への偏りを修正し、本来得られてよい都市を主会場とする最低限の政治性を基盤に、ほかでもないトリエンナーレこそが再組織されるべき」としている。

「情の時代」というテーマ・コンセプトには、二つの意味が込められている。一つは、情報によって引き起こされるわれわれの感情を、いかにして飼い慣らせるのか。そしてもう一つは、われわれを飼い慣らそうとする勢力への抵抗だ。そのコンセプトは最後までしぶとく生きていた。今回のトリエンナーレには、他者への共感をもってシロ・クロにはっきり二分する言説や排外主義に抗う作品が多く見られたが、それらの作品が持つメッセージは騒動を経たいま、より強固で切実なものに写る。このことを否定する人は (少なくとも実際に現場で作品を見た人の中には) おるまい。

アートには感情と理性を調停し、人間を解放する大きな作用がある。あいちトリエンナーレ 2019 は、政治的な主題を強く打ち出す芸術祭を商業的に成功させるという実績を作った。内容面でも高い評価を得ることができ、尖った内容であっても人を呼ぶことができることを証明できた。良くも悪くも歴史に残る展覧会になった。それを実現できたのは、観客をはじめ、参加作家やキュレトリアルチーム、愛知県職員、事務局職員、豊田市職員、会場スタッフ、ボランティア、警備、四間道・円頓寺商店街・円頓寺本町商店街の方々、協賛企業、大村知事ほかすべての関係者による協働があったからだ。あらためてこのチームで最後まで駆け抜けられたことを誇りに思う。

彼らの情熱がなければ、このトリエンナーレが伝説になることもなかった。多大な迷惑をかけたことをお詫びするとともに、最大限の感謝を捧げたい。

だが、そう楽観的に捉えない向きが多いことも容易に想像が付く。「ハッピーエンドで終われて良かった」と呑気に言うほど自分も楽観的ではない。日本で「政治的な主題を強く打ち出す都市型トリエンナーレ」を展開したこと、あるいは参加作家のジェンダー平等達成など、このトリエンナーレがもたらしたことの意味を冷静に評価できるようになるにはある程度の時間が必要だろう。30年後にあいちトリエンナーレ 2019 がどう捉えられているのか。評価は後世に委ねたい。

※1 その膠着状況を示す資料となるのは、不自由展実行委が中心となってまとめた岩波書店の『あいちトリエンナーレ「展示中止」事件』だ。なお、同書には当事者として看過できない記述がいくつかあるのでここで指摘しておきたい。

- ・「津田監督は、作品選定という最もデリケートな問題について、その一部を不正確なかたちで、個人名も含め SNS などに流出させた」（18 頁）
- 2015 年以降の美術館における検閲問題を考えるうえで会田家の《檄》という作品は展示に不可欠であると考えた自分と、会田誠が関わる作品の展示を頑なに拒んだ岡本有佳氏の議論が基になっている。岡本氏は「会田誠を入れるなら辞任する」と言ってきたため、こちらとしては「了解するが、トリエンナーレ期間中の公開討論会でこの経緯はオープンにして議論させてもらう」と伝えており、その点については岡本氏や不自由展実行委のほかのメンバーも了解し記録も残されている。
- ・「津田監督の会見には出席を拒まれたが」（37 頁）
- 岡本氏の誤解である。対応した職員によると、会見場に姿を見せた岡本氏に対して「確認するのでお待ちください」と伝え上司に確認して戻ってきたところ、岡本氏が違う場所に行ってしまった後だったということである。
- ・「実行委員二人が津田事務所に行くと、津田監督が経営する会社ネオログの顧問弁護士がいて、仮処分をやるよう『恫喝』された」（51 頁）
- まず、「恫喝」はしていない。二人が来社した最初の段階で、弁護士を同席させていいか尋ねており、二人が承諾したので話し合いに参加してもらっている前提をまったくなかったものとしたこと、また録音も残しているにもかかわらず「恫喝」という表現を使用したことに強い疑問がある。
- ・「10 月 13 日、キム夫妻が『表現の不自由展の現在』と題したステートメントを掲示したいと言ってきた。私は現場のスタッフに確認をとり、展示会場入口付近に貼らせてもらった」（60 頁）
- 岡本氏が声をかけたのは「表現の不自由展・その後」や、国際現代美術展とは関係のないスタッフだったことがわかっていて。当該のスタッフは、そのときに「OK を出した覚えはないが『自分では判断できないのでキュレトリアルチームや事務局と相談してください』とは言えなかったことで混乱を招いた」と自責していた。
- ・「津田さん自身が 9 月 2 日の記者会見を始め、再三『政治家の圧力』が原因ではないと、問題性を否定している」（120 頁）
- 都合よく発言を切り取り、編集しているように思われる。事実、様々な場面で河村名古屋市長や松井大阪市長、吉村大阪府知事、菅官房長官、柴山文科相などの発言には問題があると述べている。あくまで、展示中止を決めた最終的な要因は脅迫および電凸を主な原因とする事務局機能のマヒにある。まったく違う文脈で主張した『政治家の圧力』に屈するべきではないという発言を混同されることは甚だ遺憾である。
- ・「中止を発表した記者会見以降しばらく、津田さんは連絡しても全然応えてくれなくなりました」（137 頁）
- 事実と異なる。中止を発表した記者会見以降もこちらから様々な手段で不自由展実行委には連絡をしていた。そのうち記録に残っているものを確認しても、8 月 10 日と 19 日には協議の申し入れの連絡を送っている。会見以後、複数の委員に架電したが、電話に出してくれる委員はいなかった。委員に会場で偶然会った際や、9 月 2 日に行われた日本外国特派員協会での記者会見時にも協議をお願いしたが、果たされることはなかった。不自由展実行委に近い人物や、会場で接触した人々に「津田が協議をしたがっているので連絡してほしい」と言伝してもらったが、それでも連絡はなかった。知事との直接協議を求め、こちらからの連絡や自分との協議を一貫して拒否していたのは不自由展実行委であり、いずれも記録が残っている。記録を出せばすぐに判明する事実であり、なぜこのような嘘と思われる記述をしたのか理解できない。

※2 五十嵐太郎評（建築批評家、あいちトリエンナーレ 2013 芸術監督）、

出典：artscape2019 年 09 月 15 日号

[https://artscape.jp/report/review/10156964_1735.html]

- ※3 藤田直哉評（批評家）、
出典：ハフポスト 2019 年 8 月 16 日
[https://www.huffingtonpost.jp/entry/naoya-fujita_jp_5d54fe1fe4b0eb875f1f743e]
- ※4 永田晶子評（毎日新聞）、
出典：ツイッター 2019 年 8 月 3 日
[<https://twitter.com/noachan0514/statuses/1157630013388103680>]
- ※5 窪田直子評（日本経済新聞）、
出典：日本経済新聞 8 月 31 日
[<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ049195960Q9A830C1BC8000/>]
- ※6 あいちトリエンナーレ 2019 は、2019 年の美術を振り返る記事で軒並み取り上げられた。美術ジャーナリストの村田真は朝日新聞の「私の 3 点」で本展を、多摩美術大学学長であいちトリエンナーレ 2010 芸術監督の建畠哲は読売新聞の「展覧会ベスト 4」で高嶺格の作品「反歌：見上げた空を悲しも その色に染まり果てにき 我ならぬまで」を、美術ライターで編集者の島貫泰介と現代美術家中島晴矢は CINRA.NET の「2019 年に心を動かした作品は？ カルチャーアンケートを発表」で本展を、現在大学院で美術を学んでいるアイドルの和田彩花はぴあの「展覧会ベスト 4」で本展を選出。毎日新聞、日本経済新聞の回顧記事でも本展が言及された。またウェブ版美術手帖の「読者が選ぶ 2019 年展覧会ベスト 3」では本展が 1 位に選出され、TOKYO ARTBEAT の「TAB ユーザーと編集部が選ぶ 2019 年の展覧会ベスト 10」でも、野路編集長の「ベスト」として本展が選ばれている。
- ※7 ウェブ版「美術手帖」の橋爪編集長は内覧会を見た 7 月 31 日に不自由展がベストであると言及した。
[https://twitter.com/hashizume_y/status/1156417293405999104]
また、タニア・ブルゲラもオープニング当日にインタビューを受けた際に（そのとき何が起きていたのかわからないまま）「今回のトリエンナーレで最も優れているのは『表現の不自由展・その後』ではないか」と答えている。
[https://www.art-it.asia/top/admin_ed_feature/203360]
美術ジャーナリストの村田真も「『表現の不自由展・その後』を見たとき、これはいい企画だと素朴に思ったし、その後の展開はまったく予想できなかった」と内覧会時の感想を語っている。
[https://artscape.jp/report/review/10156803_1735.html]
- ※8 両者の意見は 2019 年 12 月 18 日愛知県庁で開催された第 3 回検討委員会で配付された「参考資料 1 芸術監督からの意見」で全文を読むことができる。
[https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/268580_935077_misc.pdf]

Ⅲ 開催概要

開催目的

- ・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。
- ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。
- ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。

名称

あいちトリエンナーレ 2019/Aichi Triennale 2019

テーマ

情の時代
Taming Y/Our Passion

芸術監督

津田 大介（ジャーナリスト／メディア・アクティビスト）

会期

2019年（令和元年）8月1日（木）～10月14日（月・祝） [75日間]

主な会場

- ・愛知芸術文化センター
- ・名古屋市美術館
- ・名古屋市内のまちなか（四間道・円頓寺）
- ・豊田市（豊田市美術館及び豊田市駅周辺）

事業展開

- ・「現代美術」を基軸としながら、演劇や音楽プログラムなどの「舞台芸術」も展開します。
- ・「まちなか」での作品展示やパフォーマンスなどを展開します。
- ・県内での「広域展開」を図ります。
- ・幅広い層を対象とした「ラーニング」を展開します。
- ・多様な主体との「連携」による事業を展開します。

主催

あいちトリエンナーレ実行委員会

企画概要

現代美術

■国際現代美術展

- ・国内外の 66 組のアーティスト・団体の新作を含む作品を展示し、最先端の現代美術を紹介した。
- ・愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターを中心に、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか（四間道・円頓寺）、豊田市（豊田市美術館及び豊田市駅周辺）での作品展示など、広域に展開した。

■映像プログラム

- ・国内外のアーティスト・団体 14 組による映画作品 15 本（日本初上映作品 3 本、新作 1 本を含む）を、9 月 15 日～9 月 29 日にかけて、愛知芸術文化センター アートスペース A にて上映した。上映期間中、映画監督や作品に関連するゲストを招き、トークイベントを実施し、作品の魅力などを伝えた。また、10 月 8、9 日にはシネマスコーレでも上映した。
- ・アートスペース A での上映期間に先行して、8 月 9 日にミッドランドスクエア シネマを会場として特別オールナイト上映を開催した。特別に選定された現代アメリカ映画作品 3 本のほか、日本初上映作品 2 本を先行して上映した。

舞台芸術

■パフォーミングアーツ

- ・国内外の先鋭的な演劇などの作品を、愛知県芸術劇場を中心に名古屋市内及び豊田市内で 14 演目上演した。日本初演の海外作品、国内新作のほか、「エクステンション企画」と題し、国際現代美術展の参加アーティストによるレクチャー形式のパフォーマンスや参加型プロジェクトなどを実施した。
- ・複数演目を集中的に上演するパフォーミングアーツ・フォーカス期間（8 月 2 日～4 日、9 月 5 日～8 日、10 月 11 日～14 日）を設定し、国内外から集まった演者と観客、美術と演劇、劇場と都市空間を横断するプログラムを複合的に展開した。

■音楽プログラム

- ・ロックやポップスなどのポピュラーミュージックを新たなプログラムとして加え、6 企画のライブパフォーマンスなどを通し、その魅力を伝えた。
- ・愛知芸術文化センターでは、愛知県芸術劇場大ホールで 2 組の公演を開催するほか、複合的なフェスイベント『あいちトリエンナーレ 2019 MUSIC & ARTS FESTIVAL』を 9 月 14 日に開催した。
- ・四間道・円頓寺では、日替わりで様々なアーティストが演奏する『円頓寺デイリーライブ』などを展開した。

ラーニング

来場者の相互的な学びの場を目指した活動を展開した。

■アート・プレイグラウンド

- ・みんなで創造性を発揮する場所が「アート・プレイグラウンド」である。テーマが異なる5拠点の「アート・プレイグラウンド」で来場者のクリエイティブな活動をサポートした。

**あそぶ
PLAY** アーティスト派遣事業の一環として遠藤幹子・日比野克彦とともに「ダンボール研究」を進めてきた子どもたちと一緒に、ダンボールを使った公園をつくった。会期中、来場者はただ遊ぶだけではなく、自らもアイデアを出したり手を動かしたりして、どんどん公園の様子を変えていった。
会場 | 愛知芸術文化センター 8階J室

**はなす
TALK** アートについて「誰かと話したい!」ができる場所。思考をすること自体を楽しみ、自分の考えと誰かの考えが会うことで、さらに考えや思いが広がっていくことのおもしろさを体験した。「トリエンナーレスクール」(2017年度より実施)は、カタチを変えて実施した。
会場 | 愛知芸術文化センター 8階ロビー

**つくる
CREATE** つくることのプロセスを体験する場所。昔ながらの道具から新しい技術まで、様々なものを使って、何かをつくりだすことの楽しさ、その過程を知る機会を創出した。
会場 | 名古屋市美術館 地下1階 常設展示室3

**もてなす
INTERACT** 「四間道・円頓寺名物開発研究室」を開設。四間道・円頓寺の商店街の人々、地域の人々、来場者とまちの“名物”を考え、実際に商品化も目指した。
会場 | 四間道・円頓寺 なごのステーション

**しらせる
OUTREACH** 発信することを体験する場所。ラジオやZINE、TシャツやSNSなど、様々な媒体を使って、自分の考えをどのように伝えていくかを考えて実現した。
会場 | 豊田市美術館 ワークショップルーム

■ボランティア活動

- ・あいちトリエンナーレは、1,200名を超えるボランティア登録者によって支えられている。対話型アート鑑賞を軸とした新たな研修内容によって、アートの専門知識が無くても楽しめる場を整えた。更に専門研修を経たガイドボランティアによる鑑賞ツアーも実施した。

○テーマ

情の時代

Taming Y/Our Passion

○コンセプト

「政治は可能性の芸術である」 ---- ドイツを代表する政治家・ビスマルクの言葉だ。ゴルバチョフや丸山眞男など、後世の政治家や政治学者が積極的に引用し、政治というものの本質を一言で表現したものとして定着している。ビスマルクはその生涯において同様の発言を繰り返しており、「政治は科学 (science) ではなく、術 (art) である」という国会でのスピーチも記録に残っている。

政治評論家の森田実は、この言葉を「政治は科学的合理性だけでは理解できるものではなく、いわば芸術の領域に含まれるような直観を備えることが大切である」「政治は理屈のみで考えるものではなく、芸術とも根を同じくするもの」と解説する。

アート (art) の語源は、ラテン語のアルス (ars) にあると言われている。アルスはギリシア語のテクネーに相当し、したがって「アート」という言葉も初期近代までは「古典に基づいた教養や作法を駆使する技芸 (ars)」一般を指していた。

ビスマルクの「術」もこれに近い意味であろう。「アート」という単語がすなわち「芸術」や「美術」という意味に変容していくのは 19 世紀以降の話である。ビスマルクの言葉に象徴されるように、政治は「民衆の納得と同意を獲得する技芸」と定義されるが、それは語源的に「アート」が元々「政治を対象を含む一群の学芸や技芸」として理解されていたところが大きい。



言葉は、時代の変遷とともに変容する。

現在、世界は共通の悩みを抱えている。テロの頻発、国内労働者の雇用削減、治安や生活苦への不安。欧米では難民や移民への忌避感がかつてないほどに高まり、2016年にはイギリスがEUからの離脱を決定。アメリカでは自国第一政策を前面に掲げるトランプ大統領が選出され、ここ日本でも近年は排外主義を隠さない言説の勢いが増している。源泉にあるのは不安だ。先行きがわからないという不安。安全が脅かされ、危険に晒されるのではないのかという不安。

近代以降、どこまでも開かれ、つながっていくことへの渴望がグローバリズムを発展させた。しかしその一方で、ひたすらに閉じて安心したいという反動が今日のナショナリズムの高まりを支えている。両者の衝突が分断を決定的なものにし、格差は拡大し続ける。

情報が多過ぎることも災いしている。われわれの「感情」は、日々さまざまな手段で入手する情報によって揺り動かされる。視聴率や部数を稼ぐために不安を煽り、正義感を焚きつけるマスメディアから、対立相手を攻撃するためであれば誤情報を拡散することも厭わないソーシャルメディアまで、多くの情報が人々を動揺させることを目的として発信されている。

複雑な社会課題を熟議によって合意形成していくのではなく、一つのわかりやすい解答を提示する政治家に支持が集まる状況も同じである。近年、選挙に勝つことだけを目的にしたデータ至上主義の政治が台頭したことで、かつての人文主義的な教養や技芸と深く結びついた統治技術（ars）はすっかり廃れてしまった。

厄介なことに、「情報」によって一度「評価」された感情は、変えることが難しい。イタリアのIMTルッカ高等研究所の計算社会学者ウォルター・クアトロッキらの調査結果によると、虚偽の情報を基に作られているウェブサイトの読者が、その虚偽を暴く情報に接する----「事実」を突きつけられると、驚くべきことにそのウェブサイトを読み続ける確率が3割も高まるという。イエール大学のデイビッド・ランドらも同様の調査結果を発表している。

「事実（fact）」よりも対象を信じたい感情の方が優先されるのは、事実を積み重ねていっても決して「真実（truth）」にはならないからだ。それらは本来、切り分けて考えなければいけない。全ての問題を対立軸で捉えるのも誤りである。この世に存在するほとんどの事柄はグレーで、シロとクロにはっきり切り分けることができるのは全体から見てほんのわずかだ。



『漢字源 改訂第五版』によると、「情」という漢字には「感覚によっておこる心の動き（→感情、情動）」、「本当のこと・本当の姿（→実情、情報）」、「人情・思いやり（→なさけ）」という、主に3種類の意味がある。

2015年、内戦が続くシリアから大量に押し寄せる難民申請者を「感情」で拒否する動きが大きくなっていった欧州各国の世論を変えたのは、3歳のシリア難民の少年が溺死した姿を捉えた1枚の写真だった。この写真をきっかけに、ドイツとフランスは連名で難民受け入れの新たな仕組

みを EU に提案し、続いてイギリスもそれまでの政策を転換して難民の受け入れを表明した。欧州を埋め尽くしていた「情報」によって作られた不安を塗り替えたのは、人間がもつ「情」の中でもっとも早く表出するプリミティブな「連帯」や「他者への想像力」ではなかったか。

世界を対立軸で解釈することはたやすい。「わからない」ことは人を不安にさせる。理解できないことに人は耐えることができない。苦難が忍耐を、忍耐が練達を、練達が希望をもたらすことを知りつつ、その手段を取ることをハナから諦め、本来はグレーであるものをシロ・クロはつきり決めつけて処理した方が合理的だと考える人々が増えた。

イアン・ハッキングは著書『偶然を飼いならす：The Taming of Chance』で、19 世紀以降の近代社会において、統計学が誕生し、人間を集団----動物の群れのように効率よく管理する仕組みとともに発展していく様を、フーコーの「生権力」の概念を援用しながら巧みに描いた。21 世紀の社会はまさに延長線上にある。われわれは、権力によって、あるいはメディアによって、動物のように管理されている。

しかし、それでも人間は動物ではない。人間は、たとえ守りたい伝統や理念が異なっても、合理的な選択ではなくても、困難に直面している他者に対し、とっさに手を差しのべ、連帯することができる生き物である。いま人類が直面している問題の原因は「情」にあるが、それを打ち破ることができるのもまた「情」なのだ。

われわれは、情によって情を飼いならす (tame する) 技 (ars) を身につけなければならない。それこそが本来の「アート」ではなかったか。アートはこの世界に存在するありとあらゆるものを取り上げることができる。数が大きいものが勝つ合理的意思決定の世界からわれわれを解放し、グレーでモザイク様の社会を、シロとクロに単純化する思考を嫌う。

近代以降、日本のものづくり産業 (ars) をリードし続けた愛知という地域は、都市であり地方であり、「普通の日本人」だと自認する人々が暮らす非凡な社会である。ナショナリズムとグローバリズム、エリート主義と反知性主義、普遍主義と相対主義、理想主義と現実主義、都市と地方、高齢者と若者----われわれが見失ったアート本来の領域を取り戻す舞台は整った。

あいちトリエンナーレ 2019 芸術監督

津田大介

○会場周辺図



交通機関のご案内

鉄道利用の場合 東京から | 東京駅 ————— 名古屋駅 (JR東海道新幹線「のぞみ」利用・約1時間40分)
 大阪から | 新大阪駅 ————— 名古屋駅 (JR東海道新幹線「のぞみ」利用・約50分)

航空機利用の場合 各空港 → 中部国際空港セントレア ——— 名古屋駅 (名鉄「ミュースカイ」利用・約28分)
 各空港 → 県営名古屋空港 ————— 名古屋駅 (あおい交通の空港バス利用・約30分)

【名古屋駅から各会場までのアクセス】

愛知芸術文化センター | 名古屋駅 ——— 栄駅 (地下鉄東山線・約5分) ——— 徒歩約3分

名古屋市美術館 | 名古屋駅 ——— 伏見駅 (地下鉄東山線・約3分) ——— 徒歩約8分

四間道・円頓寺 | 名古屋駅 ——— 国際センター駅 (地下鉄桜通線・約1分) ——— 徒歩約5分
 名古屋駅 ————— 徒歩約15分

豊田市美術館 | 名古屋駅 — 伏見駅 (地下鉄東山線・約3分) — 豊田市駅 (地下鉄鶴舞線・名鉄豊田線(直結)・約50分) — 徒歩約15分

○主な会場

愛知芸術文化センター

Aichi Arts Center

愛知県美術館と、大ホール、コンサートホール、小ホールを備えた愛知県芸術劇場などからなる日本屈指の総合芸術文化施設。1992年開館。



名古屋市美術館

Nagoya City Art Museum

都心の緑豊かな白川公園に建つ美術館。設計は黒川紀章。モディリアーニの「おさげ髪の少女」をはじめ約6,300点の作品を収蔵。これらを展示する「常設展」と随時開催する「特別展」がある。1988年開館。



四間道・円頓寺

Shikemichi and Endoji

名古屋駅と名古屋城のほぼ中間に位置し、下町の情緒を残す町並みのある地区。「四間道町並み保存地区」の中心的存在で江戸時代から続く伊藤家住宅(県指定文化財)をはじめ、土蔵や伝統的な建造物が現在も残る四間道周辺や、東西約500メートルにわたるアーケードの下に飲食店や日用品店が軒を連ねる「円頓寺商店街」「円頓寺本町商店街」沿いの建物などで展示。



豊田市美術館 豊田市駅周辺

Toyota Municipal
Museum of Art and
Venues in the Vicinity
of Toyotashi Station

愛知県のほぼ中央に位置する人口約42万人の中核市。ものづくりの都市として知られる一方、四季折々の自然や田園地帯が広がる緑のまちとしての顔を併せ持つ。美術館建築で名高い谷口吉生の設計の豊田市美術館(1995年開館)、大正期の代表的な町屋建築の元料理旅館「喜楽亭」(国登録有形文化財)のほか、名鉄豊田市駅と愛知環状鉄道新豊田駅の周辺で展示。なお、ラグビーワールドカップ2019™日本大会では、日本代表戦などの試合が豊田スタジアムで行われた。また豊田市美術館ではクリムト展が同時開催された。



IV 企画体制

■芸術監督

津田 大介 TSUDA Daisuke

1973 年生まれ。東京都出身。早稲田大学文学学術院教授。メディアとジャーナリズム、著作権、コンテンツビジネス、表現の自由などを専門に執筆活動を行う。近年は地域課題の解決や社会起業、テクノロジーが社会をどのように変えるかをテーマに取材を続ける。

主著に、『情報戦争を生き抜く』（朝日新書）、『ウェブで政治を動かす！』（朝日新書）、『Twitter 社会論』（洋泉社新書 y）、『動員の革命』（中公新書ラクレ）、『情報の呼吸法』（朝日出版社）、『「ポスト真実」の時代』（日比嘉高氏との共著・祥伝社）など。世界経済フォーラム（ダボス会議）「ヤング・グローバル・リーダーズ 2013」選出。第 17 回メディア芸術祭 エンターテインメント部門 新人賞受賞。



■企画アドバイザー

東 浩紀（2019 年 8 月 14 日辞任）

■チーフ・キュレーター（学芸統括）

飯田志保子

■キュレーター

能勢陽子、ペドロ・レイエス、鷲田めるろ（以上、国際現代美術展）

杉原永純（映像プログラム）

相馬千秋（パフォーミングアーツ）

大山卓也（音楽プログラム）

会田大也（ラーニング）

■コンサルタント

ハウ・ハンルウ

■公式デザイナー

前田 豊

■プロジェクト・マネージャー（学芸担当）

塩津青夏

■芸術監督補佐

岩本室佳

国際現代美術展

■アシスタント・キュレーター

黒田和士、中村史子、由良濯、石川達紘、小林麻衣子、
三木 茜、山名祭里、茂原奈保子、本多康紀、西 翼

■コーディネーター

奥田浩貴、佐藤 駿、鈴木一絵、大六野礼子

■アーキテクト

栗本真彦、丸田知明、山岸 綾

■エンジニア

金築浩史

■テクニカル・コーディネーター

小川智彦

■テクニカル

神坂知春

■プロジェクト・コーディネーター

林 育正

映像プログラム

■アシスタント・キュレーター

清水 裕

パフォーマンスアーツ

■アシスタント・キュレーター

藤井さゆり

■コーディネーター

清水 翼、村松里実

■テクニカル・コーディネーター

尾崎 聡

■キュラトリアル・アシスタント

加藤 愛、山本麦子

音楽プログラム

■コーディネーター

田島太陽、土井新二郎

ラーニング

■コーディネーター

野田智子（ラーニングセクション・マネジメント担当）
近藤令子、谷 薫、松村淳子、山口伊生人、山口麻里菜
阿部美里、後藤祐希

■アート・プレイグラウンド・ファシリテーター

遠藤 周、小瀧美緒、半澤奈波、宮田明日鹿、山本千愛

広報

平 昌子、望月章宏、犬飼貴俊
有田泰子、出会桃子、小田鮎子、岡崎里美

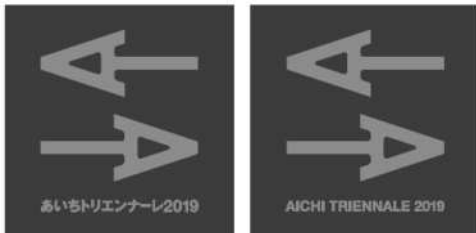
公式デザイン

平賀美沙子、安井 彩、長谷部宥美、岩本三穂（以上、氏デザイン）
石井喜博（temple）
伊藤敦志（AIRS）
森 葉月（株式会社クーグート）
長尾訓寿（長尾デザイン）
谷野大輔（有限会社ノクトルーノ）
鷺尾友公（WASHINGTON STUDIO）

エディター

福田千里

○メインビジュアル



<デザイナー>

前田豊

<デザインコンセプト>

「あいちトリエンナーレ 2010」で設定されたシンボルを使って、今回のテーマの根底にある、「対立を越えて多様な世界を行き来し、連帯してゆく人間の力」を表現しました。違う方向を向く矢印は、テーマに含まれた、揺れ動く「感情」や、「your」と「our」という合わせ鏡のような関係も表しています。

V 展開概要

1 現代美術

(1) 国際現代美術展

- ・国内外 66 組のアーティスト・団体による、「情の時代」というテーマに沿った世界各地の社会問題をジャーナリスティックな視点で切り込む作品が数多く取り上げられた。
- ・会場は愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターを中心に、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか（四間道・円頓寺）、豊田市美術館及び豊田市内のまちなか（豊田市駅周辺）など広域に展開した。

■ 展示面積

会場	展示面積	備考
愛知芸術文化センター	7,730 m ²	
名古屋市美術館	3,911 m ²	屋外の展示を含む
四間道・円頓寺	4,847 m ²	
豊田市美術館及び豊田市駅周辺	3,545 m ²	
計	20,033 m ²	

■ 参加アーティスト一覧（アルファベット順）

	アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生年	出身地	会場
1	表現の不自由展・その後	After "Freedom of Expression?"	-	日本	芸文
2	洪松明(ソンミン・アン) & ジェイソン・メイリング	Song-Ming ANG and Jason MALING	2017 結成	シンガポール	四/円
3	青木 美紅	AOKI Miku	1996	日本	名市美
4	ワリード・ベシュティ	Walead BESHTY	1976	英国	芸文
5	キャンディス・ブレイツ	Candice BREITZ	1972	南アフリカ	芸文
6	ジェームズ・ブライドル	James BRIDLE	1980	英国	芸文
7	タニア・ブルゲラ	Tania BRUGUERA	1968	キューバ	芸文
8	文谷 有佳里	BUNYA Yukari	1985	日本	芸文
9	ミリアム・カーン	Miriam CAHN	1949	スイス	芸文
10	ピア・カミル	Pia CAMIL	1980	メキシコ	芸文
11	CIR(調査報道センター)	The Center for Investigative Reporting	1977 設立	米国	芸文
12	ヘザー・デューイ=ハグボーク	Heather DEWEY-HAGBORG	1982	米国	芸文
13	dividual inc.	dividual inc.	2008 設立	日本	芸文
14	毒山 凡太郎	DOKUYAMA Bontaro	1984	日本	四/円
15	越後 正志	ECHIGO Masashi	1982	日本	四/円
16	アイシェ・エルクメン	Ayşe ERKMEN	1949	トルコ	四/円
17	エキソニモ	exonemo	1996 結成	日本	芸文
18	シール・フロイヤー	Ceal FLOYER	1968	英国籍	芸文・ 豊市美
19	藤井 光	FUJII Hikaru	1976	日本	名市美
20	藤原 葵	FUJIWARA Aoi	1994	日本	芸文
21	レジーナ・ホセ・ガリンド	Regina José GALINDO	1974	グアテマラ	芸文
22	ドラ・ガルシア	Dora GARCÍA	1965	スペイン	芸文・ 名市美
23	葛宇路(グウ・ユルー)	GE Yulu	1990	中国	四/円
24	ホー・ツーニエン	HO Tzu Nyen	1976	シンガポール	豊田市駅
25	アンナ・フラチョヴァー	Anna HULAČOVÁ	1984	チェコスロバキア (現チェコ)	豊市美

	アーティスト名(日本語)	アーティスト名(英語)	生年	出身地	会場
26	今村 洋平	IMAMURA Yohei	1978	日本	芸文
27	今津 景	IMAZU Kei	1980	日本	名市美
28	石場 文子	ISHIBA Ayako	1991	日本	芸文
29	伊藤 ガビン	ITO Gabin	1963	日本	芸文
30	岩崎 貴宏	IWASAKI Takahiro	1975	日本	四/円
31	加藤 翼	KATO Tsubasa	1984	日本	芸文
32	キュンチョメ	Kyun-Chome	2011 結成	日本	四/円
33	梁志和(リョン・チーウオー)+黄志 恆(サラ・ウオン)	LEUNG Chi Wo + Sara WONG	1992 結成	香港	四/円
34	イム・ミスク	LIM Minouk	1968	韓国	芸文
35	アマンダ・マルティネス	Amanda MARTINEZ	1988	米国	芸文
36	クラウディア・マルティネス・ガライ	Claudia MARTÍNEZ GARAY	1983	ペルー	芸文
37	榎本 佳子	MASUMOTO Keiko	1982	日本	名市美
38	モニカ・メイヤー	Mónica MAYER	1954	メキシコ	名市美
39	村山 悟郎	MURAYAMA Goro	1983	日本	芸文
40	永田 康祐	NAGATA Kosuke	1990	日本	芸文
41	レニエール・レイバ・ノボ	Reynier Leyva NOVO	1983	キューバ	豊市美
42	小田原 のどか	ODAWARA Nodoka	1985	日本	豊田市駅
43	パンクロック・スウラップ	Pangrok Sulap	2010 結成	マレーシア	芸文
44	パク・チャンキョン	PARK Chan-kyong	1965	韓国	芸文
45	パスカレハンドロ(アレハンドロ・ホ ドロフスキー& パスカル・モンタンドン=ホドロフス キー)	pascALEjandro(Alejandro JODOROWSKY and Pascale MONTANDON- JODOROWSKY)	-	(拠点:フランス)	名市美
46	タニア・ペレス・コルドヴァ	Tania PÉREZ CÓRDOVA	1979	メキシコ	名市美
47	スチュアート・リングホルト	Stuart RINGHOLT	1971	オーストラリア	芸文
48	ウーゴ・ロンディノーネ	Ugo RONDINONE	1964	スイス	芸文
49	澤田 華	SAWADA Hana	1990	日本	芸文
50	Sholim	Sholim	1985	セルビア	名市美
51	タリン・サイモン	Taryn SIMON	1975	米国	豊市美
52	スタジオ・ドリフト	Studio Drift	2007 設立	オランダ	豊市美
53	菅 俊一	SUGE Syunichi	1980	日本	芸文
54	高嶺 格	TAKAMINE Tadasu	1968	日本	豊市美・ 豊田市駅
55	田中 功起	TANAKA Koki	1975	日本	芸文
56	ハビエル・テジェス	Javier TÉLLEZ	1969	ベネズエラ	芸文
57	バルテレミ・トグォ	Barthélemy TOGUO	1967	カメルーン	名市美
58	トモトシ	tomotosi	1983	日本	豊田市駅
59	津田 道子	TSUDA Michiko	1980	日本	四/円
60	碓井 ゆい	USUI Yui	1980	日本	名市美
61	和田 唯奈(しんかぞく)	WADA Yuina (Shinkazoku)	1989	日本	豊田市駅
62	鷲尾 友公	WASHIO Tomoyuki	1977	日本	四/円
63	アンナ・ヴィット	Anna WITT	1981	ドイツ	芸文・ 豊田市駅
64	袁廣鳴(ユエン・グァンミン)	YUAN Goang-Ming	1965	台湾	芸文
65	弓指 寛治	YUMISASHI Kanji	1986	日本	四/円
66	カタリーナ・ズィディエーラー	Katarina ZDJELAR	1974	ユーゴスラビア (現セルビア)	名市美

芸文=愛知芸術文化センター/名市美=名古屋美術館/四/円=四間道・円頓寺/豊市美=豊田市美術館/
豊田市駅=豊田市駅周辺

(2) 映像プログラム

- ・テーマである「情の時代」に沿って、国内外のアーティスト・団体 14 組による 15 作品を選定し、愛知芸術文化センターを中心に上映を行った。また、ミッドランドスクエア シネマでは、現代アメリカ映画 3 作品の上映も行った。

■スケジュール

愛知県芸術文化センター12階 アートスペースA

上映日	上映作品等	入場者数	上映日	上映作品等	入場者数
9.15(日)	『コンゴ裁判』	155人	9.23 (月・祝)	『夜明け』 ※8	162人
	『空に聞く』 ※1	197人		『Grand Bouquet』 (3回上映)	263人
	『Grand Bouquet』 ※2	220人		『ホドロフスキーのサイコマジック』	228人
9.16 (月・祝)	『Grand Bouquet』 (3回上映)	175人	9.24(火)	『愛と法』	75人
	『ウロボロス』	162人		『夜明け』	84人
9.17(火)	『ホドロフスキーのサイコマジック』 ※3	220人		『ハイ・ライフ』	88人
	『典座 -TENZO-』 ※4	220人	『さよならテレビ』	172人	
9.18(水)	『ウロボロス』	91人	9.25(水)	『民族の祭典』	102人
	『共犯者たち』	107人	『美の祭典』	95人	
9.19(木)	『デトロイト』	68人	9.26(木)	『デトロイト』	50人
	『民族の祭典』	69人	9.27(金)	『A Day in the Aichi』 ※9	113人
9.20(金)	『美の祭典』	67人	9.28(土)	『さよならテレビ』	184人
	『ホドロフスキーのサイコマジック』	227人		『空に聞く』	118人
9.21(土)	『空に聞く』	64人		『Grand Bouquet』 (3回上映)	224人
9.22(日)	『愛と法』 ※5	197人	『ハイ・ライフ』	127人	
	『さよならテレビ』 ※6	220人	9.29(日)	『A Day in the Aichi』 ※10	214人
	『共犯者たち』 ※7	194人	計	4,952人	

上映後トークイベント

- ※1 小森はるか (監督)、津田大介
- ※2 吉開菜央 (監督)、津田大介
- ※3 岡村靖幸 (音楽家)、津田大介
- ※4 富田克也 (監督)、青山俊董 (愛知専門尼僧堂堂長/出演)、河口智賢 (主演)、津田大介
- ※5 戸田ひかる (監督)、津田大介
- ※6 土方宏史 (ディレクター)、阿武野勝彦 (プロデューサー)、津田大介
- ※7 町山智浩 (映画評論家)、津田大介
- ※8 広瀬奈々子 (監督)、津田大介
- ※9 カンパニー松尾 (監督)
- ※10 カンパニー松尾、津田大介

ミッドランドスクエア シネマ (特別オールナイト上映)

上映日時	上映作品等	入場者数
8.9(金) 21時~ 8.10(土) 6時	『Grand Bouquet』	143人
	『典座 -TENZO-』	
	[トークイベント] 吉開菜央、富田克也	
	[トークイベント] 津田大介	
	現代アメリカ映画 3作品	
	『グレイテスト・ショーマン』 / マイケル・グレイシー	
	『search/サーチ』 / アニーシュ・チャガンティ	
	『メッセージ』 / ドウニ・ヴィルヌーヴ	

シネマスコーレ

上映日	上映作品等	入場者数
10.8(火)	『A Day in the Aichi』 + [トークイベント] カンパニー松尾	72人
10.9(水)	『A Day in the Aichi』 + [トークイベント] カンパニー松尾	54人
	計	126人

■参加アーティスト・団体

	名前	生年	出身地 (国)	上映作品
1	バスマ・アルシャリフ	1983年	クウェート	『ウロボロス』2017年
2	キャスリン・ビグロー	1951年	アメリカ	『デトロイト』2017年
3	チェ・スンホ	1961年	韓国	『共犯者たち』2017年
4	カンパニー松尾	1965年	愛知県	『A Day in the Aichi』2019年(新作)
5	クレール・ドゥニ	1946年	フランス	『ハイ・ライフ』2018年
6	広瀬奈々子	1987年	神奈川県	『夜明け』2019年
7	アレハンドロ・ホドロフスキー	1929年	チリ	『ホドロフスキーのサイコマジック』2019年 (日本初上映)
8	小森はるか	1989年	静岡県	『空に聞く』2018年
9	ミロ・ラウ	1977年	スイス	『コンゴ裁判』2017年
10	レニ・リーフェンシュタール	1902年	ドイツ	『民族の祭典』1938年 『美の祭典』1938年
11	戸田ひかる	1983年	神奈川県	『愛と法』2017年
12	東海テレビ放送	1958年 開局	愛知県	『さよならテレビ』2018年
13	富田克也	1972年	山梨県	『典座 -TENZO-』2019年(日本初上映)
14	吉開菜央	1987年	山口県	『Grand Bouquet』2019年(日本初上映)

※ミッドランドスクエア シネマで上映した現代アメリカ映画3作品は除く。

(3) 主なイベント等

■モニカ・メイヤー《The Clothesline》公開レクチャー、ワークショップ

開催日	①6月24日(月) ②6月25日(火)～28日(金)
場所	①名古屋大学 アジア法交流館 2F AC フォーラム ②名古屋大学 ジェンダー・リサーチ・ライブラリ 2F レクチャールーム
内容	①公開レクチャー モニカ・メイヤーが《The Clothesline》を制作した背景や、アートとフェミニズムがどのように変化してきたのか、40年に及ぶ活動をもとにレクチャーを行った。登壇者をまじえ、女性やマイノリティを取り巻く日本の状況についてディスカッションを通じ思考を深めた。 【進行役】 長山智香子(名古屋大学大学院人文学研究科准教授) 【講師】 モニカ・メイヤー(あいちトリエンナーレ2019参加アーティスト) 【登壇者】 嶋田美子(アーティスト) 馬然(マー・ラン)(名古屋大学大学院人文学研究科准教授) 津田大介(あいちトリエンナーレ2019芸術監督/ジャーナリスト/メディア・アクティビスト) ②ワークショップ モニカ・メイヤーとともに、フィールドワークをしながら愛知版《The Clothesline》の制作に携わるワークショップを行った。
参加者数	① 114人 ② 延べ53人

■オープニングイベント

開催日	内容	実施場所
7月31日(水)	内覧会	全会場
	プレスツアー	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、四間道・円頓寺
	記者会見	愛知芸術文化センター12階 アートスペースA
	オープニングレセプション	名古屋東急ホテル3階
8月1日(木)	開幕セレモニー	愛知芸術文化センター地下2階 フォーラム2
	プレスツアー	豊田市美術館及び豊田市駅周辺

■アーティストトーク

開催日	内容	実施場所
8月2日(金)	【進行役】 ペドロ・レイエス(あいちトリエンナーレ2019キュレーター) 【登壇者】 ピア・カミル(あいちトリエンナーレ2019参加アーティスト) ハビエル・テジェス(あいちトリエンナーレ2019参加アーティスト) クラウディア・マルティネス・ガライ(あいちトリエンナーレ2019参加アーティスト)	愛知芸術文化センター 各展示室内
	【進行役】 ペドロ・レイエス(あいちトリエンナーレ2019キュレーター) 【登壇者】 タニア・ブルゲラ(あいちトリエンナーレ2019参加アーティスト) レジーナ・ホセ・ガリンド(あいちトリエンナーレ2019参加アーティスト)	愛知芸術文化センター 12階 アートスペースG
8月3日(土)	【進行役】 能勢陽子(あいちトリエンナーレ2019キュレーター) 【登壇者】 アンナ・ヴィット(あいちトリエンナーレ2019参加アーティスト)	豊田市民ギャラリー

■キュレーターによるハイライトツアー

開催日	内容	実施場所
8月3日(土)	【進行役】 飯田志保子(あいちトリエンナーレ 2019 チーフ・キュレーター(学芸統括)) ペドロ・レイエス(あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター) 鷲田めるろ(あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター)	愛知芸術文化センター 各展示室内
8月4日(日)	【進行役】 飯田志保子(あいちトリエンナーレ 2019 チーフ・キュレーター(学芸統括)) ペドロ・レイエス(あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター)	名古屋市美術館
	【進行役】 能勢陽子(あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター)	豊田市駅周辺 豊田市美術館

■洪松明(ソニン・アン) & ジェyson・メイリング『世界を変える歌』ワークショップ

開催日	9月6日(金)~12日(木)	
場所	spazio rita(名古屋市中区栄5丁目26-39 GS栄ビル B-1)	
内容	<p>「あいちトリエンナーレ 2019」参加アーティスト、洪松明(ソニン・アン) & ジェyson・メイリングと一般参加者が協働して『世界を変える歌』の制作に携わるワークショップを実施し、9月14日(土)に愛知芸術文化センターで開催された MUSIC&ARTS FESTIVAL でパフォーマンスを行った。</p> <p>【ゲスト】 Ramza(名古屋を拠点とする Beat maker、Collage 作家) テライショウタ(名古屋を拠点とするシンガーソングライター、ハードコアパンクバンド“NICE VIEW”のボーカルとギターを担当)</p>	
参加者数	延べ81人	

■トークイベント 小田原のどか「情の時代の「公共・彫刻」をめぐって」

開催日	9月13日(金)	
場所	豊田産業文化センター小ホール	
内容	<p>近代以降、モニュメントは「私たち」を可視化するものとして、為政者に用いられてきた。ソーシャルネットワークサービスの定着によって世論形成が変化し、公共という概念すらも更新を迫られている現代の日本において、「復興」のモニュメントをどのように語ることができるのか。長崎、広島、そして福島。情の時代の「公共・彫刻」のあり方に、記念碑文化と関わりの深い愛知の地から迫った。</p> <p>【登壇者】 小田原のどか(あいちトリエンナーレ 2019 参加アーティスト/彫刻研究者) 小松 理虔(文筆家/ローカル・アクティビスト) 津田大介(あいちトリエンナーレ 2019 芸術監督 ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)</p>	
参加者数	123人	

■国際フォーラム「『情の時代』における表現の自由と芸術」

開催日	10月5日(土)・6日(日)
場所	愛知芸術文化センター12階 アートスペースA
内容	<p>あいちトリエンナーレのあり方検討委員会とあいちトリエンナーレ実行委員会が、「あいちトリエンナーレ2019」が直面している「表現の自由」に関する問題について、「表現の自由」が問われた世界的事例を紹介しながら議論するとともに、今回のトリエンナーレが目指したものや、今後に向けた課題などについて話し合った。</p> <p>【登壇者等】 総合司会：林 道郎（上智大学国際教養学部教授） <1日目> 10月5日(土) ≪第1部 プレゼンテーション≫ 山梨俊夫（独立行政法人国立美術館 国立国際美術館長／あいちトリエンナーレのあり方検討委員会座長） 曾我部真裕（京都大学大学院法学研究科教授／あいちトリエンナーレのあり方検討委員会委員） 横大道聡（慶應義塾大学大学院法務研究科教授） デビッド・マックニール（『エコノミスト』誌ジャーナリスト） ≪第2部 ディスカッション≫ 津田大介（あいちトリエンナーレ2019 芸術監督） ペドロ・レイエス（あいちトリエンナーレ2019 キュレーター） モニカ・メイヤー（あいちトリエンナーレ2019 参加アーティスト） 小泉明郎（あいちトリエンナーレ2019 参加アーティスト） 藤井光（あいちトリエンナーレ2019 参加アーティスト） アライ=ヒロユキ（「表現の不自由展」実行委員会） 横大道聡（慶應義塾大学大学院法務研究科教授） デビッド・マックニール（『エコノミスト』誌ジャーナリスト） <2日目> 10月6日(日) ≪第1部 プレゼンテーション≫ 津田大介（あいちトリエンナーレ2019 芸術監督） 飯田志保子（あいちトリエンナーレ2019 チーフ・キュレーター（学芸統括）） 碓井ゆい（あいちトリエンナーレ2019 参加アーティスト） 相馬千秋（あいちトリエンナーレ2019 キュレーター（パフォーミングアーツ）） 高山明（Port B）（あいちトリエンナーレ2019 参加アーティスト） ヨルグ・ヘイザー（釜山ビエンナーレ2018 キュレーター） クアウテモック・メディナ（第12回上海ビエンナーレ2018 チーフ・キュレーター） オン・ジョリオン（インディペンデント・キュレーター） ≪第2部 ラウンドテーブル・ディスカッション≫ ヨルグ・ヘイザー（釜山ビエンナーレ2018 キュレーター） クアウテモック・メディナ（第12回上海ビエンナーレ2018 チーフ・キュレーター） オン・ジョリオン（インディペンデント・キュレーター） 高山明（Port B）（あいちトリエンナーレ2019 参加アーティスト） 碓井ゆい（あいちトリエンナーレ2019 参加アーティスト） ペドロ・レイエス（あいちトリエンナーレ2019 キュレーター）</p>

■トークイベント「表現の不自由展・その後」～キム・ソギョン&キム・ウンソン～

開催日	10月9日(水)
場所	愛知芸術文化センター12階 アートスペースA
内容	<p>「表現の不自由展・その後」に出品された《平和の少女像》の制作者である韓国の彫刻家キム・ソギョン&キム・ウンソンと、現代の日本における表現の自由をめぐる大きな問いを投げかける「表現の不自由展」の企画者である岡本有佳に、「あいちトリエンナーレ2019」のラーニング部門のキュレーターを務める会田大也が、その制作の意図や、これまでに展示と発表が不許可になった作品の背景などをうかがった。</p> <p>【登壇者】 キム・ソギョン&キム・ウンソン（「表現の不自由展・その後」出展作家） 岡本有佳（「表現の不自由展」実行委員会） 会田大也（あいちトリエンナーレ2019 キュレーター[ラーニング]）</p>
参加者数	135人

■ トークイベント ホー・ツーニエン（参加アーティスト）×浅田彰（思想家）

展示期間	10月13日（日）
場所	豊田産業文化センター小ホール
内容	「あいちトリエンナーレ 2019」豊田市会場の旧旅館・喜楽亭で、ここにかつて宿泊した特攻隊、戦中の思想家や文化人らを中心に映像インスタレーションを展開しているシンガポールの作家ホー・ツーニエンと、思想、芸術哲学、美術、映画、建築など多岐に渡る評論活動を展開する思想家の浅田彰氏との対談を行った。 【登壇者】 ホー・ツーニエン（「あいちトリエンナーレ 2019」参加アーティスト） 浅田彰（京都造形芸術大学大学院芸術研究科 教授／大学院学術研究センター 所長）
参加者数	211人

■ トーク 「表現の不自由展・その後：世界の検閲、日本の検閲」

展示期間	10月14日（月・祝）
場所	愛知芸術文化センター12階 アートスペース A
内容	『検閲という空気』（社会評論社）のアライ=ヒロユキは日本社会の検閲状況と海外の美術表現への検閲事例、本展出品アーティストの小泉明郎は海外の政治的な表現をめぐる事情と自作の受け入れられ方の内外の違い、『《平和の少女像》はなぜ座り続けるのか』（世織書房）の岡本有佳は韓国での検閲をめぐる闘い、をそれぞれ報告し、日本と海外の検閲事例を比較紹介するなかで、共通点、異なる点を探った。また、「表現の不自由展・その後」参加作家、表現の不自由展実行委員も会場から発言した。 【登壇者】 アライ=ヒロユキ（「表現の不自由展」実行委員会） 小泉明郎（あいちトリエンナーレ 2019 と「表現の不自由展・その後」出品アーティスト） 岡本有佳（「表現の不自由展」実行委員）
参加者数	160人

(4) チケット

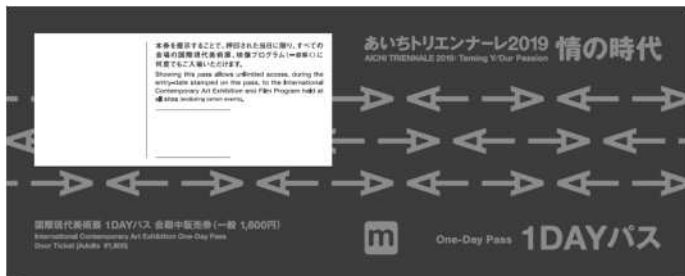
■ 国際現代美術展チケットの種類と制度

チケットの種類	制度
1DAYパス	当日に限り、各会場を何回でも観覧可能。
フリーパス	会期中、各会場を何回でも観覧可能(オリジナル手ぬぐい付き)。 ※ オリジナル手ぬぐいは、会期中、各会場のチケット販売窓口(豊田市美術館は2階インフォメーション)にて配布。
アップグレード	会期中、「1DAYパス」と「フリーパス」の差額分の負担で、「1DAYパス」から「フリーパス」へ変更できる制度(この場合、オリジナル手ぬぐいは付かない)。
クリムト展セット券	豊田会場限定で販売し、豊田会場及び豊田市美術館開催の「クリムト展」のみ観覧可能。

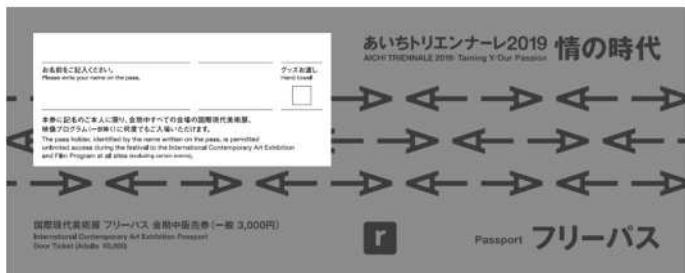
■ 国際現代美術展チケットの種類と金額

- ・中学生以下は入場無料とした。
- ・高校生は、事前に申し込んだ行事や部活動での観覧の場合、観覧日当日に限り無料とした。
- ・障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名までは、会場のチケット売り場で手帳を提示の上、観覧無料とした。

チケットの種類	区分	チケット料金		
		会期中販売券 (8月1日~10月14日)	前売券 (5月1日~7月31日)	特別先行前売券 (4月1日~4月30日)
1DAYパス	一般	1,600円	1,400円	1,100円
	大学生	1,200円	900円	700円
	高校生	600円	500円	300円
フリーパス	一般	3,000円	2,800円	2,500円
	大学生	2,300円	2,000円	1,800円
	高校生	1,100円	1,000円	800円
アップグレード	一般	—	—	1,400円
	大学生	—	—	1,100円
	高校生	—	—	500円
クリムト展セット券 (豊田会場限定)	大学生以上	2,000円	1,800円 (4月20日~7月31日)	—



1DAYパス



フリーパス

表面

2019年8月1日[木]~10月14日[月祝](75日間)
August 1 (Thursday) to October 14 (Monday, public holiday), 2019 (75 days)

愛知芸術文化センター、
名古屋市内のまちなか(西隣区・内幸町)、
豊田市(豊田市美術館及び豊田市民会館)

Aichi Arts Center,
Nagoya City Art Museum,
Nagoya City (Shimenchō and Utsunouchi),
Toyota City (Toyota Municipal Museum of Art and other venues in the vicinity of Toyostart center)

会場の場所・アクセス・観覧時間・休園日等は、
公式サイトを予めご確認ください。
For access information and hours of operation,
visit our official website.
<http://aichitriennale.jp/>



各会場は、既存の建物や施設等を活用しているため、上下移動手段が限られた状況があります。
Some venues using existing buildings and facilities so they have stair access.

●お客様は、必ず一人様一枚のみを所持してください。●お客様の払い戻し、再発行はいたしません。
●フリーパスは、団体での申込には、金額が異なります。●再発行はいたしません。

●各会場での写真・ビデオ撮影等については、会場や作品により異なります。
●展示室内での写真・ビデオ撮影等については、会場や作品により異なります。

●展示室内でのスマートフォンなどの撮影は禁止となります。
●展示室内でのスマートフォンなどの撮影は禁止となります。

●展示室内での飲食・飲酒は、会場によって異なります。●展示室内での飲食・飲酒は、会場によって異なります。

●雨天・天候の影響により観覧が中止される場合があります。
●雨天・天候の影響により観覧が中止される場合があります。

主催「愛知トリエンナーレ実行委員会」
お問い合わせ先「国際現代美術展センター」TEL: 052-202-6920 FAX: 052-202-6921

お問い合わせ先「豊田市美術館」TEL: 052-202-6920 FAX: 052-202-6921

お問い合わせ先「豊田市民会館」TEL: 052-202-6920 FAX: 052-202-6921

2 舞台芸術

(1) パフォーミングアーツ

- ・国内外の先鋭的な演劇などの作品を、愛知県芸術劇場を中心に名古屋市内及び豊田市内で14演目上演した。
- ・日本初演の海外作品、国内新作の公演のほか、「エクステンション企画」と題し、国際現代美術展の参加アーティストによるレクチャー形式のパフォーマンスや参加型プロジェクトなどを実施した。
- ・複数演目を集中的に上演するパフォーミングアーツ・フォーカス期間（8月2日～4日、9月5日～8日、10月11日～14日）を設定し、国内外から集まる演者と観客、美術と演劇、劇場と都市空間を横断するプログラムを複合的に展開した。

■ホール公演 スケジュール

公演場所	団体名等	演目	公演日	入場者数
愛知県芸術劇場 小ホール	ミロ・ラウ (IIPM) +CAMPO	『5つのやさしい小品』 (日本初演)	8月2日(金)～ 8月4日(日)	515人
	劇団うりんこ+三浦基 +クワクポリョウタ	『幸福はだれにくる』 (新作)	8月16日(金)～ 8月18日(日)	626人
	モニラ・アルカディリ	『髭の幻』(新作)	9月5日(木)～ 9月8日(日)	356人
	市原佐都子 (Q)	『バックスの信女 - ホルスタインの雌』 (新作)	10月11日(金)～ 10月14日(月・祝) ※10月12日(土) は台風19号により中止	460人
愛知県芸術劇場 大リハーサル室	高山明 (Port B)	『パブリックスピーチ・プロジェクト』 プロジェクトプレゼンテーション (新作)	8月1日(木)～ 8月2日(金)	292人
	サエボーグ	『House of L』(新作)	8月31日(土)～ 9月8日(日) ※9月2日(月)は休館	1,306人
	小泉明郎	『縛られたプロメテウス』 (新作)	10月10日(木)～ 10月14日(月・祝) ※10月12日(土) は台風19号により中止	751人
名古屋市芸術 創造センター	ネイチャー・シアター・オブ・ オクラホマ+エンクナ ップグループ	『幸福の追求』 (日本初演)	8月3日(土)～ 8月4日(日)	465人
	劇団アルテミス+ヘット・ ザウデライク・トネール	『ものがたりのものがたり』 (日本初演)	10月12日(土)～ 10月13日(日) ※10月12日(土) は台風19号により中止	315人
豊田市民文化会 館大ホール	劇団うりんこ+三浦基 +クワクポリョウタ	『幸福はだれにくる』 (新作)	9月21日(土)～ 9月22日(日)	309人
Live & Lounge Vio (名古屋市 中区)	高山明 (Port B)	『パブリックスピーチ・プロジェクト』 ライブパーティ (新作)	10月13日(日)	302人
計				5,697人

※高山明 (Port B) 『パブリックスピーチ・プロジェクト』では、8月1日(木)から10月14日(月・祝)まで、愛知芸術文化センター8階回遊歩廊で映像展示を実施。

※小泉明郎『縛られたプロメテウス』は10月13日(日)・10月14日(月・祝)に、劇団アルテミス+ヘット・ザウデライク・トネール『ものがたりのものがたり』は、10月12日(土)が台風で中止になったため、10月13日(日)に追加公演を実施。

■エクステンション

公演場所	団体名等	演目	公演日	入場者数
愛知県芸術劇場 大リハーサル室	ドラ・ガルシア	レクチャーパフォーマンス 『ロミオ』	8月3日(土)～ 8月4日(日)	299人
愛知県美術館 10階	田中功起	映像上映/アッセンブリー 『抽象・家族』	9月7日(土)	80人
豊田市美術館講堂			9月21日(土)	114人
名古屋市美術館 講堂	藤井光	レクチャーパフォーマンス /鑑賞ツアー『無情』	9月22日(日)	70人
なごのキャンパス 体育館(名古屋市 西区)	キュンチョメ	レクチャーパフォーマンス /参加型イベント 『円頓寺クリケットクラ ブ』	10月5日(土)	27人
愛知芸術文化セン ターアートスペー スA	ドミニク・チェン (dividual inc.)	レクチャーパフォーマンス 『共在言語をつくるため に』	10月12日(土)～ 10月13日(日) ※10月12日(土) は台風19号により中止	197人
計				787人

■参加アーティスト・団体

	名前	生年	出身地	公演場所
1	モニラ・アルカディリ	1983年	セネガル	愛知県芸術劇場小ホール
2	市原佐都子 (Q)	1988年	日本	愛知県芸術劇場小ホール
3	小泉明郎	1976年	日本	愛知県芸術劇場 大リハーサル室
4	ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ +エンクナップグループ	—	米国/スロベニア	名古屋市芸術創造センタ ー
5	ミロ・ラウ (IIPM) +CAMPO	—	スイス・ドイツ/ ベルギー	愛知県芸術劇場小ホール
6	サエボーグ	1981年	日本	愛知県芸術劇場 大リハーサル室
7	高山明 (Port B)	1969年	日本	愛知県芸術劇場大リハーサ ル室(プロジェクトプレゼ ンテーション)、 愛知芸術文化センター8階 回遊歩廊(映像展示)、 Live & Lounge Vio(ライ ブパーティ)
8	劇団アルテミス +ヘット・ザウデライク・トネール	—	オランダ	名古屋市芸術創造センタ ー
10	劇団うりんこ+三浦基+クワクボリョウタ	—	日本	愛知県芸術劇場小ホー ル、 豊田市民文化会館大ホー ル

※エクステンション企画へも参加したドラ・ガルシア、田中功起、藤井光、キュンチョメ、ドミニク・チェン (dividual inc.) は、国際現代美術展の参加アーティスト一覧に記載。dividual inc.については、ドミニク・チェン単独でエクステンション企画へ参加。

■チケット

団体名等・演目	料金	販売開始日	
高山明 (Port B) 『パブリックスピーチ・プロジェクト』 プロジェクトプレゼンテーション	1,500円	6月8日(土) 先行販売 6月1日(土)~6月7日(金)	
ミロ・ラウ (IIPM) +CAMPO 『5つのやさしい小品』	一般: 3,500円 U25: 3,000円		
ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ +エンクナップグループ 『幸福の追求』	一般: 3,500円 U25: 3,000円		
劇団うりんこ+三浦基+クワクボリョウタ 『幸福はだれにくる』 (名古屋)	一般: 3,000円 U25: 2,000円 U18: 1,000円		
劇団うりんこ+三浦基+クワクボリョウタ 『幸福はだれにくる』 (豊田)	一般: 2,500円 U25: 1,500円 U18: 1,000円		
サエボーグ 『House of L』	一般: 1,500円 U25: 1,000円 U18: 500円 ※当日に限り入退場自由		
モニラ・アルカディリ 『髭の幻』	一般: 3,000円 U25: 2,500円		
市原佐都子 (Q) 『バックスの信女-ホルスタインの雌』	一般: 3,000円 U25: 2,500円		
劇団アルテミス +ヘット・ザウデライク・トネール 『ものがたりのものがたり』	一般: 3,500円 U25: 3,000円 U18: 1,500円		
【エクステンション】 ドラ・ガルシア レクチャーパフォーマンス『ロミオ』	1,300円		
【エクステンション】 田中功起 映像上映/アッセンブリー『抽象・家族』 (名古屋・豊田)	1,300円		
小泉明郎 『縛られたプロメテウス』	一般: 2,000円 U25: 1,500円		7月1日(月)
【エクステンション】 ドミニク・チェン (dividual inc.) レクチャーパフォーマンス『共在言語をつくるために』	1,300円		
【エクステンション】 藤井光 レクチャーパフォーマンス/鑑賞ツアー 『無情』	1,300円		7月18日(木)
【エクステンション】 キュンチョメ レクチャーパフォーマンス/参加型イベント『円頓寺クリケットクラブ』	1,300円		
高山明 (Port B) 『パブリックスピーチ・プロジェクト』 ライブパーティ	無料 (ワンドリンク制)	8月1日(木) 事前予約開始	
3 演目セット券 (演目を3つ選択)	8,700円	6月8日(土)	
ペア割チケット (同一演目を2人一緒に観劇)	1枚につき1割引	先行販売 6月1日(土)~6月7日(金)	

※先行販売期間は、各演目1割引。ただし、3演目セット券・ペア割チケットは除く。

※全公演、整理番号付き自由席。

※U25は公演日に25歳以下の方、U18は公演日に18歳以下の方を対象にしたチケット。(当日要証明書)

※当日券は、一般・U25・U18 それぞれ一律 500 円増額。

※未就学児入場不可。ただし『House of L』・『幸福はだれにくる』公演は未就学児入場可。

『幸福はだれにくる』公演は、未就学児の膝上観劇無料。

※3 演目セット券・ペア割チケット対象外演目

『パブリックスピーチ・プロジェクト』、『House of L』、『縛られたプロメテウス』、エクステンション企画 5 演目

(2) 音楽プログラム

- ・愛知県芸術劇場大ホールにおいて、人気ロックバンド「サカナクション」による実験的なライブパフォーマンスや、紅白歌合戦にも出場した「純烈」のプロデュースによる老若男女が楽しめる公演を開催。また、愛知芸術文化センター内に 3 つのステージを設け、音楽フェス「MUSIC&ARTS FESTIVAL」を展開した。
- ・まちなかの四間道・円頓寺会場では、円頓寺商店街にて、会期中の木曜日から日曜日の 19 時から 20 時に「円頓寺デイリーライブ」を開催した。また、四間道エリアでは、(インドの民族楽器) タブラ奏者ユザーンによる 40 日間連続の「Chilla:40 Days Drumming」を開催した。

■ホール公演 スケジュール

公演場所	団体名等	演目	公演日	入場者数
愛知県芸術劇場大ホール	サカナクション	「暗闇 -KURAYAMI-」	8月7日(水)・8日(木)・10日(土)・11日(日)	14,689人
	純烈、マルシア、緋毅、西田あい、朝倉さや	純烈 Presents 「1969年の前川清と藤圭子～昭和を彩るロックとブルース～」	9月15日(日)・16日(月・祝)	1,395人
愛知芸術文化センター (愛知県芸術劇場小ホール、大リハーサル室、愛知芸術文化センター2F フォーラム)	カーネーション、蓮沼執太&ユザーンはじめ14組	「MUSIC & ARTS FESTIVAL」	9月14日(土)	3,450人
計				19,534人

■まちなか公演 スケジュール

公演場所	団体名等	演目	公演日	入場者数
円頓寺駐車場	曾我部恵一、七尾旅人はじめ41組	「円頓寺デイリーライブ」	8月1日(木)～10月11日(金)の木曜日から日曜日 ※8月31日(土)を除く ※8月15日(木)は台風10号の影響により中止	14,341人
円頓寺駐車場 本町商店街駐車場	曾我部恵一、呂布カオルマはじめ11組	「なごの音楽祭」	10月12日(土) ※台風19号の影響により中止	—
なごのアジール	ユザーン	「Chilla: 40 Days Drumming」	2019年8月1日(木)～9月9日(月) ※月曜日(祝日を除く)は休館のため非公開 ※8月4日(日)、8月10日(土)、8月28日(水)は非公開	13,027人
計				27,368人

■チケット

団体名等・演目	料金	先行抽選開始日	一般販売開始日
サカナクション 「暗闇 -KURAYAMI-」	S席：3,800円（当日：4,300円） A席：4,800円（当日：5,300円） B席：5,800円（当日：6,300円）	4月6日（土）	6月30日（日）
純烈 Presents 「1969年の前川清と藤圭子～昭和を 彩るロックとブルース～」	S席：6,500円 A席：4,000円 B席：2,500円	5月18日（土）	6月29日（土）

※上記以外の音楽プログラムの公演は無料（「MUSIC & ARTS FESTIVAL」は一部国際現代美術展のチケットが必要）

3 ラーニング

- ・「受けとめる、深める、形にする、オーナーシップ」をキーワードに、来場者の相互的な学びの場を目指した活動を展開した。
- ・建築家の遠藤幹子とアーティストの日比野克彦が、アーティスト派遣事業にて特別授業等を実施するとともに、「アート・プレイグラウンド あそぶ PLAY」の監修を手がけた。
- ・ラーニングプログラムへの参加費は無料とした。
(国際美術展有料会場で実施するプログラムについては、別途入場料が必要)

(1) アート・プレイグラウンド

- ・来場者が作品から受けたインスピレーションを、自らの創造的な活動へ繋げていくための空間を設えた。(来場者数合計 79,518 人)

■あそぶ PLAY

- ・段ボールを使って、来場者自身も新たな遊具やあそび方の考案・制作ができる公園を設けた。
- ・アーティスト派遣事業を通してダンボールの造形研究を行った愛知県内の小学生が、会期前に段ボールで遊具の試作・制作を行った。

参加アーティスト	遠藤幹子&日比野克彦
会場	愛知芸術文化センター8階 J室
開館日	8月1日(木)～10月14日(月・祝) 国際現代美術展開館日に準じる
プログラム実施時間	①10:00～10:45、②11:00～11:45、③13:30～14:15、④14:30～15:15、⑤15:30～16:15、⑥16:30～17:15
プログラム参加方法	定員入替制、当日受付(混雑時は整理券による入場制限あり)
見学可能時間	10:00～18:00(金曜は10:00～20:00)
対象	どなたでも(未就学児は保護者同伴)
来場者数	50,772人(見学者含む)

■はなす TALK

- ・健やかに対話することで、作品をより深く、多角的に楽しむことができる場所を設けた。

会場	愛知芸術文化センター8階 ロビー
開館日	8月1日(木)～10月14日(月・祝) 国際現代美術展開館日に準じる
時間	10:00～18:00(金曜は10:00～20:00)
対象	どなたでも
参加方法	随時自由参加(混雑時入場制限あり)
来場者数	2,345人

○かんがえかたをかんがえる～作品からみる「情の時代」～

- ・国際現代美術展参加アーティストと一緒に、出品作品をみた印象や思い、考えなどを手がかりに、「情の時代」というテーマについて考えるプログラムを実施した。(当日先着受付)

開催日	ゲスト	進行役	参加人数
9月8日(日)	ドミニク・チェン(あいちトリエンナーレ 2019 参加アーティスト) 会田大也(あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター[ラーニング])	高森順子 (愛知淑徳大学 助教)	18人
10月5日(土)	澤田華(あいちトリエンナーレ 2019 参加アーティスト) 会田大也(あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター[ラーニング])		21人
計			39人

○トリエンナーレスクール アンリミテッド ナイトディスカッション

- ・テーマについて対話を重ね、思考を深めていくプログラムを実施した。(当日先着受付)

テーマ	開催日	進行役	参加人数
第1回 「面白さってなに？」	9月6日(金)	会田大也(あいちトリエンナーレ 2019キュレーター[ラーニング])	15人
第2回 「表現するってなに？」	9月13日(金)		19人
第3回 「見立てるってなに？」※	9月20日(金)		20人
第4回 「自由ってなに？」	9月27日(金)		24人
第5回 「思いやりってなに？」	10月4日(金)		26人
第6回 「分かるってなに？」	10月11日(金)		32人
計			136人

※第3回特別ゲスト：森幸久・武藤沙智(社会福祉法人名古屋ライトハウス 名古屋盲人情報文化センター)

■つくる CREATE

- ・昔ながらの道具や新しい技術を使って、ものづくりのプロセスを体験する場所を設けた。

会場	名古屋市美術館 地下1階 常設展示室3
開館日	8月1日(木)～10月14日(月・祝) 国際現代美術展開館日に準じる
時間	10:00～17:00(12:00～13:30 プログラム一時休止)
対象	どなたでも
参加方法	随時自由参加(混雑時入場制限あり)
来場者数	13,569人(見学者含む)

○ユニフォームをつくる！(名古屋市美術館「夏休み こどもの美術館2019」との共催)

- ・持ち寄った古着を解体して、「ユニフォーム」を制作した。(要事前申込・抽選)

開催日	対象者	参加人数
8月14日(水)	小学3年生から中学生まで	11人

○つくるをふかめるウィーク

- ・「『つくる』ことのプロ」による、公開制作やワークショップを実施した。(当日先着受付)

開催日	ゲスト	参加人数
9月22日(日)	会田大也(アイデアを形にするプロ/あいちトリエンナーレ2019 キュレーター[ラーニング])	37人
9月23日(月・祝)	青木美紅(想いを形にするプロ/あいちトリエンナーレ2019 参加アーティスト)	12人
9月29日(日)	denha(電子部品とアイデアでものをつくるプロ/マーブルマシーン ビルダー)	17人
計		66人

■もてなす INTERACT

- ・「四間道・円頓寺名物開発研究室」を設け、来場者とまちの人々が一緒になって、この地域のおすすめや名物のアイデア等を出し合った。

会場	なごのステーション
開館日	8月1日(木)～10月14日(月・祝) 国際現代美術展開館日に準じる
時間	12:00～20:00
対象	どなたでも
参加方法	随時自由参加(混雑時入場制限あり)
来場者数	11,831人

■しらせる OUTREACH

- ・シルクスクリーンや刺繍、ZINE、インターネットラジオ等の手段と、様々な言語を用いて、展示作品や「情の時代」に関するメッセージを伝えるための場を設けた。

会場	豊田市美術館 ワークショップルーム
開館日	8月1日(木)～10月14日(月・祝) 国際現代美術展開館日に準じる
時間	10:30～17:00 ※12:00～13:00 プログラム一時休止
対象	どなたでも
参加方法	随時自由参加(混雑時入場制限あり)
来場者数	1,001人



「アート・プレイグラウンド あそぶ PLAY」
会期前の試作・制作の様子



「アート・プレイグラウンド あそぶ PLAY」
会期中の様子



「アート・プレイグラウンド はなす TALK」



「アート・プレイグラウンド つくる CREATE」



「アート・プレイグラウンド もてなす INTERACT」



「アート・プレイグラウンド しらせる OUTREACH」

Photo: Yasuko Okamura

(2) ボランティアによるガイドツアー

- ・一般来場者を対象に、ガイドツアーボランティアが2～3人体制で、1回あたり60分程度の対話式の作品鑑賞ツアーを行った。(事前申込不要)
- ・アート鑑賞は必ずしも「作者の意図を当てる」ことではないと参加者に伝え、作品を通じて世界の多様さを味わってもらうことを目的とした。
- ・活動するボランティア自身も、本事業を通して来場者と対話をしながら作品の世界を味わうとともに、作品を通じて世界の見方を知る方法論を学んだ。

会場	日程	参加人数
愛知芸術文化センター10階	金曜日(各1回) 土日祝日(各2回)	744人
愛知芸術文化センター8階	金曜日(各1回) 土日祝日(各2回)	764人
名古屋市美術館	金曜日(各1回) 土日祝日(各2回)	516人
四間道・円頓寺	金曜日(各1回) 土日祝日(各2回)	334人
豊田市美術館	月曜日、木曜日を除く毎日(各日2回)	767人
豊田市駅周辺	金曜日、土日祝日(各1回)	135人
計		3,260人



ガイドツアーの様子 Photo : あい撮りカメラ部

(3) 鑑賞プログラム

■アーティスト「と」みるツアー

- ・アーティストが“先生”や“正解”としてその場にいるのではなく、新しい視点の提案者として一緒にツアーに参加するプログラムを実施した。来場者の作品の見方を拡張し、作品鑑賞の体験がより深まることを目指した。（当日先着、定員各回 10 名程度）

会場	参加アーティスト	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	下道基行	8月12日(月・祝)	10人
	山本高之	9月7日(土)	12人
名古屋市美術館	宮永愛子	8月17日(土)	14人
四間道・円頓寺	寺内曜子	9月29日(日)	10人
豊田市美術館	小栗沙弥子	8月31日(土)	10人
豊田市駅周辺	山口恵子	9月28日(土)	10人
計			66人

■赤ちゃんとその保護者を対象としたプログラム「ベビーカーツアー」

- ・18ヶ月までの子どもと保護者を対象に、ベビーカーに乗った子どもと大人がキュレーター等と一緒にゆったりと作品を鑑賞できるツアーを行った。（要申込、定員各回 5 組）

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	8月12日(月・祝)	9人(3組)
名古屋市美術館	8月17日(土)	10人(3組)
豊田市美術館	8月31日(土)	10人(3組)
計		29人(9組)

■視覚障がい者を対象とした鑑賞プログラム「視覚障がい者向けガイドツアー」

- ・視覚に障がいのある方を対象に、「ことば」による作品鑑賞の楽しさを体験することを目的とし「対話型鑑賞」の方法論を用いたツアーを実施。ツアーの企画・運営はガイドツアーボランティアが中心となった。（要申込、定員 20 名）
- ・協力：社会福祉法人名古屋ライトハウス 名古屋盲人情報文化センター

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	9月22日(木)(2回開催)	16人

■聴覚障がい者を対象とした鑑賞プログラム「筆談ガイドツアー」

- ・聴覚に障がいのある方を対象に、ガイドツアーボランティアが要約筆記による作品ガイドを実施した。（要申込、定員各回 20 名）
- ・協力：NPO 法人愛知県難聴・中途失聴者協会

会場	開催日	参加人数
愛知芸術文化センター	9月18日(水)・23日(月・祝)	23人

■高校生鑑賞プログラム「まなびじゅつ『探求・アート・私・君・街』」(愛知県高等学校文化連盟との共催)

- ・高校生同士による作品鑑賞とワールドカフェ形式のディスカッションを開催した。まちなかでの作品鑑賞を通じて、アーティストが社会をどのように見て、感じ、考えているのかを、高校生たちが考えるきっかけになることを目的とした。（要申込、定員 100 名）。
- ・協力：株式会社スペース

会場	開催日	参加人数
四間道・円頓寺	9月21日(土)	99人

(4) 学校向けプログラム

- ・主に児童・生徒に国内外の様々な地域より集ったアーティストによる現代美術に触れてもらうため、団体鑑賞プログラムやアーティスト派遣事業などを行った。

■学校向け団体鑑賞プログラム

- ・授業、校外学習など様々な学校行事を活用して、児童・生徒たちがアーティストの表現に触れ、考えを拓げる機会となるように、対話型鑑賞を導入した学校向け団体鑑賞プログラムを実施。
- ・県内各地域から幅広く参加があったほか、県外からも参加があり、合わせて54校、1,484人の児童・生徒と、155人の引率者が来場した。

会場	愛知芸術文化センター	名古屋市美術館	豊田市美術館
実施日	8月6日(火)～10月11日(金) 土日祝日、休館日を除く毎日 ※一部土日実施：9/1(日)、9/8(日)、9/14(土)、9/15(日)	8月6日(火)～10月11日(金) 土日祝日、休館日を除く毎日	8月6日(火)～10月11日(金) 土日祝日、休館日を除く毎日 ※8月13日(火)～16日(金)は除く ※ガイダンス及びガイドツアー実施日は上記期間中の火曜日・金曜日 ※クリムト展とあわせた鑑賞は9月27日(金)まで
定員	180名 (180名を超える希望がある場合は要相談)	80名	80名
鑑賞方法	① ガイダンス及び自由鑑賞 10分程度のガイダンスを行い、その後自由に作品鑑賞をする ② ガイダンス及びガイドツアー 10分程度のガイダンスを行い、その後ガイドボランティアとともに対話をしながら作品鑑賞をする		
観覧料	①小・中学校の児童・生徒は無料 ②高等学校の生徒は、学校行事での観覧に限り無料 ③引率の教員は無料		

○実績（学校数）

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	外国人学校	その他(合同)	計
6校 (11.1%)	25校 (46.3%)	14校 (25.9%)	4校 (7.4%)	3校 (5.6%)	0校 (0.0%)	2校 (3.7%)	54校 (100.0%)

○実績（人数）※引率者数含む

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	外国人学校	その他(合同)	計
327人 (20.0%)	612人 (37.3%)	349人 (21.3%)	286人 (17.4%)	41人 (2.5%)	0人 (0.0%)	24人 (1.5%)	1,639人 (100.0%)

○実績（地域別・学校数）

名古屋市	尾張	海部	知多	西三河	東三河	県内計	岐阜県	滋賀県	三重県	静岡県	大阪府	富山県	県外計	計
16	8	1	5	12	3	45	3	1	1	2	1	1	9	54



愛知芸術文化センターでのガイダンスの様子

Photo : あい撮りカメラ部



対話型鑑賞の様子

■アーティスト派遣事業

- ・アートとの出会いを通じて、より多くの子どもたちの感性や創造性の成長に働きかけるため、アーティストを学校に派遣した。
- ・日比野克彦氏が県内 5 校の小学校へ出向き、ダンボールを使ったデモンストレーションを行う「特別授業」を実施した。
- ・特別授業実施前後にはラーニングスタッフ等がダンボールを扱う技術を指導するとともに、作品を制作する授業「ダンボール研究会」を各校にて 2~3 回実施した。
- ・参加した生徒たちは身につけたスキルを使って、あいちトリエンナーレ 2019 開幕前に、愛知芸術文化センター 8 階 J 室で開催する「アート・プレイグラウンド あそぶ PLAY」の会場制作及び遊具制作を行った。

参加アーティスト	派遣先	特別授業実施日程	特別授業参加者数
遠藤幹子 & 日比野克彦	名古屋市立平子小学校	4月25日(木)	73人
	犬山市立栗栖小学校	4月26日(金)	19人
	豊根村立豊根小学校	6月5日(水)	31人
	豊明市立沓掛小学校	6月19日(水)	80人
	津島市立高台寺小学校	6月26日(水)	225人
計			428人

(5) その他

■一般向け団体鑑賞プログラム

- ・ガイダンスを希望する 20 人以上の団体を対象に、ボランティア等による一般向け団体鑑賞プログラムを実施し、18 団体 601 人が参加した。（要事前申込）

■小学生向けタブロイド判の送付

- ・愛知県内の小学生及び特別支援学校の小学部の児童へ、あいちトリエンナーレ 2019 を紹介する印刷物を配布した。



■託児サービスの実施

- ・「アート・プレイグラウンド あそぶ PLAY」会場内で託児サービスを実施した。

実施日時	国際現代美術展開館日 13:00~17:00
会場	愛知芸術文化センター 8階 「アート・プレイグラウンド あそぶ PLAY」会場内
対象	3歳から小学校就学前までの児童（定員6名）
利用料	児童1人につき1回1,000円（利用時間は、原則2時間以内）
利用方法	原則要事前申込（定員に空きがある場合は、会場にて当日受付を行う）
延べ利用者数	31人

4 連携事業

(1) モバイル・トリエンナーレ

- ・8月から9月の週末に、期間限定で参加アーティストの作品を巡回展示するモバイル・トリエンナーレを開催した。（入場無料）
- ・主にあいちトリエンナーレ本展で展示される作品とは異なる作品を展示した。
- ・作品展示に併せ、ワークショップや作品ガイドツアーなどを開催した。

■出品アーティスト

現代美術	文谷 有佳里、藤原 葵、葛宇路（グウ・ユルー）、今村 洋平、今津 景、石場 文子、加藤 翼、榎本 佳子、永田 康祐、パンクロック・スウラップ、サエボーグ（東海市会場のみ）、Sholim、菅 俊一、トモトシ、碓井 ゆい、和田 唯奈（しんかぞく）、鷺尾友公、弓指 寛治、カタリーナ・ズィディエラー
------	--

■開催地及び日程

開催市町	会場	日程	日数	入場者数
設楽町	設楽町田口特産物振興センター	8月23日(金)～25日(日)	3日	302人
津島市	津島市文化会館	8月30日(金)～9月1日(日)	3日	609人
小牧市	小牧市市民会館・公民館	9月6日(金)～8日(日)	3日	468人
東海市	東海市芸術劇場、大屋根広場	9月20日(金)～23日(月・祝)	4日	558人
計				1,937人

■ワークショップ

開催市町	タイトル	開催日	参加者数
設楽町	パンクロック・スウラップ「一緒に彫ろう、木版画ワークショップ！」	8月24日(土)、25日(日)	36人
津島市	鷺尾 友公「お家に絵を飾ろう！」	9月1日(日)	20人
小牧市	今村 洋平「本格的なシルクスクリーンを体験しよう！」	9月8日(日)	12人
東海市	碓井 ゆい「透ける布で窓飾りを作ろう！」	9月22日(日)	15人
計			83人

■主催

あいちトリエンナーレ実行委員会 / (津島市会場) 津島市、津島市教育委員会 / (小牧市会場) 小牧市、小牧市教育委員会、一般財団法人こまき市民文化財団 / (東海市会場) 東海市、東海市教育委員会 / (設楽町会場) 設楽町、設楽町教育委員会



【設楽町】



【津島市】



【小牧市】



【東海市】

(2) 舞台芸術公募プログラム

- ・企画公募により選考された15組の地元文化芸術団体などと共催で、舞台公演を行いました。(応募数：27の団体・個人)
- ・音楽・舞踊・演劇などさまざまなジャンルの舞台公演を行い、15演目16公演で5,271人の入場者があった。

■公演一覧

会場	団体名	分野	演目	公演日	入場者数
コンサートホール 愛知県芸術劇場	倉知 可英	舞踊・音楽	『Les femmes dans le tourbillon 渦の中の女たち - 今こそ、女性は太陽である。』	9月23日 (月・祝)	762人
	愛知ロシア音楽研究会	音楽	愛知ロシア音楽研究会創立10周年記念演奏会 『サルタン王の物語 - 熊ん蜂が飛ぶところ - 』	9月28日 (土)	778人
	名古屋芸術大学	ミュージカル	『ドラマチック・ミュージカル・コンサート - ジャパネスク・ワンダーランド - 「情」に彩られた古(いにしえ)の風景への旅 - 振り返れば、そこには未来がある』	9月29日 (日)	1,037人
愛知県芸術劇場 小ホール	ニンフェアール	現代音楽	ニンフェアール第15回公演 『メキシコ・日本：響きの情熱』	9月23日 (月・祝)	45人
	体現帝国	演劇	体現帝国第八回公演 『しっぽをつかまれた欲望』 (作：パブロ・ピカソ) 著作権代理：(株)フランス著作権事務所	9月25日 (水)	182人
	MiA	現代音楽	『MiAの縁日 - アーケード商店街で現代音楽を演奏したら - 』	10月1日 (火)	137人
	Seainx project	現代音楽	Seainx 2019 第3回名古屋国際現代音楽アカデミーコンサート 『笛の音』	10月2日 (水)	80人
	伏木 啓	インターメディア・パフォーマンス	『The Other Side』	10月3日 (木)	190人
	NEOFLUXUS - Kio Griffith・臼井廉浩・Marcos Fernandes・小埜涼子・金子ユキ・照喜名俊典・森由紀 +スペシャルゲスト：港千尋・森田浩彰	現代音楽・実験音楽・パフォーマンス	『NEOFLUXUS』	10月4日 (金)	51人
	office Perky pat	朗読・ダンスほか	perky pat presents 『ROD - 今昔物語 - 』	10月5日 (土)	286人 (2公演)
	ナゴコン	コンテンポラリーダンス	『Love&Intestine 愛と腸』	10月6日 (日)	58人

会場	団体名	分野	演目	公演日	入場者数
名古屋 市芸術 創造セ ンター	中部芸能家協議会	演劇・舞踊・ 狂言・音楽な ど	中部芸能家協議会 芸能サロン 『戯れこと』	9月26日 (木)	246 人
	名鶴ダンスカンパニ ー	舞踊 [ジャズダンス]	名鶴ダンスカンパニー DANCE MESSAGE『Letter』	9月27日 (金)	547 人
	名古屋音楽大学	オペラ	めいおんオペラティックコンサート 『シェイクスピア変奏曲 - 劇情の魅力 -』	9月28日 (土)	376 人
	名古屋洋舞家協議会	舞踊 [洋舞]	名古屋洋舞家協議会 Dance freedom『回遊する五感』	9月29日 (日)	496 人
計					5,271 人

(3) 芸術大学連携プロジェクト

- ・「あいちトリエンナーレ 2019」の会期中において、3 芸大（愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学）と連携し、人材育成プログラム（『U（アンダー）27 プロフェッショナル育成プログラム 夏のアカデミー2019 「2052 年宇宙の旅」』）を開催した。
- ・各大学から推薦された3名と一般公募で集まった7名の合計16名のメンバーに対し、外部講師等を招き5日間の集中講義を行った後、展覧会を開催した。

プロジェクトディレクター	集中講義参加講師
服部浩之（キュレーター、アートラボあいちディレクター） 山城大督（美術家・映像作家） 辻琢磨（建築家、403architecture [dajiba]共同主宰）	井高久美子（キュレーター） 高嶺格（美術作家、秋田公立美術大学教授） 津田大介（「あいちトリエンナーレ 2019」芸術監督） 真鍋大度（メディアアーティスト、D.J.） やなぎみわ（舞台演出家、美術作家）

会場	日程	入場者数
アートラボあいち （愛知県庁大津橋分室 2～3 階）	8月24日（土）～10月14日（月・祝） ※展覧会開催期間は9月21日（土）～ 10月14日（月・祝）	311人 （展覧会開催期間中）



「集中講義風景」



「制作風景」



「展示風景」



アートラボあいち

(4) 連携企画事業

- ・「あいちトリエンナーレ 2019」と同時期に愛知県内で開催される、トリエンナーレのテーマや企画等と連携した内容で実施される事業を「連携企画事業」とし、相互に広報展開を図った。

■事業一覧

会場	会期	事業名
愛知県陶磁美術館	6月29日(土)～8月18日(日)	企画展 インダス文明への道 —栗田功コレクションを中心に—
	8月24日(土)～10月20日(日)	京都国立近代美術館所蔵 川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎展
masayoshi suzuki gallery	7月18日(木)～10月13日(日)	ART・TRANSIT・OKAZAKI
愛知県児童総合センター	7月20日(土)～9月1日(日)	夏季特別企画 ネイチャー・ワンダーランド ネイチャワとつながる
	9月7日(土)～9月16日(月・祝)	アートと遊びと子どもをつなぐメディア プログラム メディア実験室
豊田市美術館	7月23日(火)～10月14日(月・祝)	クリムト展 ウィーンと日本 1900
名古屋市中区錦二丁目界限 (長者町エリア) 綿覚ビル・長者町トランジ ットビル 他	7月27日(土)～10月14日(月・祝)	ART FARMing
損保ジャパン日本興亜 人形劇場ひまわりホール 他1ヶ所	8月1日(木)～10月14日(月・祝)	思いと人形の間
豊田市八柱神社(西中山町) 他6ヶ所	8月4日(日)～8月18日(日)	10周年記念 農村舞台アートプロジェクト2019 アートで蘇るとよたの農村舞台群
旧産業技術総合研究所 中部センター瀬戸サイト	9月7日(土)～10月14日(月・祝)	瀬戸現代美術展2019
名古屋港～ 築地口エリア一帯	9月7日(土)～11月10日(日) (会期中の木曜・金曜・土曜・ 日曜・祝日開催)	アッセンブリッジ・ナゴヤ2019
名古屋市民ギャラリー矢田 他1ヶ所	9月11日(水)～9月16日(月・祝)	あいちアール・ブリュット 障害者アーツ展
ヤマザキマザック美術館	10月1日(火)～10月14日(月・祝)	「情の深みと浅さ」展
旧豊田東高等学校	10月5日(土)・6日(日)・ 12日(土)・13日(日)	廃校を舞台とした異種混合な文化祭 HYBRID BUNKASA II

(5) パートナシップ事業

- ・民間企業や自治体、地元文化芸術団体等が原則として愛知県で行う文化芸術事業を「パートナーシップ事業」として募集し、相互に広報協力を行った。
- ・2018年7月から募集を行い、273件を決定した。
- ・応募分野は、全体の6割以上を美術が占め、音楽・演劇・舞踊・伝統芸能など多岐に渡った。地域別では、全体の7割を占める名古屋のほか、県内各地域から幅広く応募があった。特に過去2回のトリエンナーレの会場であった岡崎市、今回新たに会場となった豊田市のある西三河地域からの応募が多く見られた。

■分野別内訳

美術	音楽	演劇	舞踊	伝統芸能	その他	合計
182件 (66.7%)	14件 (5.1%)	4件 (1.5%)	8件 (2.9%)	5件 (1.8%)	60件 (22.0%)	273件 (100.0%)

■地域別内訳

名古屋	尾張	西三河	東三河	県内複数地域	合計
192件 (70.3%)	25件 (9.1%)	39件 (14.3%)	10件 (3.7%)	7件 (2.6%)	273件 (100.0%)

■事業一覧

No.	事業名	No.	事業名	No.	事業名
1	足助的芸術界限	18	矢橋頌太郎展－頭上漫々－	39	2018 JAGDA AICHI EXHIBITION 「あいちのかかるた」－グラフィックデザインへの役割－
2	西町散歩 － NISHIMACHI SANPO －	19	Grow!! vol.6	40	にほんご で 国際文化交流
3	Jazz Graffiti 音楽と写真の コラボレーション	20	Art Obulist 2018	41	椋山人間学研究センター 平成30年度 第4回人間講座 『現代社会におけるアートの役割』
4	三河・佐久島アートプラン21 「佐久島体験2018 祭りアートに出会う島」	21	いけばなスペース 第11回いけばな展－有松町並み 保存地区町屋にいける－	42	オカザえもんのプチ国内芸術祭
5	「ライトダイビング」 畑温子・原口みなみ 二人展	22	小山祐司 個展「zippers」	43	銅版画の極み －ヨルク・シュマイサーに捧ぐ－
6	岡直展「夢語り」vol.18	23	Semilla Vol.10 ～上海公演直前 フラメンコライブ～	44	リトル・クリスマス 小さな版画展 芽生え
7	8人8色展 -赤-	24	HYBRID BUNKASAI	45	椋山人間学研究センター 第39回椋山フォーラム
8	Jazz Graffiti 音楽と写真の コラボレーション	25	第2回 ベートーヴェン 【原典版】第九 演奏会	46	第23回それぞれの現在展
9	～大須アパートって “アパート”じゃなくて “ギャラリー”なんですよ～ pumpkin☆個展 「Expo of Rabbit」	26	愛知県立芸術大学アーティスト ト・イン・レジデンス2018 「future made “2038”」	47	三代舞踊団 第28回 クリスマス定期公演
10	NARRATIVISUAL:M “M氏の告白：矛盾を純粹培養する アイデンティティの病”	27	内藤勲の似顔絵ツセイ展 パート24	48	Zinbutsu
11	「日本・セルビア 国際児童画交流展」	28	にほんごで国際文化交流	49	河村尚江・星田博子 二人展「聖 夜に贈るキララ」
12	大橋裕之 「シティライツ完全版」 原画展	29	第11回 大人のための 「おんがくのおもちゃばこ」	50	コール リリアス 6th. コンサート
13	第71回岡崎市芸術祭参加 第23回文協芸術祭	30	あふれる、こらえる、 なめてみる？	51	Gallery FINGER FORUM 木下幸子 個展 まどろみの森
14	第71回岡崎市芸術祭参加 第32回文協文化祭	31	降旗芳美 個展	52	愛知県立岩倉総合高等学校 「ランブシェード ～光の模様」
15	「遊風展」ゆ～ふ～てん	32	ripple	53	ひとのけしき－Okazaki－
16	第20回 アートミラ'21展	33	4人展	54	伊坂幸太郎4作品 「表紙デザイン募集」
17	巨匠にみる「絵とは何か」展 併催：気になる絵・ 絵心の絵・一期の絵・展覧会	34	北星会	55	名古屋電子音響音楽コンサート 「プチット・フォルム2018」
		35	水戸部七絵 「DEPTH - Blue Pigment - 」	56	古川美術館 分館 為三郎記念館特別展 「第二楽章～書だ！石川九楊」
		36	勝川藝術祭	57	大須にじいろ映画祭2019
		37	Photo Exhibition 「NOW HERE」 今、ここに在ること－写真にまつ わるエトセトラ展5－		
		38	晩秋の有松を楽しむ会2018		

No.	事業名	No.	事業名	No.	事業名
58	爲三郎記念館 特別企画 「漆・浅井啓介」展	93	アヴァンギャルド! 走る現代アート展 in オートプラネット名古屋	127	市橋安治 初期の版画 ('73 - '75)
59	古川美術館 特別展 Collector's exhibition 「日本の巨匠」	94	アートな舗装デザイン	128	中川運河助成 ARTtoC10 事業 RECYCLE ART MUSEUM ON NAKAGAWA CANAL
60	ART FARMing	95	《豊田》珠玉のピアニスト	129	日・ハンガリー外交関係開設 150 周年記念事業 「ハンガリーフェスティバル in 愛知」
61	岡本奇太郎個展	96	メナード美術館 所蔵企画展 「double silhouette ノダブルシルエット — 光と影が語ったもの」	130	セントラル画材 アートフェスタ 2019
62	第 19 回 G. A. M 公募展	97	東海バロックプロジェクト 第 5 回公演 輝かしい古楽の祭典Ⅳ イタリアバロックの変遷	131	第 16 回とよはし都市型アート イベント sebone
63	生き方見本市 NAGOYA	98	豊橋 水上ビル リノベーション再生アート	132	ESTUDIO KEIKO 石川慶子 フラメンコスタジオ 第三回生徒公演 “de mil colores”
64	小林広恵展 加藤K展	99	Grow! vol. 7	133	キュレーション実践講座 「展覧会をつくろう 3」
65	点と線 つながり-	100	【限定開放】光を放つアートが あるオフィス	134	“シリーズ夏炉冬扇” 「われは人なり、 いまだ人間にあらず」
66	異界庭園	101	北名古屋生涯学習講座 「あいちトリエンナーレ 2019 ～世界の文化芸術にふれよう ～」	135	第 4 回アートのつながり展 アートがつなげる人と人
67	第 11 回みどりの会創作美術展	102	森田浩彰 End of Light	136	それぞれの現在 2019 夏展
68	ニコラエメリヤノフ展 久保田裕美展	103	第 20 回 甲山落語会	137	第 24 回 N. S. D. T. 名古屋 写真大好き友の会「写真展」
69	伊藤明淑展 今村綾展	104	INNER VISIONS ～絵の帝国～	138	梶千春展 大石未貴展
70	中野豊展 中野直子展	105	現代いけばなアート展	139	2019 ジョイントフェスティバル ～愛知児童・青少年舞台芸術協 会『魔法学校へようこそ』～
71	APA BEST10 vol. 6	106	STEPHAN SPICHR Exhibition Blooming - Fading	140	2019 ジョイントフェスティバル ～劇団エル・パティオ(スペイン) 公演 『ア・モノ(手によって)』～
72	伊藤大朗展 長房一洋展	107	Nose Akari 個展 「hello, midnight」	141	2019 ジョイントフェスティバル ～うりんこ劇場 『MARIMO』～
73	モハメド・イクバル展	108	種をまくプロジェクト 上映会&トーク	142	平成 30.31 年度 市町村立美術館活性化事業 第 19 回共同巡回展 市民ギャラリー特別展 「見て、感じて、遊ぼう! はんが遊園地 —府中市美術館のゆかいな創作 版画コレクションより—」
74	橋寛憲展 伊藤里佳展	109	シビック♪ワールドフェスタ	143	SECOND 3
75	箔屋スフィカの アルミホイルの世界展	110	Face -conscious-	144	愛知県立芸術大学サテライト ギャラリーSA・KURA 開廊記念展 -RANGE ここから・これから-
76	平野えり 個展「Diary」	111	ゆかりバレエ公演 2019	145	LIFE WORK2019
77	松本 悠 個展「Dear Donuts」	112	にゆ 展 「ほんのワンシーンを」	146	名古屋造形大学教員展 2019
78	吉田正樹 個展 「手彩木版絵展」	113	江端コウ 個展 「いまそこに在る幻夢」	147	川島泉 作品展—螺旋境にて—
79	平成 29 年度 豊田芸術選奨受賞記念 小川国垂起 日本画展	114	A piece of happiness 2 Aichi	148	第 19 回日本チェーンソーアート競 技大会 IN 東栄
80	Songil ソンイル & Sayon サヨン Spring Concert	115	ノグチアキコ展 「和紙画 vol. 2」	149	2019 年全国公募写真展 「第 44 回『視点』」名古屋展 及び JRP「第 54 回愛知写真展」
81	農村舞台アートプロジェクト 2019	116	亀谷 マサヨシ×サヤカ 二人展	150	Bounding Stones
82	第 19 回 奥三河アートフェスティバル	117	富田敦子の試行錯誤		
83	前畑裕司 個展「床の間に松」	118	PALAIS		
84	アヴァンギャルド! 走る現代アート展	119	直通ダイヤ 愛知県立芸術大学生展		
85	ライブペインティング 11 周年記念 CHIHKAKO ROSY ライブ	120	自然葡萄酒博覧会 豊田 Vin(ヴァン)博 2019		
86	CHIHKAKO ROSY ライブペインティングシリーズ 個展	121	2019 北名古屋田んぼアート		
87	第 14 回 オートモビルアート展 2019	122	壁紙巻展 大泉安展		
88	古川美術館 所蔵品展 「Color ～色彩からのメッセージ」	123	花非花 — 徐 凡軒 作品展		
89	爲三郎記念館 特別展 高北幸矢インスタレーション 「落花、未終景」	124	陶磁 柏珠会 展		
90	かんなの作品と日本舞踊 5	125	NSG彫刻会 特別展 2019		
91	塾生作品展	126	Idia el arte Fiesta 1デー・アートフェスタ		
92	グループ展 アンでバンダ 2019				

No.	事業名	No.	事業名	No.	事業名
151	松岡 眞弓 古裂の小物展	186	Dual Dream 二つの夢	218	トリクローム～記憶の遠近
152	五つ☆展	187	LOVE & PEACE 2019	219	オアシス21 シネマフェスティバル
153	overlap	188	三河・佐久島アートプラン 21 「佐久島体験 2019 祭りアートに出会う島」	220	コレクティブ・探究/創造/構築 2019 年度文化庁 「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」
154	Dance Theatre Red ダンス公演 Stone Cocoon - 石の繭	189	第11回 HEKINAN から それぞれのスピリッツ展	221	とよたアートデイズ 2019 「Toyota Specific」
155	macoto saito Exhibition 「relationship」	190	Toucas & taca Japan Tour 2019 with guest Nozomi Fujiyoshi 『夏の夜のフランスの嵐 アコーディオン&ピアノ』 クリスティアーノ トゥカス&タ カ with ゲスト藤吉望	222	ささしまスタジオ プレオープン 企画～笹舟 2019～ ささしま、はじめました
156	企画 NO. 428 後藤泰洋 89 才、 表現に生きる -ドローイング・カラージュ-	191	寺内曜子退任展	223	ささしまスタジオ プレオープン 企画～笹舟 2019～ 陶芸×音楽×映像 "making vessels"
157	特別企画展「キスリング」	192	ながくてアートフェスティバル 2019	224	ささしまスタジオ プレオープン 企画～笹舟 2019～ ささしまで『創る！踊る！』
158	増田舞子 個展	193	チカコ ローゼィー Live・ ライブペインティング	225	ささしまスタジオ プレオープン 企画～笹舟 2019～ Contondo #14 青年と死 [秋]
159	a ホルン会 第15回 アンサンブルコンサート	194	extra ordinary	226	のうみそとけ展
160	CREATORS GATE / アートフェア	195	大泉 和文個展 可動橋/BH 2. x	227	プラチナプリント他写真展示会 “花はやっぴり美しかった”
161	歴代豊田文化奨励賞・ 豊田文化新人賞受賞者による 次代を担うとよたの アーティストたち展	196	「春姫茶会」	228	第4回「拝啓、あいちトリエン ナーレ監督 地元彫金作家もが んばってます 敬具」展
162	パネル展「はずむ！」カラフル アフリカ展	197	第4回 ハンガリー刺繍サークル 作品展「カロチャ刺繍」	229	ボン祭
163	第10回セントラルサムホール絵 画展	198	現代アートの鑑賞事業 2019 中村元道 ～プロジェクトマッピング とモンスターアート～	230	夏の津島 まちめぐり 2019
164	愛知県立芸術大学 油画専攻4年 プレ卒展	199	刺しゅうアートフェスタ 2019	231	田中良和陶展 —土とオブジェと器と—
165	壁絵錦三 (かべえきんさん) 2019	200	公開絵師 武蔵人骨 the 個展 「うまれゆくもの。 きえゆくもの、」	232	VAMOS! BONE フェス
166	森からのメッセージ 2019	201	PYRAMID ART	233	Souvenirs français
167	Art Obulist 2019	202	『ボタニカルパーティー』	234	図画工作フェア
168	あいち国際女性映画祭 2019	203	Artwalk ホウボウ 2019	235	SHOKKI: BEER
169	ボクとオヤジのアート de お盆 ナイト 2019	204	名古屋造形大学 美術コース 4年次 前期修了展	236	ジャンルレスグループ展 「intersection7」
170	KIM TEA-HYUK Selected Kim's printmaking	205	波多の明翠展～KISEKIⅢ～	237	愛知 CI (コンタクト・インプロビ ゼーション) 合宿 in 稲武
171	土井潤美 展	206	Corners as Lenses/Residues from the Surrounding	238	Breathe
172	参季会	207	岡本光博 展 「トラロープ」	239	清河北斗展 -ARMOURS-
173	ワールド・コラボ・フェスタ 2019	208	第九回 花水木の会	240	中野彩愛展
174	写真家 浅田政志さんと一緒に、 撮って、見て、楽しむ！	209	原口みなみ 個展	241	砂糖藝術 - Sugar Art -
175	『第六回勝川藝術祭 2019』	210	CRN 8 月度研究会 情けは人の為ならず 【情の時代】 社会学士の講演会	242	芸術監督 津田大介 特別講演会 『国際芸術祭と地域振興～あい ちトリエンナーレ 2019 の事例か ら～』
176	朗読とバイオリンの調べ 松原実智子/大橋淑恵	211	障がい児者作品展	243	ManiA ミーティング&ミートア ップ@愛知 文化と政治をむすんでひらく
177	つくし芸術祭	212	蝶々の楽園～福留 慎～	244	アートアートアート 2019 ヤングアーティスト旋風
178	夏の果て (geno hate)	213	#OUR815 MOVEMENT '74	245	洞窟の作戦
179	Road of Cannes! 2019	214	第19回 長者町糸毬す祭り	246	『アカリノアトリエ』 ～パステルアート de たんころり ん展示会&ワークショップ
180	愛知県立芸術大学デザイン科 8期生6人による帰巢展 『HYGGGE』	215	2019 岡田純奈パレエ団 定期公演	247	とよトリストランブラリー
181	絞り展 有松から四間道を結ぶ天の川	216	グループ展 How nice -なんてステキ-		
182	どこでも、どこにも、	217	円頓寺七夕まつり 大正琴演奏会 2019		
183	TOYOTA HACK CAMP				
184	渾沌オーライ!				
185	名和智明 個展				

No.	事業名
248	名古屋ワンピース倶楽部 はじめてかもしれない展
249	2019年度中川運河助成 ARToC10事業 クロスバウンダリー ～人と神社と運河をつなぐ VII & VIII & IX
250	企画展「鶴田卓池と三河の 俳諧―蕉風俳諧の系譜」
251	Swing! ノダコンアートショー
252	PERSISTENCE
253	孤独の絶景 2019 - そのうちなるもの -
254	おてら meets フェスティバル
255	彩色兼備 ～森永千代子・滝川テキスタイル ・富田雅臣 3人展～
256	椋山人間学研究センター 令和元年度第3回人間講座
257	スナップ ブック 名古屋
258	大須シネマ インディペンデント映画特集 仙頭武則 MONJIN<門人> 映画祭
259	前田真喜 cf. PARK
260	大石茉莉香 個展
261	札本彩子 個展
262	グループ展 アンでバンダ+
263	Summer World
264	SENSORIAL DRIVE - ヒトと車の共感覚 -
265	金山にぎわいマルシェ LOVES 「いきなり!アート・フェス」
266	チカコ ローズィー Vocal Live&ライブペインティン グ with フィリップ ストレンジ トリオ
267	江藤良人 Drs. & CHIIRAKO ROSY ラ イブペインティング Live
268	スナップ ブック 名古屋
269	林 葵衣 個展
270	IMAGINE ～静寂の中にあるもの～
271	Hello stranger
272	今村 文 ドローイング展
273	「365wishes A knot たまむすび」のプロジェクト

※決定順

※事業名は応募時のもの

(6) ボランティア

- ・会場運営（来場者の案内・誘導）、ガイドツアーなどを多くのボランティアに担ってもらい、あいちトリエンナーレを盛り上げていただいた。
- ・ガイドツアーボランティアについては、オンラインテスト及び作品鑑賞ファシリテートのロールプレイングによる選考を行った。
- ・ボランティア登録者にはあいちトリエンナーレの概要や対話型作品鑑賞に関する研修を実施したほか、ガイドツアーボランティア登録者については、対話型作品鑑賞の方法論に関する研修を実施した。
- ・活動に伴う交通費相当分として、半日あたり 500 円相当の記念品（500 円分クオカード等）を支給した。

○ボランティアの登録者数及び活動実績

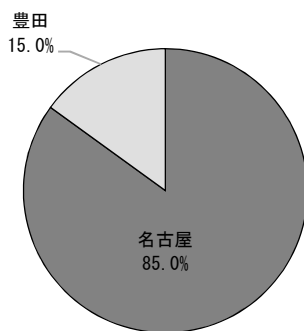
活動区分	活動内容	登録者数（名）			延べ活動回数（回）		
		名古屋	豊田	計	名古屋	豊田	計
会場運営 ボランティア	来場者の案内・ 誘導等	975	146	1,121	3,575	1,546	5,121
		80.0%	12.0%	92.0%	61.6%	26.6%	88.2%
ガイドツアー ボランティア	対話型による 作品鑑賞	61	37	98	444	238	682
		5.0%	3.0%	8.0%	7.7%	4.1%	11.8%
計		1,036	183	1,219	4,019	1,784	5,803
		85.0%	15.0%	100.0%	69.3%	30.7%	100.0%

※実活動者数（登録者のうち1回以上活動実績のある者）：866名

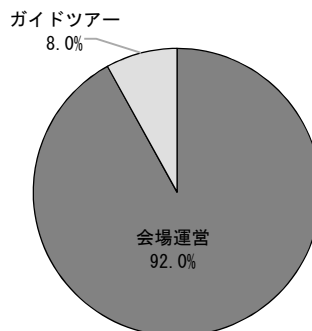
○登録者の年齢分布

区分	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
人数	158	297	173	190	217	130	50	4	1,219
割合	13.0%	24.4%	14.2%	15.6%	17.8%	10.7%	4.1%	0.3%	100.0%

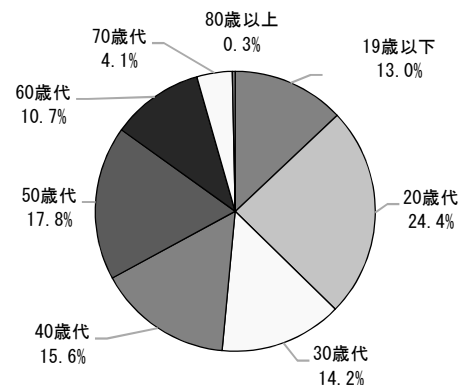
登録エリア



登録区分



年齢分布



○研修

行事名		開催日	会場
全体研修 (必須)	第1回	3月15日(金) ※1日2回開催	【名古屋】愛知芸術文化センター アートスペースA
		3月16日(土) ※1日2回開催	【名古屋】愛知芸術文化センター アートスペースA
		3月23日(土) ※1日2回開催	【豊田】産業文化センター 多目的ホール
	第2回	4月19日(金) ※1日2回開催	【名古屋】名古屋市美術館 講堂
		4月20日(土) ※1日2回開催	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		4月26日(金)	【豊田】とよた市民活動センター ホール
		4月27日(土)	【豊田】とよた市民活動センター ホール
	第3回	6月14日(金) ※1日2回開催	【名古屋】名古屋市美術館 講堂
		6月15日(土) ※1日2回開催	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		6月21日(金)	【豊田】とよた市民活動センター ホール
		6月22日(土)	【豊田】中央図書館 多目的ホール
	第4回	7月10日(水) ※1日2回開催	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		7月13日(土) ※1日2回開催	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		7月12日(金)	【豊田】とよた市民活動センター ホール
		7月14日(日)	【豊田】とよた市民活動センター ホール
	選択研修 (任意)	4月度	4月12日(金) ※1日2回開催
4月13日(土) ※1日2回開催			【名古屋】愛知県図書館 大会議室
4月14日(日) ※1日2回開催			【豊田】中央図書館 多目的ホール
5月度		5月10日(金) ※1日2回開催	【豊田】中央図書館 多目的ホール
		5月11日(土) ※1日3回開催	【名古屋】アートラボあいち
		5月12日(日) ※1日3回開催	【名古屋】アートラボあいち
6月度		6月7日(金) ※1日2回開催	【名古屋】アートラボあいち
		6月8日(土) ※1日2回開催	【名古屋】愛知県図書館 大会議室
		6月22日(土) ※1日2回開催	【豊田】中央図書館 多目的ホール
ガイドツアー ボランティア 専門研修	7月7日(日)	【名古屋】アートラボあいち	
	7月15日(月・祝)		
	7月21日(日)		
	7月28日(日)		



(7) 市民団体等との連携

- ・あいちトリエンナーレの開催目的である「文化芸術の日常生活への浸透」及び「地域の魅力の向上」を図るため、以下のとおり市民団体等との連携事業を行った。

連携団体等	事業名	事業内容
あい撮りカメラ部	「あいちトリエンナーレ 2019」の記録撮影及び写真と SNS を利用したあいちトリエンナーレの情報発信事業	SNS 上に写真を投稿することによって、愛知県のみならず、世界中のアート・写真好きの人への認知拡大、興味関心の喚起、会場へ足を運ぶきっかけ作りを行った。
大ナゴヤツアーズ実行委員会	(1) 感情を揺さぶる世界最先端の演劇！あいちトリエンナーレツアー ～キュレーターが2演目ご案内！想像力と共感を試そう～ (2) 現代アート鑑賞まち歩き！あいちトリエンナーレツアー四間道・円頓寺編 ～アシスタント・キュレーターがご案内！街に溶け込んだ現代美術を考察～	地元在住の方を対象にまち歩きツアーなどを開催している大ナゴヤツアーズとコラボレーションし、「あいちトリエンナーレ 2019」のキュレーターやアシスタントキュレーターの解説によりパフォーミングアーツや四間道・円頓寺会場の作品を観覧するツアーを開催した。
(NPO) ゴンドラと堀川水辺を守る会	堀川におけるゴンドラ体験乗船会	(NPO) ゴンドラと堀川水辺を守る会が定期的に堀川で開催しているゴンドラ体験乗船会を、「あいちトリエンナーレ 2019」の開催に合わせて 9/28(土)・9/29(日)・10/14(月・祝)に開催した。
とよた市民アートプロジェクト推進協議会	(1) 豊田市ビジターセンター とよた大衆芸術センター[TPAC] (2) 「HYBRID BUNKASAI II」	会期中、とよた大衆芸術センター[TPAC]を豊田会場のビジターセンターとして開放し、トリエンナーレやまちなかの案内、カフェバーの営業等で来場者をもてなした。また、展示会場のひとつでもある旧豊田東高等学校において、連携企画事業として、市民参加型のアートイベント「HYBRID BUNKASAI II」を10/5(土)・10/6(日)・10/13(日)に開催した。
とよトリ隊	(1) アーティストサポート (2) 豊田会場オープニングイベント「とよトリ祭」 (3) 豊田会場スタンプラリー (4) 豊田会場フィナーレ	作品制作や会場制作などアーティストのサポートを行った。また、トリエンナーレ豊田会場を盛り上げるため、オープニングイベントやフィナーレイベント、うちわ型台紙によるスタンプラリーを企画した。

5 その他

(1) 会場運営

- ・展示室やインフォメーション等にスタッフを配置したほか、来場者案内等においてボランティアの協力を得るなど、会場内の利便性向上に努めた。また、混雑時にはスタッフの増員や整理券による入場制限等により、会場内の安全確保を図った。
(※ ボランティアについては、54 ページ「ボランティア」を参照)
- ・会場間輸送として会場間シャトルを運行（愛知芸術文化センター～四間道・円頓寺会場、新豊田駅～豊田市美術館）し、来場者へのサービス向上を図った。
(※ 会場間シャトルについては、71 ページ「会場間シャトル」を参照)
- ・乳児をお連れの方にも気軽にご来場いただけるよう、愛知芸術文化センター8 階に臨時の授乳スペースを設置したほか、各会場においても対応可能なスペースを用意した。
- ・次回トリエンナーレの検討基礎資料とするため、来場者等アンケート調査や有識者ヒアリングを行った。また、「あいちトリエンナーレ 2019」開催による経済波及効果及びパブリシティ効果を算出した。
(※ アンケート結果については、90 ページ「アンケート調査結果」を参照)
(※ 経済波及効果については、128 ページ「経済波及効果」を参照)
(※ パブリシティ効果については、129 ページ「パブリシティ効果」を参照)

■インフォメーション

- ・愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、四間道・円頓寺会場、豊田市美術館及び豊田市駅周辺会場にインフォメーションを設置し、トリエンナーレに関する来場者からの様々な問い合わせ等に対応したほか、チラシやマップの配架、イベント情報の掲出など情報発信を行った。
- ・トリエンナーレに関する問い合わせに対応するため、実行委員会事務局内にコールセンターを設置した。

■チケット販売

- ・愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、四間道・円頓寺会場、豊田市美術館、豊田市駅周辺会場にチケット販売所を設置し、国際現代美術展会期中販売券の販売を行った。

■バリアフリー対応

- ・身体に障がいをお持ちの方にもご来場いただき、現代美術等に触れていただくため、会場内のバリアフリー対策や鑑賞会を実施した。
- ・会場内におけるバリアフリー対策の情報を公式 Web サイトに掲載し、来場者への周知を図った。

会場内のバリアフリー対策	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内の段差を解消するため、簡易スロープ・ゴムマット・移動に使用するための手動車椅子を配備した。 ※スロープ [名古屋地区] 四間道・円頓寺（伊藤家住宅、なごのステーション） [豊田地区] 豊田市駅周辺（名鉄豊田市駅下、旧豊田東高等学校） ゴムマット [豊田地区] 豊田市駅周辺（名鉄豊田市駅下） ・名古屋、豊田地区において、会場間の移動に介助や案内を必要とする方に対応するため、土日及び祝祭日に介助スタッフの会場巡回を委託した。（委託先：社会福祉法人 AJU 自立の家） ・上下移動の手段が階段しかなく、車椅子等をご利用の方の鑑賞が難しい会場では、タブレット端末（画像）により展示作品をご案内した。
鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚に障がいのある方を対象に、作品解説を聞いたり作品に触れたりできるボランティアガイドによる鑑賞会を実施した。※9月22日(日)午前、午後(各1回ずつ) ・聴覚に障がいのある方を対象に、要約筆記を使用したボランティアガイドによる鑑賞会を実施した。※9月18日(水)・9月23日(月・祝)の計2日(各1回ずつ)
会場間シャトル	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすに対応したウェルキャブハイエースを愛知芸術文化センター～四間道・円頓寺会場で運行した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・無料配布した「ガイドマップ」に、多機能トイレ設置場所の案内を掲載した。

■会場サイン

- ・メインビジュアル、ロゴを活用したサイン計画を策定し、各会場の屋内外に来場者誘導のためのサインを設置するとともに、開催機運醸成のためのフラッグ等をまちなかの街路灯などに設置した。



〔名古屋地区〕愛知芸術文化センター
（正面2階）



〔名古屋地区〕国際センタービル壁面



〔豊田地区〕旧豊田東高等学校



〔名古屋地区〕街路灯フラッグ（広小路通）

■ユニフォーム

- ・まちなか会場のスタッフ及び服装にレギュレーションのないスタッフとボランティアスタッフの着用するTシャツは、来場者がスタッフかボランティアを直感的に理解できるようなデザインとした。
- また、全てのスタッフがスタッフ証を着用することで、国際芸術祭としての統一感を図った。



(2) 広報・PR

■パブリシティ実績

- ・多くの新聞、テレビ等のメディアを通じて広く情報が発信され、確認できたパブリシティ件数は14,133件であった。

種別	掲載・放映件数	内訳		
		全国	地方	海外
新聞	3,005件	356件	2,622件	27件
雑誌	148件	75件	67件	6件
テレビ	647件	218件	400件	29件
ラジオ	34件	2件	31件	1件
Web	10,299件	国内：10,094件		205件
計	14,133件	13,865件		268件

※新聞については、2017年7月19日から2019年10月31日までの件数

※雑誌については、2017年8月から2019年10月までの件数

※テレビについては、2018年10月から2019年10月までの件数

※ラジオについては、2018年10月から2019年9月までの件数

※Webについては、2017年7月から2019年10月までの件数

■記者等への情報提供

- ・企画内容や参加アーティスト等の主要な情報が決定した際に記者発表会を開催したほか、海外での情報発信や、記者クラブへの情報提供を行った。

○記者発表会

- ・愛知県内で6回、東京都内で1回の記者発表会を開催した。
- ・記者発表会では、芸術監督やキュレーターによる企画概要の説明を行った。

区分	開催日	会場	主な発表内容	参加者数
愛知	2017年8月1日(火)	県庁本庁舎 記者発表室	芸術監督就任	13社 (20人)
	2017年10月20日(金)	愛知芸術文化センター 大リハーサル室	テーマ・コンセプト、メイン ビジュアル	12社 (18人)
	2018年3月28日(水)	愛知芸術文化センター 小ホール	企画体制、会場	12人
	2018年10月18日(木)	愛知芸術文化センター アートスペースA	参加アーティスト、企画概要	20社 (28人)
	2019年3月27日(水)	愛知芸術文化センター 小ホール	各プログラムの展開内容、参 加アーティスト	15社 (23人)
	2019年7月31日(水)	愛知芸術文化センター アートスペースA	各プログラムの見どころ	約60社 (約65人)
東京	2019年4月2日(火)	スマートニュース株式会 社イベントスペース	各プログラムの展開内容、参 加アーティスト	27社 (31人)

○記者クラブへの情報提供

- ・2017年4月から閉幕（2019年10月14日）までに、愛知県政記者クラブ及び中部芸術文化記者クラブを中心に、計70回の資料配付を行った。
- ・企画内容や参加アーティスト等の主要な内容が決定した際に、プレスリリース冊子を作成し、記者発表会等において配布した。また、公式Webサイトのプレス向け情報ページにも掲載した。

○海外での情報発信

- ・ International Biennale Association (IBA) (国際ビエンナーレ協会) 会員登録し、同協会の公式 Web サイトからの情報配信 (英語: 2018 年 5 月、11 月、2019 年 4 月)。また、IBA 総会に飯田チーフ・キュレーターが出席し、「あいちトリエンナーレ 2019」開催概要や参加アーティストなどを紹介した (2018 年 12 月 15 日、コチ (インド))。
- ・ 海外へのメール配信サービス e-flux の活用 (英語: 2018 年 5 月、11 月、2019 年 4 月)。
- ・ アジアで最大のアートフェア「アートバーゼル香港」(2019 年 3 月)において無料配布される美術専門雑誌「ArtReview Asia」に広告を出稿。

■取材への対応

- ・ 作品解説や会場案内を行うとともに、芸術監督やアーティストへのインタビューのコーディネートを行うなど、取材内容によって個別に対応した。
- ・ 内覧会開催日 (7 月 31 日) から閉幕日 (10 月 14 日) まで、国内外からの 915 件の会場取材に対応した。

○取材件数

・メディア別・時期別取材件数

(単位: 件)

	プレスツアー 7/31-8/1	内覧会 7/31	8/1-15	8/16- 31	9/1-15	9/16-30	10/1-15	合計	割合
新聞	13	10	96	18	25	10	142	314	34.3%
雑誌	14	3	25	1	14	6	29	92	10.1%
テレビ	1	7	65	13	16	19	97	218	23.8%
ラジオ	0	1	4	0	1	1	3	10	1.1%
WEB	29	5	42	8	9	12	63	168	18.4%
その他	12	8	24	5	9	5	50	113	12.3%
合計	69	34	256	45	74	53	384	915	
割合	7.5%	3.7%	28.0%	4.9%	8.1%	5.8%	42.0%		

・メディア別・地域別取材件数 (プレスツアーを除く)

(単位: 件)

	県内	県外	海外	合計	割合
新聞	205	73	23	301	35.6%
雑誌	7	65	6	78	9.2%
テレビ	146	37	34	217	25.7%
ラジオ	7	3	0	10	1.2%
WEB	35	99	5	139	16.4%
その他	23	75	3	101	11.9%
合計	423	352	71	846	
割合	50.0%	41.6%	8.4%		

○プレス証の発行

- ・会場への入場が必要となる取材にはプレス証を発行した。
- ・内覧会開催日から閉幕日まで、プレス証を発行した報道関係者は1,127人であった。

・メディア別・時期別プレス証発行件数

(単位：件)

	プレスツアー 7/31-8/1	内覧会 7/31	8/1-15	8/16-31	9/1-15	9/16-30	10/1-15	合計	割合
新聞	20	11	111	18	18	8	149	335	29.7%
雑誌	18	9	19	1	5	7	20	79	7.0%
テレビ	1	25	177	34	34	26	212	509	45.2%
ラジオ	0	2	5	0	0	0	2	9	0.8%
Web	32	6	19	4	4	6	54	125	11.1%
その他	12	13	15	1	0	2	27	70	6.2%
合計	83	66	346	58	61	49	464	1,127	
割合	7.4%	5.9%	30.7%	5.1%	5.4%	4.3%	41.2%		

・メディア別・地域別プレス証発行件数（プレスツアーを除く）

(単位：件)

	県内	県外	海外	合計	割合
新聞	242	59	14	315	30.2%
雑誌	8	46	7	61	5.8%
テレビ	345	89	74	508	48.7%
ラジオ	5	4	0	9	0.9%
Web	9	79	5	93	8.9%
その他	14	41	3	58	5.6%
合計	623	318	103	1,044	
割合	59.7%	30.5%	9.9%		

○プレスツアーの実施

- ・国内外の報道関係者を対象として、内覧会開催日及び閉幕日（2019年7月31日、8月1日）に、芸術監督はじめキュレーター等が各会場で作品解説を行うプレス向けバスツアー（国内プレス：大型バス2台、海外プレス：中型バス1台）を実施し、83人が参加した。（1日のみの参加者も含む。）

○プレスルームの設置

- ・7月31日から8月12日までの間、愛知芸術文化センター12階アートスペースE、Fにプレスルームを設置した。
- ・プレスルームにはスタッフが常駐し、当日取材申請の受付、プレス証の発行、プレスキットの配付、イベント・会見告知、打合せスペースの提供、Wi-Fi通信環境の提供、荷物一時預かりなどのサービスを提供した。
- ・また「表現の不自由展・その後」の展示再開に合わせ10月8日～14日までの間、アートスペースC室等にプレスデスクを設置し取材申請の受け入れ、プレス証の発行等を行った。

■ 広報用印刷物

- ・チラシ、ポスター等の広報用印刷物は、あいちトリエンナーレ 2019 全体を広報するものから国際現代美術展、舞台芸術、ラーニング等それぞれの分野を広報するものまで、計 107 種類を作成した。

・ 印刷物全体

種別	種類	数量
チラシ、リーフレット	60	1,719,900
ポスター	30	11,558
リリース資料	5	11,400
発送用資材	11	37,200
スタッフ用Tシャツ	1	100
合計	107	1,780,158



全体ポスター
(2019年7月制作)

■ PR動画

- ・あいちトリエンナーレを PR するために、トリエンナーレの概要、芸術監督の映像、アーティストの制作風景、展示風景等を盛り込んだ動画を制作し、以下の通り放映した。
- ・先行告知用 2 本、本告知用 38 本、閉幕後広報用 10 本、合計 50 本のプロモーション動画を制作した。

区分	内容
Web サイト	あいちトリエンナーレ公式 Web サイト
SNS	あいちトリエンナーレ公式 SNS
公共施設等のモニター	愛知芸術文化センター、ウイंकあいち、市町村役場窓口等
その他	各種イベントの PR ブース等

■Web を用いた広報

- ・公式 Web サイトを中心に、SNS（インスタグラム、ツイッター、フェイスブック）を積極的に活用して即時性の高い情報発信を行った。

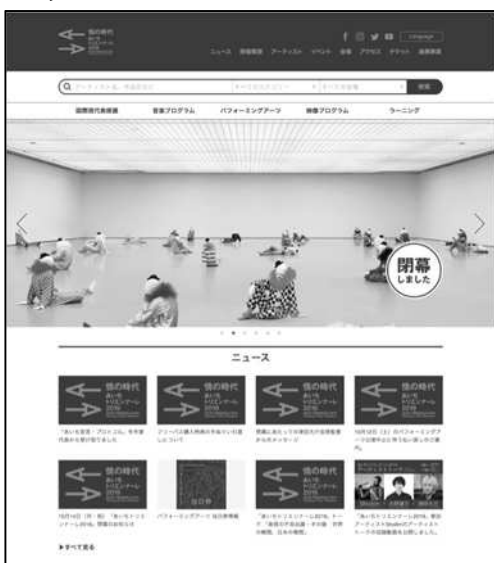
○公式 Web サイト

- ・会期中には 148 の国と地域からアクセスがあり、その総数は 8,053,044 ページビュー※（1,874,564 セッション※）であった。

※ページビュー数：ページへのアクセス数（クリック単位）

セッション数：Web サイトへ訪れたユーザー数（人単位）

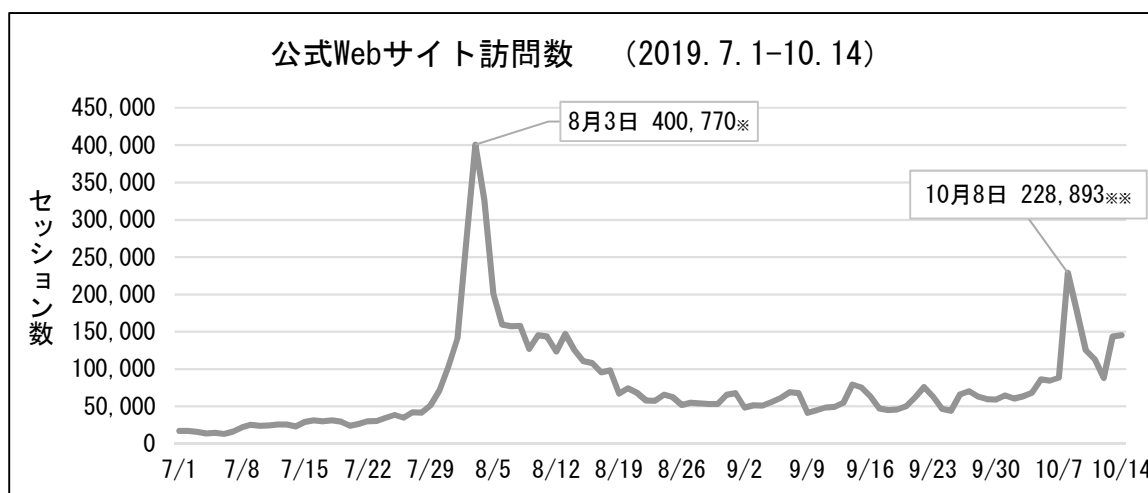
・ トップ



・ アーティスト



・ セッション数の推移



※8月3日：「表現の不自由展・その後」展示中止決定

※※10月8日：「表現の不自由展・その後」展示再開

○メールニュース

- ・2017年7月から2019年10月まであいちトリエンナーレ2019の開催概要、アーティストの作品制作に関する情報やイベント情報等を「あいちトリエンナーレニュース」としてメールニュースの登録者へ配信した。

○Web サイト広告

- ・2019年4月から10月までの、Webサイトにおける広告出稿の合計は10件（国内6件、海外4件）であった。

○公式 SNS

- ・開幕前の準備の様子や開幕後のニュース、イベント情報、緊急のお知らせなどをリアルタイムで配信した。

・公式インスタグラム

[基本概要（2019年10月30日現在）]

アカウント名：aichitriennale（2016年5月31日開設）

フォロワー総数：4,439人

フォロー総数：35人

投稿総数：542件



・公式ツイッター

[基本概要（2019年10月30日現在）]

アカウント名：Aichi_Triennale（2010年2月24日開設）

フォロワー総数：23,962件

フォロー総数：2,282件

ツイート総数：8,748件



・公式フェイスブック

[基本概要（2019年10月30日現在）]

アカウント名：AICHITRIENNALE
（2011年7月25日開設）

フォロワー総数：15,370人

合計いいね！数：15,180



■愛知県、市町村、交通機関等と連携した広報・PR

- ・愛知県、愛知県内の市町村、交通機関、その他団体等と連携し、各種広報活動を行った。

○愛知県、市町村との連携

区分	主な内容
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞内「広報あいち」への掲載（7回） ・テレビ番組「まるまる◎あいち」等での放送（5回） ・ラジオ番組「あいち県政リポート」「AICHI SUNDAY TIPS」等での放送（3回） ・県公式Webサイトのトップページへのトリエンナーレバナーの掲出のほか、「あいちインターネット情報局」「モバイルネットあいち」等へ情報掲載 ・愛知県広報動画「愛知の引力。」へ情報掲載 ・愛知DCアフターキャンペーン JR月別重点ポスターへ情報掲載 ・手羽先サミットパンフレットへの広告掲載 ・あいちの女子旅誘致プロモーション事業との連携 ・TOKYO愛知女子会会員への情報提供 ・愛知県図書館にて関連図書コーナー設置、講演会「あいちトリエンナーレから見る四間道・円頓寺」を開催
名古屋市	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「広報なごや」への掲載（2回）
豊田市	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「広報とよた」への掲載（6回）
その他市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村広報誌への掲載（2018年度33市町村、2019年度27市町村）

○交通機関との連携

区分	主な内容
名古屋市交通局	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄各駅等で配布している特典ガイドブック「なごや得ナビ」へ情報掲載 ・地下鉄車内に「ドニチエコきっぷ」との連携ポスターを掲出（3,000枚） ・「駅ちかウォーキング」にトリエンナーレ会場を組んで実施（参加者2,874人）
名古屋鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・各駅構内及び電車内にポスターを掲出（駅貼120枚、車内3,000枚） ・各駅にてリーフレット配架（6,000枚）
東海旅客鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・各駅構内にポスターを掲出（32枚）
愛知環状鉄道株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・「愛環ぶらっとウォーキング」にトリエンナーレ会場を組み込み、完歩者向けにコラボピンバッジを作成（参加者900人） ・各駅構内にポスターを掲出（23枚）
東部丘陵線連絡協議会（リニモ）	<ul style="list-style-type: none"> ・「リニモ新緑ウォーキング」の完歩者向けにコラボピンバッジを作成
中部国際空港株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・セントレアのターミナルビル内大型ビジョンでPR動画を放映

○その他団体等との連携

区分	主な内容
公益財団法人あいち男女共同参画財団	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいち国際女性映画祭2018」会場においてPV放映、チラシ配布
公益財団法人愛知県国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・機関紙「あいち国際プラザ」を活用した情報提供
一般社団法人愛知県観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・公式Webサイト「Aichi Now」による情報発信 ・ガイドブック「旬感観光あいち」による情報発信
公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー	<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所でのポスター掲出及びチラシ設置 ・公式Webサイト「名古屋コンシェルジュ」による情報発信 ・観光ガイド「キラッとナゴヤ」への掲載
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県生涯学習推進センター	<ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「まなびいあいち（第65号）」へ記事掲載
スーパー・コンビニエンスストア	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県と流通業者との包括協定を活用し、コンビニエンスストア等においてポスター掲出及びチラシ設置
書店	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市内の大型書店を中心にポスター掲出、しおり等設置 ・希望店舗にてあいちトリエンナーレ2019公式デザイナーグッズ販売
チケットプレゼント企画	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌、テレビ、ラジオ等のタイアップ企画として、チケットプレゼント企画を実施（7企画）

■芸術祭等連携事業

- ・あいちトリエンナーレ 2019 と同時期に開催される、下記の芸術祭等と連携して、相互に広報展開を行った。

区分	開催地
瀬戸内国際芸術祭 2019	香川県、岡山県
Reborn-Art Festival 2019	宮城県
中津川 THE SOLAR BUDOKAN 2019	岐阜県
森、道、市場 2019	愛知県

■広告

- ・国際現代美術展特別先行前売券発売日（2019年4月1日）や開幕日の前後の時期、会期中を中心に、各種メディアへの広告や交通広告を展開した。

○各種メディア広告

- ・新聞、雑誌等、ラジオに計 55 件の広告出稿を行った。

種別	広告出稿件数
新聞	10 件
雑誌・フリーペーパー	18 件
テレビ	0 件
ラジオ	27 件
計	55 件

○交通広告

- ・ターミナル駅である名古屋駅や、会場に近い栄駅及び豊田市駅、外国人観光客が多数訪れる中部国際空港駅においてポスターやデジタルサイネージの掲出を行ったほか、名古屋市営地下鉄、JR、名古屋鉄道、愛知環状鉄道の車両内にポスター等を掲出した。
- ・特に、今回初めての取組として、2019年4月から9月までの長期間にわたるデジタルサイネージ掲出を、JR名古屋駅において実施した。

区分	掲出箇所
ポスター	地下鉄車内、名鉄車内、JR車内、名鉄豊田市駅
ドアステッカー	JR車内、愛知環状鉄道車内
デジタルサイネージ	JR名古屋駅、地下鉄栄駅、名鉄中部国際空港駅



JR名古屋駅（デジタルサイネージ）



名鉄中部国際空港駅（デジタルサイネージ）

(3) 公式出版物

■公式ガイドマップ

- ・前回作成の「公式ガイドブック」(有料)、「ポケットマップ」(無料)、「キャラバンガイドブック」(無料)を統合、新たにタブロイド判のガイドマップを制作し、会期中来場者へ無料配布した。

媒体名	あいちトリエンナーレ 2019 公式ガイドマップ (前納版)、(後納版)
発行日	(前納版) 2019年7月29日、(後納版) 2019年9月16日
判型等	タブロイド判、12ページ
言語	日本語
発行部数	(前納版) 150,000部、(後納版) 250,000部
配布	無料
内容	全作品・公演を網羅した作品紹介、会場巡りに便利なマップ、アクセス情報、イベントスケジュール等、「あいちトリエンナーレ 2019」巡りに必要な情報を全12ページに厳選して掲載。



媒体名	あいちトリエンナーレ 2019 公式ガイドマップ (英語版)
発行日	2019年7月29日
判型等	タブロイド判、8ページ
言語	英語
発行部数	20,000部
配布	無料
内容	日本語版のガイドマップから、海外からの来場者に必要な情報を厳選・再編集し、英語で掲載。



■公式カタログ

- ・30の国と地域から参加したアーティスト 93組を網羅した公式カタログを発行する。

発行予定日	2020年3月31日(火)
判型等	A4判変形、368ページ
言語	バイリンガル(日本語・英語)
発行部数	3,000部
販売額	3,200円(税別)
内容	・芸術監督及びキュレーターエッセイ ・国際現代美術展出品作+アーティストページ ・トリエンナーレ出品作品リスト
発行	あいちトリエンナーレ実行委員会
発売	株式会社生活の友社



(4) 公式アプリ

■「あいちトリエンナーレ 2019」公式アプリ

- ・「あいちトリエンナーレ 2019」公式アプリを新規で開発し、無料で配信した。
- ・マップアプリを利用した会場間のルート案内機能や作家名・ジャンル・会場から観たい作品が探せる検索機能、作品の意図や面白さを分かりやすく解説する「音声ガイド」機能、さらに、チケット購入サイトへの誘導などを搭載することで来場者の利便性の向上を図った。

○主な仕様等

対応機種	iOS 及び Android
対応言語	日本語、英語
ダウンロード件数	12,350 件

○アプリ利用者の属性

(アンケート回答者のみ)

男性	4,284 人 (46.0%)
女性	4,948 人 (53.2%)
その他	72 人 (0.8%)

○閲覧件数

画面	件数
アンケート	13,303
トップページ	159,212
作家・作品紹介 (音声ガイド)	142,760 (14,815)
会場案内	156,931
その他 (検索結果)	234,852 (166,191)
合計	707,058

○画面イメージ



(5) オフィシャルグッズ

- ・公式デザイナーがメインビジュアルをモチーフにデザインした「公式デザイナーグッズ」、地元デザイナーが愛知の食の名産品のパッケージを新たにデザインした「あいちの名産 リ・デザイングッズ」、出展作品をポストカードにした「アーティストグッズ」を作成し、オフィシャルショップ等で販売した。
- ・参加アーティストの DVD 等の「既成アーティストグッズ」や、テーマカラーであるゴールドに関連した「金色グッズ」もオフィシャルショップ等で販売した。

■オフィシャルグッズ

区分	品目数	備考
公式デザイナーグッズ	9 品目 (14 種類)	ピンバッジ、マスキングテープ、クリアファイル(2種)、一筆箋、トートバッグ(A4サイズ、A3サイズ)、Tシャツ(3種)、ミニタオル、サコッシュ(2種)、マグネット
あいちの名産 リ・デザイングッズ	6 品目 (6 種類)	<ul style="list-style-type: none"> ・むらさき麦と玄米のせんべい／株式会社どんぐりの里 (豊田市) ・米粉のダックワーズブルーベリーサンド／同上 ・ブルーベリーのお酢／同上 ・月餅もなか／株式会社川村屋 (豊田市) ・げんこつぼー／有限会社高田屋製菓 (犬山市) ・メヒカリの油漬け／有限会社まんてん (豊橋市)
アーティストグッズ	1 品目 (16 種類)	ポストカード (16 種)
既成アーティストグッズ	17 品目	鷲尾友公てぬぐい、菅俊トートバッグ、加藤翼 DVD など
金色グッズ	38 品目	小判バスマム入浴剤、キラキラボール鯨、ゴールドトランプ金鯨など

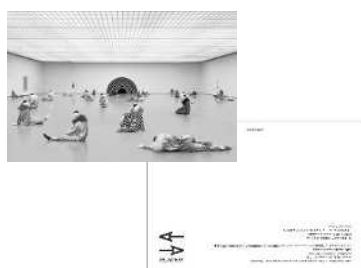


Photo:Yasuko Okamura

公式デザイナーグッズ



あいちの名産 リ・デザイングッズ



アーティストグッズ



Photo:Yasuko Okamura

既成アーティストグッズ



金色グッズ

■ ショップ

・オフィシャルショップ

場所	開設期間	売上金額	備考
愛知芸術文化センター10階	7月31日(水)～10月14日(月・祝)	8,514千円	利用者数 6,353人

・その他ショップ

場所	販売期間	取扱い商品
四間道・円頓寺会場インフォメーション	7月31日(水)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ、リ・デザイングッズ、アーティストグッズ、既成アーティストグッズ
豊田市駅周辺会場インフォメーション	7月31日(水)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ、リ・デザイングッズ、アーティストグッズ、金色グッズ
アートショップ マイブック※	7月31日(水)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ
名古屋市美術館※	7月31日(水)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ、アーティストグッズ
豊田市美術館※	7月31日(水)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ
名古屋みなと 蔦屋書店	7月31日(水)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ、リ・デザイングッズ
ジュンク堂 ロフト名古屋	8月2日(金)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ
ジュンク堂 名古屋栄店	8月24日(土)～9月30日(月)	公式デザイナーグッズ
丸善 名古屋本店	8月22日(木)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ
三省堂書店 名古屋本店	8月10日(土)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ
愛知県職員生協※	4月1日(月)～10月14日(月・祝)	公式デザイナーグッズ(ピンバッジ)

※ピンバッジのみ4月より順次先行販売を行った。



Photo: Yasuko Okamura

オフィシャルショップ



四間道・円頓寺会場インフォメーション



名古屋みなと蔦屋書店

(6) 会場間シャトル

- ・ 来場者へのサービス向上を図るため、名古屋市内（愛知芸術文化センター～四間道・円頓寺間）及び豊田市内（新豊田駅～豊田市美術館）の移動手段として会場間シャトルを運行した。
- ・ 車体には公式デザイナーがデザインしたラッピングを施し、「動く広告塔」として PR 面でも大きな効果を果たした。

	名古屋市内	豊田市内
運行区間	愛知芸術文化センター～四間道・円頓寺	新豊田駅～豊田市美術館
運行時間	12:00～18:00（毎時 00 分と 30 分に発着） 月曜（祝休日を除く）は運休	9:45～17:30（1 時間に 2 本発着） 13:00～14:00 は運休 土日祝休日のみ運行
車種	MIRAI、ウェルキャブハイエース	マイクロバス
運賃	無料（ただしトリエンナーレチケットの提示が必要）	片道 200 円
利用者数	4,554 人	8,140 人※

※豊田市内の会場間シャトルは同時期に豊田市美術館で開催されたクリムト展と合同で民間主体による運営で実施



Photo: Yasuko Okamura

(7) 旅行会社・ホテルとの連携

- ・ 旅行会社各社と連携し、愛知・名古屋・東海地方方面への旅行パンフレット等（10 種類）にあいちトリエンナーレの情報を掲載した。
- ・ 名古屋市内 37 か所、豊田市内 1 か所のホテルと連携し、チケット付宿泊プランやフロントでのチケット販売を実施した。合計で 572 件の利用があった。

(8) 会場周辺店舗等との連携

- ・あいちトリエンナーレ会場としての一体感のある盛り上げやにぎわいを創出するとともに、来場者へのおもてなし・サービス向上のため、まちなか会場周辺の店舗等と連携を図った。
- ・ポスターの掲出、チラシ・会場マップの配架といった広報協力のほか、国際現代美術展チケットを提示した方へのサービス提供やあいちトリエンナーレ関連メニューの提供などで協力いただいた店舗の情報を展示会場の情報とともに掲載したマップを連携先主体により作成した。作成したマップは、展示会場や周辺店舗等で配架した。



四間道・円頓寺地区お散歩ブック
(発行：縁側妄想会議編集室)



とよたまちなかサポーター店チラシ
(発行：豊田市中心市街地まちなか宣伝会議事務局)

(9) 企業・団体等からの協賛・協力

- ・企業、団体及び個人（以下、企業等）から、寄付、チケット購入、製品・場所の提供など、236件の御支援を頂いた。

■協賛等の内容

種類		対応等	支援を頂いた件数
協賛	寄付	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知芸術文化センター会場での企業等広報資料等（パンフレット、グッズ等）の配布、ノベルティ（うちわ）や愛知県内の全小学生向けのタブロイドのチラシなどへの企業等名又はロゴタイプの掲載など、各種広報媒体等で企業等のPRを行った。また、オープニングレセプションの招待状など、金額に応じた特典も設けた。 ・あいちトリエンナーレは、特定公益増進法人である公益社団法人企業メセナ協議会の助成対象活動と認定されており、同協議会を通じてトリエンナーレ実行委員会に寄付すると、法人税法上、一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で、損金限度額まで算入される。 	73件
	チケット購入	<ul style="list-style-type: none"> ・100枚以上まとめて購入の場合は、通常の前売り価格よりも廉価で提供した。 ・チケット購入価格を「寄付金額」に当てはめて、PR及び特典の対応を行った。 	111件
協力	作品展示や広告スペースの提供、製品やサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・提供スペースの使用料や製品・サービスの料金を市場価格により現金換算し、換算価格の2分の1を「寄付金額」に当てはめて、PR及び特典の対応を行った。 	25件
会場提供	まちなかの展示スペース等の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・一律にPR及び特典の対応を行った。 	18件
有償広告掲載		<ul style="list-style-type: none"> ・企業等と実行委員会が有償広告の掲載に係る契約を結び、ガイドマップの有償広告スペースに企業等の広告を掲載した。 ・企業等が広告宣伝費として処理すれば、法人税法上、損金に算入される。 	9件
計			236件

**6 「あいちトリエンナーレ 2019」
「表現の不自由展・その後」の展示中止・再開に係る主な経緯**

月 日	内 容
7月31日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝刊に「平和の少女像」展示の報道。トリエンナーレ実行委員会事務局（以下、「事務局」）への抗議電話が始まる。 ・午後には事務局の電話回線がパンク状態に。 ・文化庁がオープニング・レセプションを急遽欠席。
8月1日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局へ抗議電話が殺到(200件)、他業務が行えない状況に。 ・職員個人が中傷される事案が相次ぐ。
8月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、ガソリンテロを予告する脅迫 FAX を発見。東警察署へ通報。 ・名古屋市長が会場視察。「表現の不自由展・その後」の展示中止を求める。 ・県庁など他機関へも抗議電話が殺到。本庁にコールセンター設置。 ・津田芸術監督が、「展示の変更も含め、何らかの対処を行うことを考えている」とのステートメントを発出。
8月3日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・大村知事(実行委員会会長)と津田芸術監督は、安全性が確保できず、円滑な運営ができないことから「表現の不自由展・その後」の展示を3日までとすることで合意。 ・午後5時から大村知事が記者会見。引き続き津田芸術監督が会見。
8月4日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁に経緯を説明
8月5日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝、愛知芸術文化センターや県内の小中学校、高校、幼稚園にガソリンテロを予告するメールが届く。
8月6日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・8月2日の脅迫 FAX に対する被害届を東警察署に提出。 ・作家2名の展示が、作家の意向により中止となる。 ・参加アーティスト72組が声明を発表。 ・「表現の不自由展・その後」実行委員会から公開質問状。
8月7日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知芸術文化センター内でガソリンだと叫びながら液体を撒いて暴れた男を警察が現行犯逮捕。 ・脅迫 FAX の容疑者を逮捕。
8月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県が、第三者委員会「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」を8月16日(金)に立ち上げると発表。
8月10日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の不自由展・その後」の展示中止に抗議して、海外作家が自身の展示を閉鎖。
8月12日 (月・祝)	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁及び芸術文化センター周辺でピラが掲示。 ・アーティスト主催の意見交換会が開かれ、参加アーティストと津田芸術監督が意見交換。

月 日	内 容
8月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・海外作家9名が展示作品の一時的な停止を決めた公開書簡が、国内外のメディアで報道される。 ・脅迫メールに対する被害届を東警察署に提出。
8月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」第1回会議開催。
8月22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・大村知事がトリエンナーレの全参加作家に対して書簡を発送。 ・「表現の自由に関する公開フォーラム(仮称)」を9月に、「表現の自由に関する国際フォーラム(仮称)」を10月に開催したい旨言及。
9月3日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人作家1名が出展作品の内容を再設定。
9月11日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の出展作家35組が、不自由展の再開を含め、これまで中止・変更された全展示の再開を目指すプロジェクト「ReFreedom_Aichi」の開始を発表。
9月13日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の不自由展」実行委員会が展示の再開を求める仮処分の申立てを名古屋地方裁判所に提出。
9月17日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」第2回会議開催。
9月21日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の自由に関する公開フォーラム」開催。
9月22日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・四間道・円頓寺会場周辺でビラが掲示。
9月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人作家1名が作品の展示を一時中止(平日のみ)。
9月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいちトリエンナーレのあり方検証委員会」第3回会議開催。 ・検証委員会が中間報告を発表。まとめにおいて、「条件が整い次第、すみやかに(「表現の不自由展・その後」を)再開すべき」と提案。 ・検証委員会の提案を受けて、知事が「再開を目指したい」と表明。
9月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁が、愛知県が申請していた「平成31年度文化資源活用事業費補助金(日本博を契機とする文化資源コンテンツ創生事業)」の不交付を決定・通知。
9月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人作家1名が作品の展示を一時停止。 ・展示を一時中止している海外作家から知事あてに、10月5日の不自由展再開を求める書簡。
9月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・あり方検証委員会中間報告に対する知事方針を踏まえ、トリエンナーレ実行委員会が「表現の不自由展」実行委員会に対し展示再開に向けた協議を申し入れ。 ・「表現の不自由展」実行委員会と和解が成立。

月 日	内 容
10月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の不自由展」実行委員会とあいちトリエンナーレのキュレーターチームが、不自由展再開に向けて鑑賞方式等の協議を実施。 ・知事が、トリエンナーレの全参加作家に対して、展示再開に向けた協議を呼びかけた旨の書簡(9月30日付)を発送。
10月5日(土) 6日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいちトリエンナーレ 2019 国際フォーラム「『情の時代』における表現の自由と芸術」開催。
10月7日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・知事が臨時会見を開き、10月8日(火)からあいちトリエンナーレの参加作家全員が復帰して再開すると発表。
10月8日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現の不自由展・その後」展示再開。 ・トリエンナーレ参加作家によるコールセンター開設。 ・名古屋市長が芸文センター2階のペDESTリアンデッキで抗議行動。
10月11日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・トリエンナーレを脅迫する不審郵便物が芸文センターに届く。 ・県内6市に、市内の学校等への放火を予告する脅迫メールが届く。
10月12日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号の影響で全会場休館。PA等の公演も全て中止。
10月14日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・知事が「あいち宣言・プロトコル」の草案を受取。 ・「あいちトリエンナーレ 2019」閉幕。 来場者数は67万546人(速報値)で過去最高を記録。
10月24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁の補助金不交付決定に対して、県が補助金適化法に基づき不服申出書提出。

会期中のイベント・プログラム

■8月

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
7月 31日 (水)	全会場	13:00-17:00	—	一般内覧会	招待者	—
	芸文	10:30-13:00	—	プレスツアー	報道関係者	—
		16:00-17:00	—	記者会見	報道関係者	—
	名市美	14:45-15:30	—	プレスツアー	報道関係者	—
	四/円	13:30-14:30	—	プレスツアー	報道関係者	—
名古屋東急ホテル	18:00-20:00	—	—	オープニングレセプション	招待者	約1,200人
1日 (木)	芸文	9:50-10:00	—	開幕セレモニー	無料	—
		19:00-20:00	舞台芸術	『パブリックスピーチ・プロジェクト』プロジェクトプレゼンテーション/高山明 (Port B)	要チケット	111人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/曾我部恵一	無料	549人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』/ユザーン	無料	358人
	豊田市美・豊田市駅 TOYOTA BUDOKAN	13:00-15:30	—	—	プレスツアー	報道関係者
18:00-20:30	—	—	豊田会場オープニングイベント	無料	—	
2日 (金)	芸文	13:00-13:30	現代美術	アーティストトーク/ピア・カミル、	要国際展券	41人
		13:45-14:15	現代美術	アーティストトーク/ハビエル・テジェス	要国際展券	43人
		14:30-15:00	現代美術	アーティストトーク/クラウディア・マルティネス・ガライ	要国際展券	67人
		18:00-19:30	現代美術	アーティストトーク/タニア・ブルゲラ、レジーナ・ホセ・ガリンド	要国際展券	37人
		17:00-18:00	舞台芸術	『パブリックスピーチ・プロジェクト』プロジェクトプレゼンテーション/高山明 (Port B)	要チケット	181人
	19:00-20:30	舞台芸術	『5つのやさしい小品』/ミロ・ラウ (IIPM) +CAMPO ※終演後、ポストトーク実施	要チケット	167人	
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/内田万里	無料	242人
12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』/ユザーン	無料	248人		
3日 (土)	芸文	11:00-13:00	現代美術	キュレーターによるハイライトツアー	要国際展券	103人
		14:00-14:45	舞台芸術	【エクステンション】レクチャーパフォーマンス『ロミオ』/ドラ・ガルシア	要チケット	174人
		16:00-17:30	舞台芸術	『5つのやさしい小品』/ミロ・ラウ (IIPM) +CAMPO	要チケット	170人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/outside yoshino	無料	433人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』/ユザーン	無料	413人
	豊田市駅	11:00-12:30	現代美術	アーティストトーク/アンナ・ヴィット	無料	31人
芸創	19:00-20:55	舞台芸術	『幸福の追求』/ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ+エンクナップグループ	要チケット	242人	
4日 (日)	芸文	12:00-12:45	舞台芸術	【エクステンション】レクチャーパフォーマンス『ロミオ』/ドラ・ガルシア	要チケット	125人
		14:00-15:30	舞台芸術	『5つのやさしい小品』/ミロ・ラウ (IIPM) +CAMPO ※終演後、ポストトーク実施	要チケット	178人
	名市美	11:00-12:00	現代美術	キュレーターによるハイライトツアー	要国際展券	50人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/呂布カルマ	無料	526人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』/ユザーン ※非公開	無料	—
	芸創	17:00-18:55	舞台芸術	『幸福の追求』/ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ+エンクナップグループ ※終演後、ポストトーク実施	要チケット	223人
	豊田市美	13:00-14:00	現代美術	キュレーターによるハイライトツアー	要国際展券	42人
豊田市駅	11:00-12:00	現代美術	キュレーターによるハイライトツアー	無料	30人	
5日 (月)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』/ユザーン ※非公開	無料	—

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
6日 (火)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	252人
7日 (水)	芸文	19:00-20:00	舞台芸術	『暗闇 -KURAYAMI-』 / サカナクション	要チケット	2,020人
	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	292人
8日 (木)	芸文	15:00-16:00 19:00-20:00	舞台芸術	『暗闇 -KURAYAMI-』 / サカナクション	要チケット	4,195人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 崎山蒼志	無料	406人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	454人
9日 (金)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / けもの	無料	195人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	273人
	ミッド	21:00-30:00	現代美術	映像プログラム	要チケット	143人
10日 (土)	芸文	15:00-16:00 19:00-20:00	舞台芸術	『暗闇 -KURAYAMI-』 / サカナクション	要チケット	4,231人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / ぱいぱいでか美	無料	279人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン ※非公開	無料	-
11日 (日)	芸文	15:00-16:00 19:00-20:00	舞台芸術	『暗闇 -KURAYAMI-』 / サカナクション	要チケット	4,243人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 春ねむり	無料	230人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	676人
12日 (月)	芸文	14:00-15:00	ラーニング	アーティスト「と」みるツアー / 下道基行	要国際展券	10人
		10:00-11:00	ラーニング	ベビーカーツアー	要国際展券	9人
	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン ※非公開	無料	-
13日 (火)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	627人
14日 (水)	名市美	10:00-15:00	ラーニング	ワークショップ ユニフォームをつくる!	無料	11人
	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	480人
15日 (木)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 猫を墮ろす wave set ※台風の影響により中止	無料	-
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	164人
16日 (金)	芸文	19:00-20:20	舞台芸術	『幸福はだれにくる』 / 劇団うりんこ十三浦基 +クワクポリョウタ ※終演後、ポストトーク 実施	要チケット	169人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / ジョンのサン	無料	167人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	522人
17日 (土)	名市美	14:00-15:00	ラーニング	アーティスト「と」みるツアー / 宮永愛子	要国際展券	14人
		10:00-11:00	ラーニング	ベビーカーツアー	要国際展券	10人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / haruru 犬 love dog 天使	無料	188人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	663人
	芸文	11:00-12:20	舞台芸術	『幸福はだれにくる』 / 劇団うりんこ十三浦基 +クワクポリョウタ ※終演後、関連イベント 実施	要チケット	120人
15:00-16:20		舞台芸術	『幸福はだれにくる』 / 劇団うりんこ十三浦基 +クワクポリョウタ ※終演後、関連イベント 実施	要チケット	102人	
18日 (日)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 川辺素 (ミツメ)	無料	224人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	511人
	芸文	11:00-12:20	舞台芸術	『幸福はだれにくる』 / 劇団うりんこ十三浦基 +クワクポリョウタ ※終演後、関連イベント 実施	要チケット	125人
		15:00-16:20	舞台芸術	『幸福はだれにくる』 / 劇団うりんこ十三浦基 +クワクポリョウタ	要チケット	110人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
19日 (月)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン ※非公開	無料	—
20日 (火)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	245人
21日 (水)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	319人
22日 (木)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / butaji	無料	109人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	258人
23日 (金)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / ジョニー大蔵大臣	無料	144人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	254人
	設楽町内	9:00-17:00	現代美術	モバイル・トリエンナーレ	無料	100人
24日 (土)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / mei ehara	無料	220人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	497人
	設楽町内	9:00-17:00 (10:00-16:00)	現代美術	モバイル・トリエンナーレ (ワークショップ パンクロック・スウラップ 「一緒に彫ろう、木版画ワークショップ!」)	無料	74人 (15人)
25日 (日)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 中山うり	無料	211人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	596人
	設楽町内	9:00-17:00 (10:00-16:00)	現代美術	モバイル・トリエンナーレ (ワークショップ パンクロック・スウラップ 「一緒に彫ろう、木版画ワークショップ!」)	無料	128人 (21人)
26日 (月)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン ※非公開	無料	—
27日 (火)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	200人
28日 (水)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン ※非公開	無料	—
29日 (木)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / AAAMYYY	無料	331人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	333人
30日 (金)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / ツチヤチカラ	無料	146人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	255人
	津島市内	9:00-17:00	現代美術	モバイル・トリエンナーレ	無料	61人
31日 (土)	芸文	12:00-18:00	舞台芸術	『House of L』 / サエボーグ	要チケット	124人
	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	525人
	豊市美	9:00-10:00	ラーニング	ベビーカートゥー	要国際展券	10人
	豊田市駅	14:00-15:00	ラーニング	アーティスト「と」みるツアー / 小栗沙弥子	無料	10人
	津島市内	9:00-17:00	現代美術	モバイル・トリエンナーレ	無料	273人

■9月

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
1日 (日)	芸文	12:00-18:00	舞台芸術	『House of L』 / サエボーグ	要チケット	143人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 畳野彩加 (Homecomings)	無料	280人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	654人
	津島市内	9:00-17:00 (14:00-15:30)	現代美術	モバイル・トリエンナーレ (ワークショップ 鷲尾 友公「お家に絵を 飾ろう!」)	無料	275人 (20人)
2日 (月)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン ※非公開	無料	—
3日 (火)	芸文	18:00-21:00	舞台芸術	『House of L』 / サエボーグ	要チケット	111人
	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	290人
4日 (水)	芸文	18:00-21:00	舞台芸術	『House of L』 / サエボーグ	要チケット	113人
	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』 / ユザーン	無料	339人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
5日 (木)	芸文	18:00-21:00	舞台芸術	『House of L』／サエボーグ	要チケット	110人
		19:00-19:50	舞台芸術	『髭の幻』／モニラ・アルカディリ ※終演後、ポストトーク実施	要チケット	82人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』／Campanella	無料	211人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』／ユザーン	無料	329人
6日 (金)	芸文	16:00-19:00	ラーニング	トリエンナーレスクール アンリミテッド ナ イトディスカッション	無料	15人
		18:00-21:00	舞台芸術	『House of L』／サエボーグ	要チケット	138人
		19:00-19:50	舞台芸術	『髭の幻』／モニラ・アルカディリ ※終演後、ポストトーク実施	要チケット	73人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』／奇妙礼太郎	無料	777人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』／ユザーン	無料	471人
	名古屋市内	19:00-21:00	現代美術	『世界を変える歌』ワークショップ	無料	5人
小牧市内	9:00-17:00	現代美術	モバイル・トリエンナーレ	無料	57人	
7日 (土)	芸文	14:00-15:00	ラーニング	アーティスト「と」みるツアー／山本高之	要国際展券	12人
		12:00-18:00	舞台芸術	『House of L』／サエボーグ	要チケット	274人
		17:00-17:50	舞台芸術	『髭の幻』／モニラ・アルカディリ ※終演後、ポストトーク実施	要チケット	99人
		19:00-21:00	舞台芸術	【エクステンション】映像上映/アッセンブリー 『抽象・家族』／田中功起	要チケット	80人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』／オオヤユスケ	無料	317人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』／ユザーン	無料	682人
	名古屋市内	12:00-15:00 19:00-21:00	現代美術	『世界を変える歌』ワークショップ	無料	2人 4人
	小牧市内	9:00-17:00	現代美術	モバイル・トリエンナーレ	無料	204人
8日 (日)	芸文	14:00-16:00	ラーニング	かんがえかたをかんがえる～作品からみる「情 の時代」～／ドミニク・チェン	無料	18人
		12:00-18:00	舞台芸術	『House of L』／サエボーグ	要チケット	293人
		14:00-14:50	舞台芸術	『髭の幻』／モニラ・アルカディリ ※終演後、ポストトーク実施	要チケット	102人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』／蔡忠浩 (bonobos)	無料	541人
		12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』／ユザーン	無料	847人
	名古屋市内	12:00-15:00	現代美術	『世界を変える歌』ワークショップ	無料	5人
小牧市内	9:00-17:00 (10:00-16:00)	現代美術	モバイル・トリエンナーレ (ワークショップ 今村 洋平「本格的なシルク スクリーンを体験しよう！」)	無料	207人 (12人)	
9日 (月)	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『Chilla: 40 Days Drumming』／ユザーン ※非公開	無料	—
	名古屋市内	19:00-21:00	現代美術	『世界を変える歌』ワークショップ	無料	5人
10日 (火)	名古屋市内	12:00-15:00 19:00-21:00	現代美術	『世界を変える歌』ワークショップ	無料	5人 9人
11日 (水)	名古屋市内	19:00-21:00	現代美術	『世界を変える歌』ワークショップ	無料	11人
12日 (木)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』／平賀さち枝	無料	138人
	名古屋市内	12:00-15:00 19:00-21:00	現代美術	『世界を変える歌』ワークショップ	無料	7人 7人
13日 (金)	芸文	16:00-19:00	ラーニング	トリエンナーレスクール アンリミテッド ナ イトディスカッション	無料	19人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』／環 ROY	無料	452人
	豊田産業文化 センター	19:00-21:00	現代美術	トークイベント 小田原のどか「情の時代の 「公共・彫刻」をめぐって」	無料	123人
14日 (土)	芸文	12:00-20:00	舞台芸術	『MUSIC & ARTS FESTIVAL』 ※愛知県芸術劇場小ホール、大リハーサル室で の観覧は当日有効の国際現代美術展チケットが 必要。 愛知芸術文化センター2階フォーラムでの観覧 は無料。	要国際展券	3,450人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
14日 (土)	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/佐藤タイジ from 中津川 THE SOLAR BUDOKAN	無料	334人
15日 (日)	芸文	16:00-18:00	舞台芸術	純烈 Presents「1969年の前川清と藤圭子〜昭和を彩るロックとブルース〜」	要チケット	765人
	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/ものんくる from 中津川 THE SOLAR BUDOKAN	無料	373人
16日 (月)	芸文	15:00-17:00	舞台芸術	純烈 Presents「1969年の前川清と藤圭子〜昭和を彩るロックとブルース〜」	要チケット	630人
		11:00-19:14	現代美術	映像プログラム ※上映後トークイベント	要国際展券	557人
17日 (火)	芸文	13:30-17:47	現代美術	映像プログラム ※上映後トークイベント	要国際展券	311人
18日 (水)	芸文	13:30-18:22	現代美術	映像プログラム	要国際展券	175人
		10:00-11:30	ラーニング	筆談ガイドツアー	要国際展券	17人
19日 (木)	芸文	13:30-18:14	現代美術	映像プログラム	要国際展券	136人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/眉村あき	無料	585人
20日 (金)	芸文	16:00-19:00	ラーニング	トリエンナーレスクール アンリミテッド ナイトディスカッション	無料	20人
	芸文	17:00-18:44	現代美術	映像プログラム	要国際展券	227人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/テンテンコ	無料	253人
	東海市内	9:00-18:00	現代美術	モバイル・トリエンナーレ	無料	69人
21日 (土)	芸文	11:00-12:15	現代美術	映像プログラム	要国際展券	64人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/クリトリック・リス	無料	517人
		10:00-17:00	ラーニング	高校生鑑賞プログラム	無料	99人
	豊文	14:00-15:20	舞台芸術	『幸福はだれにくる』/劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ	要チケット	142人
	豊市美	16:00-18:00	舞台芸術	【エクステンション】映像上映/アッセンブリー『抽象・家族』/田中功起	要チケット	114人
	東海市内	9:00-18:00	現代美術	モバイル・トリエンナーレ	無料	153人
22日 (日)	芸文	11:00-19:15	現代美術	映像プログラム ※上映後トークイベント	要国際展券	611人
		10:00-11:30 14:00-15:30	ラーニング	視覚障がい者向けガイドツアー	要国際展券	16人
	名市美	17:00-18:30	舞台芸術	【エクステンション】レクチャーパフォーマンス/鑑賞ツアー『無情』/藤井光	要チケット	70人
		13:30-16:30	ラーニング	ワークショップ つくるをふかめるウィーク/会田大也	無料	37人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/Mom	無料	309人
	豊文	11:00-12:20	舞台芸術	『幸福はだれにくる』/劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ ※終演後、関連イベント実施	要チケット	167人
	東海市内	9:00-18:00 (14:00-16:00)	現代美術	モバイル・トリエンナーレ (ワークショップ 碓井 ゆい「透ける布で窓飾りを作ろう！」)	無料	145人 (15人)
23日 (月)	芸文	11:00-18:44	現代美術	映像プログラム ※上映後トークイベント	要国際展券	653人
		10:00-11:30	ラーニング	筆談ガイドツアー	要国際展券	6人
		17:30-18:50	連携事業	『Les femmes dans le tourbillon 渦の中の女たち-今こそ、女性は太陽である。』/倉知 可英	要チケット	762人
		18:30-20:30		ニンフェアール第15回公演『メキシコ・日本：響きの情熱』/ニンフェアール	要チケット	45人
	名市美	10:30-16:30	ラーニング	ワークショップ つくるをふかめるウィーク/青木美紅	無料	12人
	東海市内	9:00-18:00	現代美術	モバイル・トリエンナーレ	無料	191人
24日 (火)	芸文	13:30-19:53	現代美術	映像プログラム	要国際展券	247人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
25日 (水)	芸文	19:00-20:10	連携事業	体現帝国第八回公演『しっぽをつかまれた欲望』(作:パブロ・ピカソ) 著作権代理: (株) フランス著作権事務所/体現帝国	要チケット	182人
		13:30-19:59	現代美術	映像プログラム	要国際展券	369人
26日 (木)	芸文	17:00-19:22	現代美術	映像プログラム	要国際展券	50人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/原田珠々華	無料	151人
	芸創	19:00-20:00	連携事業	中部芸能家協議会 芸能サロン『戯れこと』/中部芸能家協議会	要チケット	246人
27日 (金)	芸文	13:00-17:08	現代美術	映像プログラム ※上映後トークイベント	要国際展券	113人
		16:00-19:00	ラーニング	トリエンナーレスクール アンリミテッド ナイトディスカッション	無料	24人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/勝井祐二	無料	233人
	芸創	19:00-20:30	連携事業	名鶴ダンスカンパニー DANCE MESSAGE 『Letter』/名鶴ダンスカンパニー	要チケット	547人
28日 (土)	芸文	11:00-19:23	現代美術	映像プログラム	要国際展券	653人
		17:30-19:30	連携事業	愛知ロシア音楽研究会創立10周年記念演奏会 『サルタン王の物語 - 熊ん蜂が飛ぶところ -』/愛知ロシア音楽研究会	要チケット	778人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/YeYe	無料	288人
	芸創	17:30-20:00	連携事業	めいおんオペラティックコンサート『シェイクスピア変奏曲 - 劇情の魅力 -』/名古屋音楽大学	要チケット	376人
	豊田市駅	10:00-11:00	ラーニング	アーティスト「と」みるツアー/山口恵子	無料	10人
29日 (日)	芸文	13:00-17:08	現代美術	映像プログラム ※上映後トークイベント	要国際展券	214人
		18:30-20:30	連携事業	『ドラマチック・ミュージカル・コンサート - ジャパネスク・ワンダーランド - 「情」に彩られた古(いにしえ)の風景への旅 - 振り返れば、そこには未来がある』/名古屋芸術大学	要チケット	1,037人
	名市美	13:30-16:30	ラーニング	ワークショップ つくるをふかめるウィーク/denha	無料	17人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/後藤まりこ アコースティック violence POP	無料	330人
		16:00-17:00	ラーニング	アーティスト「と」みるツアー/寺内曜子	要国際展券	10人
	芸創	18:00-20:30	連携事業	名古屋洋舞家協議会 Dance freedom『回遊する 五感』/名古屋洋舞家協議会	要チケット	496人

■10月

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
1日 (火)	芸文	19:00-21:00	連携事業	『MiAの縁日 - アーケード商店街で現代音楽を演奏したら -』/MiA	要チケット	137人
2日 (水)	芸文	19:00-21:00	連携事業	Seainx 2019 第3回名古屋国際現代音楽アカデミーコンサート『笛の音』/Seainx project	要チケット	80人
3日 (木)	芸文	19:30-20:30	連携事業	『The Other Side』/伏木 啓	要チケット	190人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/ZOMBIE-CHANG	無料	313人
4日 (金)	芸文	16:00-19:00	ラーニング	トリエンナーレスクール アンリミテッド ナイトディスカッション	無料	26人
		19:00-20:45	連携事業	『NEOFLUXUS』/NEOFLUXUS - Kio Griffith・臼井 廉浩・Marcos Fernandes・小笠涼子・金子ユキ・照喜名俊典・森由紀+スペシャルゲスト: 港千尋・森田浩彰	要チケット	51人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』/柴田聡子	無料	384人
5日 (土)	芸文	13:00-17:00	現代美術	国際フォーラム「『情の時代』における表現の自由と芸術」	無料	75人
		14:00-16:00	ラーニング	かんがえかたをかんがえる~作品からみる「情の時代」~/澤田華	無料	21人

日	場所	時間	区分	イベント名	入場	人数
5日 (土)	芸文	16:00-17:15 19:00-20:15	連携事業	perky pat presents 『ROD - 今昔物語 - 』 / office Perky pat	要チケット	286人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 堀込泰行	無料	1,456人
	なごのキャンパス体育館	13:00-17:00	舞台芸術	【エクステンション】レクチャーパフォーマンス / 参加型イベント『円頓寺クリケットクラブ』 / キュンチョメ	要チケット	27人
6日 (日)	芸文	13:00-18:00	現代美術	国際フォーラム「『情の時代』における表現の自由と芸術」	無料	75人
	芸文	19:00-20:00	連携事業	『Love&Intestine 愛と腸』 / ナゴコン	要チケット	58人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 角銅真実	無料	284人
8日 (火)	シネマスコール	18:30-23:00	現代美術	映像プログラム ※上映後トークイベント	要国際展券	72人
9日 (水)	芸文	13:30-16:00	現代美術	トークイベント「表現の不自由展・その後」～キム・ソギョン&キム・ウンソン～	無料	135人
	シネマスコール	18:30-23:00	現代美術	映像プログラム ※上映後トークイベント	要国際展券	54人
10日 (木)	芸文	14:00-20:30	舞台芸術	『縛られたプロメテウス』 / 小泉明郎	要チケット	165人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / テト・ベッテンソン	無料	294人
11日 (金)	芸文	16:00-19:00	ラーニング	トリエンナーレスクール アンリミテッド ナイトディスカッション	無料	32人
		14:00-20:30	舞台芸術	『縛られたプロメテウス』 / 小泉明郎	要チケット	169人
		19:00-21:30	舞台芸術	『バックスの信女 - ホルスタインの雌』 / 市原佐都子 (Q)	要チケット	123人
	四/円	19:00-20:00	舞台芸術	『円頓寺デイリーライブ』 / 七尾旅人	無料	921人
12日 (土)	芸文	14:00-20:30	舞台芸術	『縛られたプロメテウス』 / 小泉明郎 ※台風の影響により中止	要チケット	-
		17:00-18:40	舞台芸術	【エクステンション】レクチャーパフォーマンス『共在言語をつくるために』 / ドミニク・チェン (dividual inc.) ※台風の影響により中止	要チケット	-
		19:00-21:30	舞台芸術	『バックスの信女 - ホルスタインの雌』 / 市原佐都子 (Q) ※台風の影響により中止	要チケット	-
	四/円	12:00-20:00	舞台芸術	『なごの音楽祭』 ※台風の影響により中止	無料	-
	芸創	14:00-15:40	舞台芸術	『ものがたりのものがたり』 / 劇団アルテミス + ヘット・ザウデライク・トネール ※台風の影響により中止	要チケット	-
13日 (日)	芸文	13:00-21:00	舞台芸術	『縛られたプロメテウス』 / 小泉明郎	要チケット	213人
		17:00-18:40	舞台芸術	【エクステンション】レクチャーパフォーマンス『共在言語をつくるために』 / ドミニク・チェン (dividual inc.)	要チケット	197人
		19:00-21:30	舞台芸術	『バックスの信女 - ホルスタインの雌』 / 市原佐都子 (Q)	要チケット	168人
	芸創	12:00-13:40	舞台芸術	『ものがたりのものがたり』 / 劇団アルテミス + ヘット・ザウデライク・トネール	要チケット	232人
		16:00-17:40				83人
	豊田産業文化センター	14:00-16:00	現代美術	トークイベント ホー・ツーニェン (参加アーティスト) × 浅田彰 (思想家)	無料	211人
	Live & Lounge Vio	19:30-22:30	舞台芸術	『パブリックスピーチ・プロジェクト』ライブパーティ / 高山明 (Port B)	無料	302人
14日 (月)	芸文	10:00-12:00	現代美術	トーク 「表現の不自由展・その後：世界の検閲、日本の検閲」	無料	160人
		13:00-20:30	舞台芸術	『縛られたプロメテウス』 / 小泉明郎	要チケット	204人
		14:00-16:30	舞台芸術	『バックスの信女 - ホルスタインの雌』 / 市原佐都子 (Q)	要チケット	169人
	四/円	14:00-20:00	現代美術	THE MISSING PIECE	無料	-

(場所)

芸文＝愛知芸術文化センター、
愛知県芸術劇場、愛知県美術館
芸創＝名古屋芸術創造センター
名市美＝名古屋市美術館
四/円＝四間道・円頓寺

ミッド＝ミッドランドスクエア シネマ
豊田市美＝豊田市美術館
豊文＝豊田市民文化会館
豊田市駅＝豊田市駅周辺

VI 来場者数の状況等

1 来場者数

■プログラム別、会場別

- ・最終的な来場者数は、当初想定した 60 万人を超え 675,939 人となった。
- ・プログラム別では、国際現代美術展の来場者（522,021 人）が最も多く、全体の 77.0%を占めている。
- ・国際現代美術展の来場者数を会場別で比較すると、メイン会場である愛知芸術文化センターが 330,981 人で最も多い。また、今回新たに展開した豊田地区では 121,687 人であった。

プログラム		来場者数	割合	内訳
現代美術	国際現代美術展	522,021 人	77.0%	愛知芸術文化センター 277,864 人 (53.2%)
				名古屋市美術館 52,398 人 (10.0%)
				四間道・円頓寺会場 77,133 人 (14.8%)
				名古屋地区計 407,395 人 (78.0%)
豊田市美術館 51,599 人 (9.9%)				
豊田市駅周辺 63,027 人 (12.1%)				
豊田地区計 114,626 人 (22.0%)				
計 522,021 人 (100.0%)				
	映像プログラム	5,221 人	0.8%	
	その他イベント等	8,022 人	1.2%	
舞台芸術	パフォーミングアーツ	6,484 人	1.0%	
	音楽プログラム	46,902 人	6.9%	
ライニング	アート・プレイグラウンド	79,518 人	11.8%	あそぶ(愛知芸術文化センター) 50,772 人 (63.8%)
				はなす(愛知芸術文化センター) 2,345 人 (2.9%)
				つくる(名古屋市美術館) 13,569 人 (17.1%)
				もてなす(四間道・円頓寺会場) 11,831 人 (14.9%)
				しらせる(豊田市美術館) 1,001 人 (1.3%)
	計(見学者を含む) 79,518 人 (100.0%)			
	アーティストプログラム等	252 人	0.1%	
連携事業	モバイル・トリエンナーレ	1,937 人	0.3%	設楽町 302 人
				津島市 609 人
				小牧市 468 人
				東海市 558 人
	舞台芸術公募プログラム	5,271 人	0.8%	
	芸術大学連携プロジェクト	311 人	0.1%	※9月21日から10月14日まで
計		675,939 人	100.0%	

(地区(会場)別来場者)

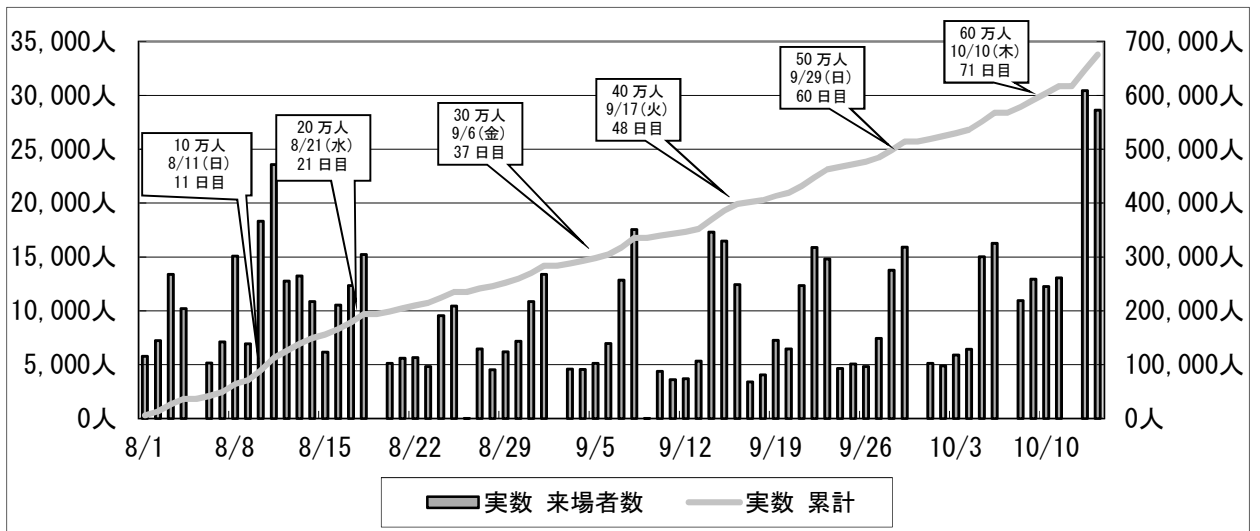
地区	会場	来場者数	割合
名古屋地区	愛知芸術文化センター	330,981 人	49.0%
	名古屋市美術館	65,967 人	9.7%
	四間道・円頓寺	88,964 人	13.2%
	公演・イベント等	68,340 人	10.1%
	名古屋地区計	554,252 人	82.0%
豊田地区	豊田市美術館	52,600 人	7.8%
	豊田市駅周辺	63,027 人	9.3%
	公演・イベント等	6,060 人	0.9%
	豊田地区計	121,687 人	18.0%
合計		675,939 人	100.0%

■開催日別

- ・一日あたりの平均来場者数は 9,000 人（平日 5,844 人、土日祝 14,985 人）で、会期末に向かって増加した（8月 8,714 人、9月 8,133 人、10月 11,559 人）。
- ・会期中で来場者が最も多かったのは、最終日前日 10月 13日（日）の 30,452 人で、最終日 10月 14日（月・祝）の 28,619 人がそれに続いた。

8月				9月				10月			
日 目	日	来場者数 (人)	累計 (人)	日 目	日	来場者数 (人)	累計 (人)	日 目	日	来場者数 (人)	累計 (人)
1	1 (木)	5,758	5,758	32	1 (日)	13,371	283,494	62	1 (火)	5,133	519,253
2	2 (金)	7,234	12,992	33	2 (月)	0	283,494	63	2 (水)	4,871	524,124
3	3 (土)	13,386	26,378	34	3 (火)	4,570	288,064	64	3 (木)	5,905	530,029
4	4 (日)	10,188	36,566	35	4 (水)	4,552	292,616	65	4 (金)	6,427	536,456
5	5 (月)	0	36,566	36	5 (木)	5,130	297,746	66	5 (土)	15,001	551,457
6	6 (火)	5,163	41,729	37	6 (金)	6,974	304,720	67	6 (日)	16,251	567,708
7	7 (水)	7,103	48,832	38	7 (土)	12,859	317,579	68	7 (月)	0	567,708
8	8 (木)	15,064	63,896	39	8 (日)	17,533	335,112	69	8 (火)	10,937	578,645
9	9 (金)	6,932	70,828	40	9 (月)	5	335,117	70	9 (水)	12,937	591,582
10	10 (土)	18,329	89,157	41	10 (火)	4,385	339,502	71	10 (木)	12,242	603,824
11	11 (日)	23,570	112,727	42	11 (水)	3,599	343,101	72	11 (金)	13,044	616,868
12	12 (月・祝)	12,754	125,481	43	12 (木)	3,695	346,796	73	12 (土)	0	616,868
13	13 (火)	13,222	138,703	44	13 (金)	5,323	352,119	74	13 (日)	30,452	647,320
14	14 (水)	10,849	149,552	45	14 (土)	17,309	369,428	75	14 (月・祝)	28,619	675,939
15	15 (木)	6,147	155,699	46	15 (日)	16,466	385,894				
16	16 (金)	10,521	166,220	47	16 (月・祝)	12,423	398,317				
17	17 (土)	12,331	178,551	48	17 (火)	3,382	401,699				
18	18 (日)	15,218	193,769	49	18 (水)	4,055	405,754				
19	19 (月)	0	193,769	50	19 (木)	7,270	413,024				
20	20 (火)	5,127	198,896	51	20 (金)	6,454	419,478				
21	21 (水)	5,603	204,499	52	21 (土)	12,335	431,813				
22	22 (木)	5,642	210,141	53	22 (日)	15,881	447,694				
23	23 (金)	4,820	214,961	54	23 (月・祝)	14,817	462,511				
24	24 (土)	9,537	224,498	55	24 (火)	4,632	467,143				
25	25 (日)	10,427	234,925	56	25 (水)	5,050	472,193				
26	26 (月)	16	234,941	57	26 (木)	4,816	477,009				
27	27 (火)	6,454	241,395	58	27 (金)	7,435	484,444				
28	28 (水)	4,515	245,910	59	28 (土)	13,778	498,222				
29	29 (木)	6,174	252,084	60	29 (日)	15,898	514,120				
30	30 (金)	7,173	259,257	61	30 (月)	0	514,120				
31	31 (土)	10,866	270,123								

※10月12日(土)は、台風による中止。



■国際現代美術展の来場者内訳

- ・国際現代美術展（ラーニングを含む）の来場者については、一般来場者が80.0%を占めているが、中学生以下の来場者も11.1%と高くなっている。
- ・有料・無料の別でみると、有料来場者（一般・大学生・高校生）が87.3%、無料来場者（高校生（学校行事観覧）・中学生以下・招待者）が12.7%となっている。

一般	大学生	高校生	高校生 (学校行事観覧)	中学生以下	招待者	計
482,966人 (80.0%)	34,553人 (5.7%)	6,548人 (1.1%)	775人 (0.1%)	67,345人 (11.1%)	11,697人 (2.0%)	603,884人 (100.0%)

(一般・学生・招待者別)

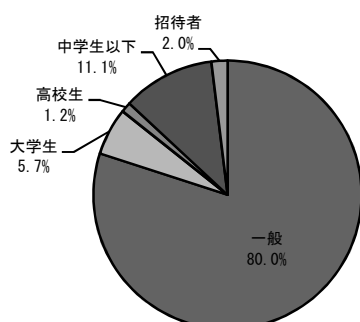
一般	大学生	高校生	中学生以下	招待者	計
482,966人 (80.0%)	34,553人 (5.7%)	7,323人 (1.2%)	67,345人 (11.1%)	11,697人 (2.0%)	603,884人 (100.0%)

(有料・無料別)

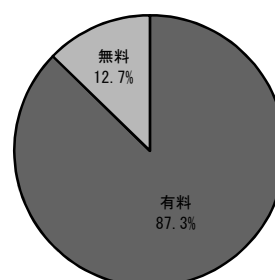
有料	無料	計
457,772人 (87.3%)	66,594人 (12.7%)	524,366人 (100.0%)

※ラーニングは除く

○一般・学生・招待者別



○有料・無料別



2 チケットの販売状況

■国際現代美術展

- ・国際現代美術展全体では、チケットの販売枚数は123,525枚となった。
- ・特別先行前売券は、販売期間1か月で35,373枚（全体の28.6%）を販売し、トリエンナーレのPRにも効果があった。
- ・チケットの種類別では、1DAYパス（79,047枚、64.0%）が最も多いが、フリーパス（23,825枚、19.3%）やクリムト展セット券（17,424枚、14.1%）も好評であった。

チケットの種類 (販売期間)		特別先行前売券 (4月1日～ 4月30日)	前売券 (5月1日～ 7月31日)	会期中販売券 (8月1日～ 10月14日)	計
1DAYパス	一般	26,052枚	2,690枚	24,522枚	53,264枚
	大学生	838枚	590枚	3,618枚	5,046枚
	高校生	494枚	77枚	644枚	1,215枚
各種割引	一般	-	-	14,622枚	14,622枚
	大学生	-	-	3,764枚	3,764枚
	高校生	-	-	969枚	969枚
フリーパス	一般	7,274枚	3,840枚	6,411枚	17,525枚
	大学生	519枚	681枚	946枚	2,146枚
	高校生	147枚	64枚	65枚	276枚
各種割引	一般	-	-	3,241枚	3,241枚
	大学生	-	-	497枚	497枚
	高校生	-	-	60枚	60枚
アップグレード	一般	-	-	2,857枚	2,857枚
	大学生	-	-	337枚	337枚
	高校生	-	-	35枚	35枚
小計		35,324枚	7,942枚	62,588枚	105,854枚
クリムト展セット券		-	2,696枚	17,120枚	19,816枚
計		35,324枚 (28.1%)	10,638枚 (8.5%)	79,708枚 (63.4%)	125,670枚 (100%)
売上額		43,292,149円	15,762,322円	115,133,567円	174,188,038円

○チケット種類別

1DAYパス	フリーパス	アップグレード	クリムト展セット券	計
78,880枚 (62.7%)	23,745枚 (18.9%)	3,229枚 (2.6%)	19,816枚 (15.8%)	125,670枚 (100.0%)

○一般・大学生・高校生別

区分	1DAYパス	フリーパス	計
一般	67,886枚	23,623枚	91,509枚 (86.5%)
大学生	8,810枚	2,980枚	11,790枚 (11.1%)
高校生	2,184枚	371枚	2,555枚 (2.4%)
計	78,880枚 (74.5%)	26,974枚 (25.5%)	105,854枚 (100.0%)

※アップグレードの枚数は、フリーパスの中に含む

※クリムト展セット券を除く

■パフォーミングアーツ

- ・愛知県芸術劇場を中心に、名古屋市内及び豊田市内で 14 演目 91 公演開催し、5,655 枚 (12,857,690 円)のチケットを販売した。

	演目等	販売枚数(枚)	券種	枚数(枚)	単価(円)	販売金額(円)
1	高山 明 (Port B) 『パブリックスピーチ・プロジェクト』 プロジェクトプレゼンテーション 【愛知県芸術劇場 大リハーサル室/2 公演】	221	一般	187	1,500	278,850
			一般(当日)	34	2,000	68,000
2	ミロ・ラウ(IIPM) + CAMPO 『5つのやさしい小品』 【愛知県芸術劇場 小ホール/3 公演】	434	一般	333	3,500	1,039,400
			U25	41	3,000	123,000
			一般(当日)	55	4,000	220,000
			U25(当日)	5	3,500	17,500
3	ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ+ エンクナップグループ 『幸福の追求』 【名古屋市芸術創造センター/2 公演】	382	一般	308	3,500	957,500
			U25	35	3,000	105,000
			一般(当日)	35	4,000	140,000
			U25(当日)	4	3,500	14,000
4	劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ 『幸福はだれにくる』 【愛知県芸術劇場 小ホール/5 公演】	593	一般	350	3,000	995,900
			U25	34	2,000	68,000
			U18	94	1,000	94,000
			一般(当日)	93	3,500	325,500
			U25(当日)	9	2,500	22,500
	劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ 『幸福はだれにくる』 【豊田市民文化会館大ホール/2 公演】	306	一般	187	2,500	459,400
			U25	24	1,500	36,000
			U18	48	1,000	48,000
			一般(当日)	38	3,000	114,000
			U25(当日)	3	2,000	6,000
U18(当日)	6	1,216	一般	462	1,500	688,650
			U25	74	1,000	74,000
			U18	27	500	13,500
			一般(当日)	517	2,000	1,034,000
			U25(当日)	106	1,500	159,000
5	サエボーグ 『House of L』 【愛知県芸術劇場 大リハーサル室/8 公演】	1,216	一般	462	1,500	688,650
			U25	74	1,000	74,000
			U18	27	500	13,500
			一般(当日)	517	2,000	1,034,000
6	モニラ・アルカディリ 『髭の幻』 【愛知県芸術劇場 小ホール/4 公演】	295	一般	200	3,000	575,900
			U25	38	2,500	95,000
			一般(当日)	51	3,500	178,500
			U25(当日)	6	3,000	18,000
7	小泉明郎 『縛られたプロメテウス』 【愛知県芸術劇場 大リハーサル室/53 公演】	738	一般	493	2,000	986,000
			U25	48	1,500	72,000
			一般(当日)	171	2,500	427,500
			U25(当日)	26	2,000	52,000
8	市原佐都子(Q) 『パッコスの信女-ホルスタインの雌』 【愛知県芸術劇場 小ホール/3 公演】	446	一般	358	3,000	1,032,800
			U25	48	2,500	120,000
			一般(当日)	37	3,500	129,500
			U25(当日)	3	3,000	9,000
9	劇団アルテミス+ハット・ザウデライク・ト ネール 『ものがたりのものがたり』 【名古屋市芸術創造センター/2 公演】	310	一般	242	3,500	793,450
			U25	15	3,000	45,000
			U18	10	1,500	15,000
			一般(当日)	37	4,000	148,000
			U25(当日)	6	3,500	21,000
U18(当日)	-	2,000	-			

	演目等	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価(円)	販売金額 (円)
10	【エクステンション】ドラ・ガルシア レクチャーパフォーマンス『ロミオ』 【愛知県芸術劇場 大リハーサル室／2公演】	245	一般	206	1,300	265,850
			一般(当日)	39	1,800	70,200
11	【エクステンション】田中 功起 映像上映／アッセンブリー『抽象・家族』 【愛知県美術館 10階／1公演】 【豊田市美術館講堂／1公演】	156	一般	131	1,300	169,390
			一般(当日)	25	1,800	45,000
12	【エクステンション】藤井 光 レクチャーパフォーマンス／鑑賞ツアー 『無情』 【名古屋市美術館講堂／1公演】	61	一般	61	1,300	79,300
			一般(当日)	-	1,800	-
13	【エクステンション】キュンチョメ レクチャーパフォーマンス／参加型イベント 『円頓寺クリケットクラブ』 【なごのキャンパス体育館／1公演】	30	一般	30	1,300	39,000
			一般(当日)	-	1,800	-
14	【エクステンション】 ドミニク・チェン (dividual inc.) レクチャーパフォーマンス 『共在言語をつくるために』 【愛知芸術文化センター アートスペース A／ 1公演】	222	一般	179	1,300	232,700
			一般(当日)	43	1,800	77,400
計		5,655		5,655		12,857,690

※先行販売、3演目セット券、ペア割チケット等があるため、枚数×単価は販売金額と一致しない

■音楽プログラム

- ・愛知芸術文化センター大ホールで2公演を開催し、16,213枚(83,823,000円)のチケットを販売した。

	演目等	販売枚数 (枚)	券種	枚数 (枚)	単価 (円)	販売金額 (円)
1	サカナクション 「暗闇 -KURAYAMI-」 【大ホール／7公演】	15,145	S	7,142	5,800	41,423,600
			A	4,961	4,800	23,812,800
			B	2,086	3,800	7,926,800
			S(当日)	110	6,300	693,000
			A(当日)	203	5,300	1,075,900
			B(当日)	643	4,300	2,764,900
2	純烈 Presents 「1969年の前川清と藤圭子～昭和を彩 るロックとブルース～」 【大ホール／2公演】	1,068	S	787	6,500	5,115,500
			A	154	4,000	616,000
			B	92	2,500	230,000
			S(当日)	17	6,500	110,500
			A(当日)	6	4,000	24,000
			B(当日)	12	2,500	30,000
計		16,213		16,213		
収入金額						83,823,000

3 アンケート調査結果

- ・トリエンナーレ来場者の満足度や要望・意見等を把握するため、国際現代美術展、映像プログラム、音楽プログラム、パフォーマンスアーツ、アート・プレイグラウンド、モバイル・トリエンナーレの来場者へのアンケート調査を行った。
- ・また、会期後には、ボランティア等を対象にした関係者アンケートや、愛知県内小・中・高等学校等を対象とした文化芸術関係機関等アンケートも行った。

(1) 来場者アンケート

区分	対象者数	回収数	回収割合	該当ページ
国際現代美術展	601,539人	4,097人	0.7%	90
映像プログラム	4,952人	889人	18.0%	98
パフォーマンスアーツ	6,058人	1,401人	23.1%	101
音楽プログラム	33,875人	1,788人	5.3%	105
アート・プレイグラウンド	79,518人	984人	1.2%	107
モバイル・トリエンナーレ	1,937人	834人	43.1%	110

■国際現代美術展

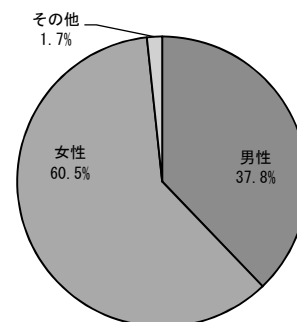
実施時期	8月～10月
調査対象	国際現代美術展の来場者
配布・回収方法	会場出入口付近において、アンケート用紙を配付して実施
回収数/来場者数	4,097人/601,539人(0.7%)

【回答者の属性】

- ・性別では、女性が60.5%、男性が37.8%となっている。年齢別では、30代までの世代が47.7%を占め、40代以上が52.3%となっている。
- ・住まいでは、名古屋市内26.1%、愛知県内(名古屋市以外)29.6%、愛知県外(海外含む)44.3%となっている。
- ・これまでに訪れたことのある芸術祭を聞いたところ、「あいちトリエンナーレ2016」と答えた方が40.8%あった。一方で「訪れたことがない」と答えた方も35.1%と、「あいちトリエンナーレ2019」をきっかけに初めて芸術祭に触れた方も多い。

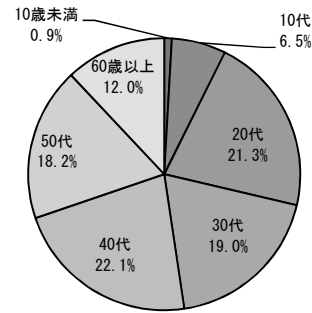
○性別

選択肢	数	比率
男性	1,550	37.8%
女性	2,477	60.5%
その他	70	1.7%
計	4,097	100.0%



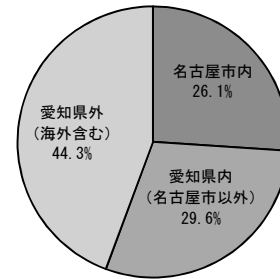
○年齢

選択肢	数	比率
10歳未満	37	0.9%
10代	265	6.5%
20代	873	21.3%
30代	776	19.0%
40代	907	22.1%
50代	747	18.2%
60歳以上	492	12.0%
計	4,097	100.0%



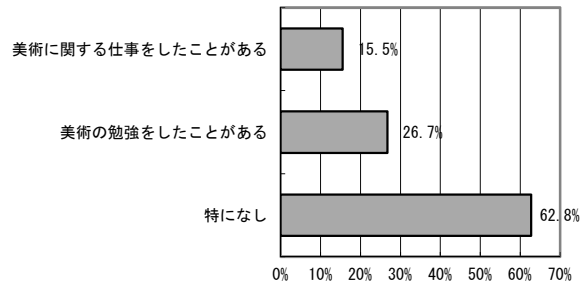
○お住まい

選択肢	数	比率
名古屋市内	1,067	26.1%
愛知県内（名古屋市以外）	1,213	29.6%
愛知県外（海外含む）	1,817	44.3%
計	4,097	100.0%



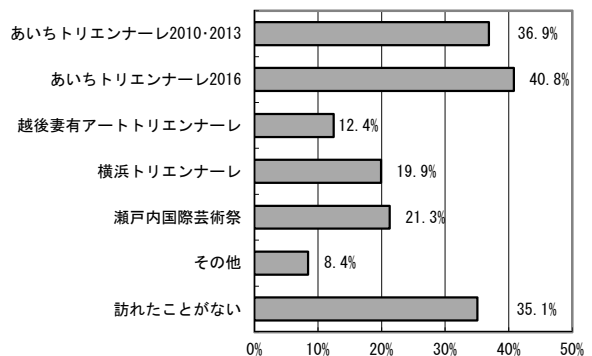
○美術に関する仕事の経験の有無等（複数回答可）

選択肢	数	比率
美術に関する仕事をしたことがある	635	15.5%
美術の勉強をしたことがある	1,095	26.7%
特になし	2,571	62.8%
計	4,301	—



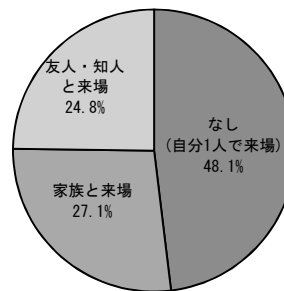
○これまでに訪れたことのある芸術祭（複数回答可）

選択肢	数	比率
あいちトリエンナーレ2010・2013	1,510	36.9%
あいちトリエンナーレ2016	1,671	40.8%
越後妻有アートトリエンナーレ	510	12.4%
横浜トリエンナーレ	815	19.9%
瀬戸内国際芸術祭	872	21.3%
その他	346	8.4%
訪れたことがない	1,436	35.1%
計	7,160	—



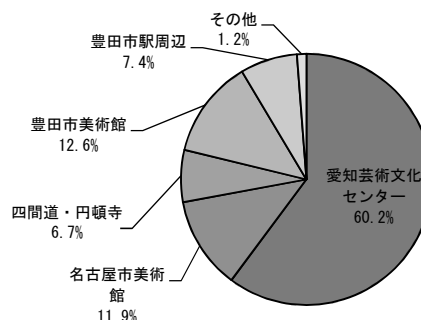
○本日の同伴者数

選択肢	数	比率
なし（自分1人で来場）	1,969	48.1%
家族と来場	1,112	27.1%
友人・知人と来場	1,016	24.8%
計	4,097	100.0%



○アンケートの回答場所

選択肢	数	比率
愛知芸術文化センター	2466	60.2%
名古屋市美術館	488	11.9%
四間道・円頓寺	274	6.7%
豊田市美術館	518	12.6%
豊田市駅周辺	301	7.4%
その他	50	1.2%
計	4,097	100.0%

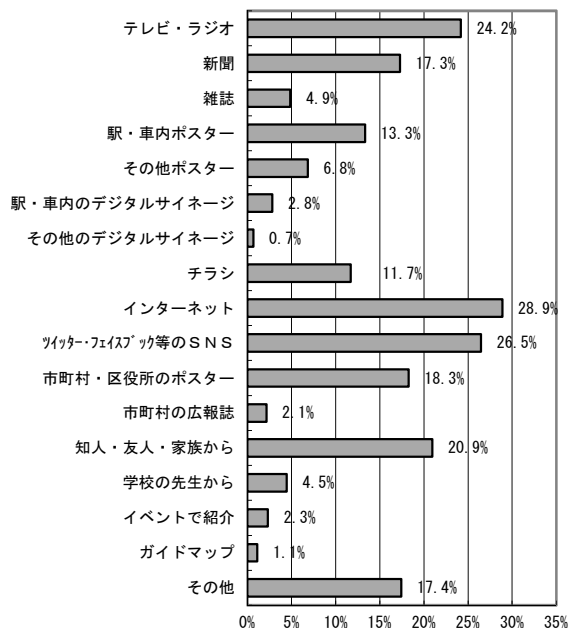


【来場理由】

- ・トリエンナーレを何で知ったか聞いたところ、「インターネット」（28.9%）、「ツイッター・フェイスブック等のSNS」（26.5%）、「テレビ・ラジオ」（24.2%）の順で多くなっている。
- ・トリエンナーレに来た理由を聞いたところ、「美術に関心がある」（67.6%）、「過去のあいちトリエンナーレをきっかけに関心を持ったから」（27.2%）、「マスコミで知って関心をもったから」（19.5%）の順で多くなっている。

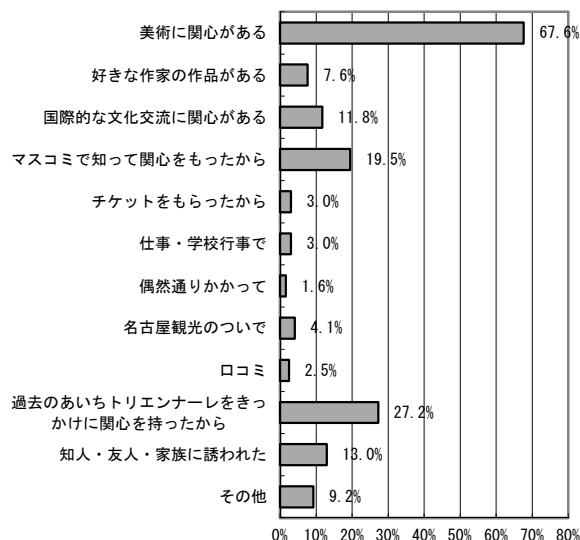
○あいちトリエンナーレ2019を何で知り、来場しようと思いましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
テレビ・ラジオ	991	24.2%
新聞	708	17.3%
雑誌	199	4.9%
駅・車内ポスター	546	13.3%
その他のポスター	280	6.8%
駅・車内のデジタルサイネージ	116	2.8%
その他のデジタルサイネージ	28	0.7%
チラシ	480	11.7%
インターネット	1184	28.9%
ツイッター・フェイスブック等のSNS	1084	26.5%
市町村・区役所のポスター	749	18.3%
市町村の広報誌	88	2.1%
知人・友人・家族から	858	20.9%
学校の先生から	183	4.5%
イベントで紹介	95	2.3%
ガイドマップ	46	1.1%
その他	714	17.4%
計	8,349	—



○あいちトリエンナーレ 2019 に来た理由を教えてください（複数回答可）

選択肢	数	比率
美術に関心がある	2,770	67.6%
好きな作家の作品がある	312	7.6%
国際的な文化交流に関心がある	482	11.8%
マスコミで知って関心をもったから	797	19.5%
チケットをもらったから	122	3.0%
仕事・学校行事で	124	3.0%
偶然通りかかって	67	1.6%
名古屋観光のついで	166	4.1%
ロコミ	103	2.5%
過去のあいちトリエンナーレをきっかけに関心を持ったから	1,116	27.2%
知人・友人・家族に誘われた	532	13.0%
その他	378	9.2%
計	6,969	—

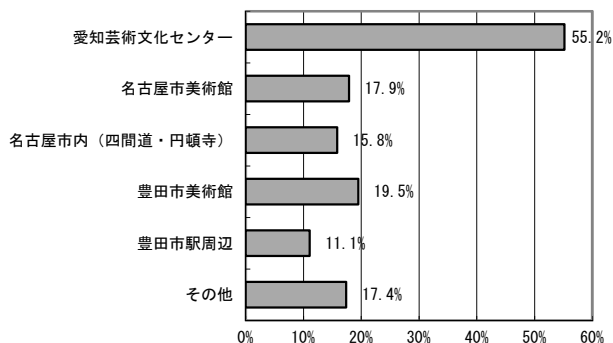


【国際現代美術展の感想】

- ・面白かった会場については、愛知芸術文化センターが 55.2%と最も高くなっている。その他会場についても、来場者の人数が相対的に少ないため割合はそれほど高くなっていないが、自由意見欄にはそれぞれ良かった旨の記述が多く見られた。
- ・国際現代美術展の展示作品の感想を聞いたところ、「大変良かった」「良かった」が合わせて 75.2%となっており、全体的に好評であった。

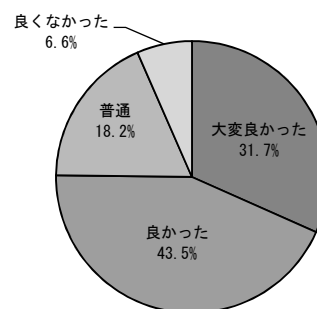
○最も面白かった会場はどこでしたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
愛知芸術文化センター	2,260	55.2%
名古屋市美術館	733	17.9%
名古屋市内（四間道・円頓寺）	648	15.8%
豊田市美術館	798	19.5%
豊田市駅周辺	454	11.1%
その他	713	17.4%
計	5,606	—



○国際現代美術展の展示作品の感想をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変良かった	1,297	31.7%
良かった	1,784	43.5%
普通	747	18.2%
良くなかった	269	6.6%
計	4,097	100.0%

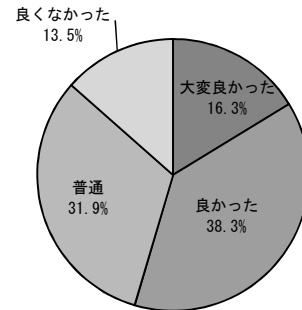


【公式アプリについて】

- ・公式アプリ全体については、「大変良かった」「良かった」が合わせて54.6%、音声ガイドについては、「わかりやすかった」が52.8%であった。

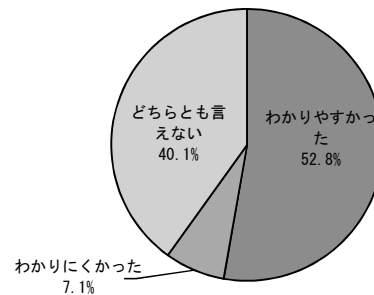
○公式アプリを利用してどう思われましたか

選択肢	数	比率
大変良かった	193	16.3%
良かった	454	38.3%
普通	379	31.9%
良くなかった	160	13.5%
計	1,186	100.0%



○「音声ガイド」で作品の意図や面白さがわかりやすく聞けましたか

選択肢	数	比率
わかりやすかった	244	52.8%
わかりにくかった	33	7.1%
どちらとも言えない	185	40.1%
計	462	100.0%

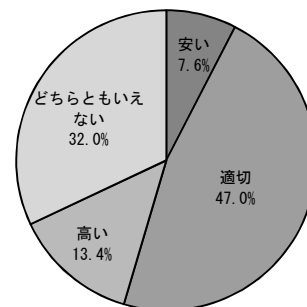


【運営について】

- ・入場料金について、1 DAY パスについては、「安い」「適切」が54.6%であった。また、フリーパスについては、「安い」「適切」が61.2%であった。
- ・開催時期については、「今の時期でよい」が50.8%で最も多いが、「遅いほうがよい」も24.4%あった。

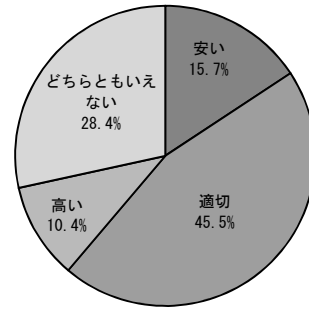
○1 DAY パスの入場料金についてどう思われましたか

選択肢	数	比率
安い	311	7.6%
適切	1,923	47.0%
高い	551	13.4%
どちらともいえない	1,312	32.0%
計	4,097	100.0%



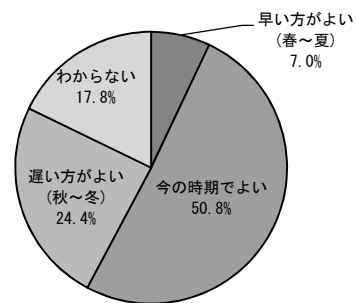
○フリーパスの入場料金についてどう思われましたか

選択肢	数	比率
安い	644	15.7%
適切	1,863	45.5%
高い	425	10.4%
どちらともいえない	1,165	28.4%
計	4,097	100.0%



○開催時期についてどう思われましたか

選択肢	数	比率
早い方がよい (春～夏)	288	7.0%
今の時期でよい	2,079	50.8%
遅い方がよい (秋～冬)	1,000	24.4%
わからない	730	17.8%
計	4,097	100.0%

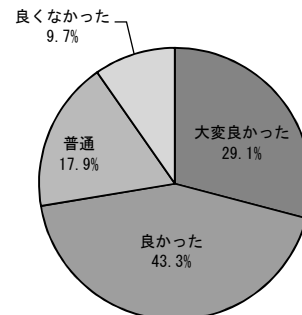


【トリエンナーレ全体について】

- ・トリエンナーレ全体の感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせると 72.4% であり、全般的に好評であった。
- ・トリエンナーレにはどんな効果があると思うか聞いたところ、「文化芸術の発展」(53.7%) や「文化芸術の日常生活への浸透」(51.3%)が多かったが、これらに次いで、「地域の活性化」(22.4%)や「地域の魅力の向上」(21.8%)という回答も多くあり、地域づくりへの効果も期待されていることが窺われる。
- ・次回 3 年後のトリエンナーレに行きたいかどうかという質問については、70.1%が「絶対行く」「たぶん行く」と回答した。

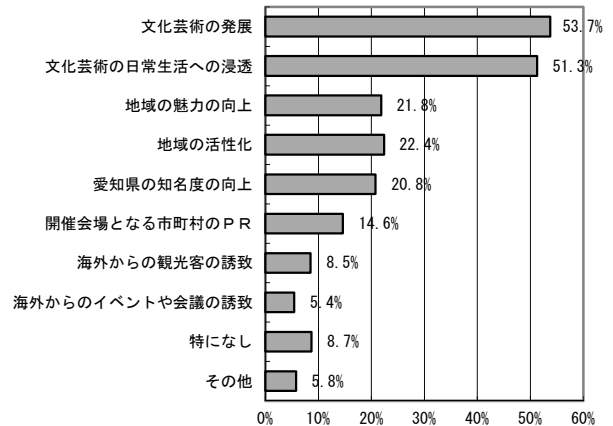
○あいちトリエンナーレ 2019 について、全体的な感想をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変良かった	1,192	29.1%
良かった	1,774	43.3%
普通	733	17.9%
良くなかった	398	9.7%
計	4,097	100.0%



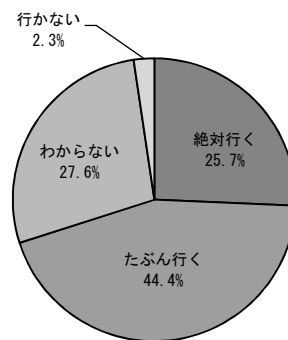
○あいちトリエンナーレには、どんな効果があると思いますか（複数回答可）

選択肢	数	比率
文化芸術の発展	2,202	53.7%
文化芸術の日常生活への浸透	2,102	51.3%
地域の魅力の向上	895	21.8%
地域の活性化	917	22.4%
愛知県の知名度の向上	852	20.8%
開催会場となる市町村のPR	600	14.6%
海外からの観光客の誘致	350	8.5%
海外からのイベントや会議の誘致	223	5.4%
特になし	357	8.7%
その他	238	5.8%
計	8,736	—



○次回3年後のトリエンナーレに行きたいと思いますか

選択肢	数	比率
絶対行く	1,052	25.7%
たぶん行く	1,819	44.4%
わからない	1,131	27.6%
行かない	95	2.3%
計	4,097	100.0%



○自由意見抜粋

《テーマ「情の時代」ほか内容についての御意見》

- ・若い作家、女性作家が多く登場しており、非常に良いと思った。また、表現の手法がどんどん拡張、クロスオーバーされており、ますますアートが自由になる気配を感じた。
- ・大変興味深く、考えさせられる作品ばかりで感動しました。実際に見ることができた作品からはインスピレーションを受け取りましたが、展示中止になっている”展示を見ることができたはずの作品”にも心が動きました。良い、悪いという二極面からではなく、いろいろな面で議論され、作品たちがあるべき姿で人々の前に現われることを願います。
- ・今回は戦争を題材にした作品が多い様に感じました。後世に残すことは必要だと思いますがアートイベントとしてテーマが重過ぎます。芸術祭というお祭りの位置づけならもう少し楽しめる内容のほうが良いのではないのでしょうか。
- ・今回のテーマ“情の時代”にはとてもタイムリーなものを感じました。現代社会の、モヤモヤした何か引っかかるものの原因を提示してもらったように思います。
- ・アートを通して、様々な社会の問題、ひずみ、ゆがみに気づけるのはとてもよいと思います。今後も色々な視点からの気づきの場を作ってください。
- ・体感できるアートが多く、発想もおもしろいものばかりだった。
- ・今回のように皆で共有できるような話題が出てくることはとても良いと思います。違ういろんな意見が出る企画で良いと思います。
- ・政治的な影響を受ける内容を展示する場合、事前にオープンなシンポジウム等行い、展示に対して批判を受けけない仕立てが必要だと思います。
- ・政治、ジェンダー、日本人の韓国への対応など、様々なことが浮き彫りになっており、大変勉強になった。
- ・今後も、このように社会の問題を取り扱った作品や作家を取り上げる展覧会であってほしい。世界のアートの動向を持ってくる、そこに意味があると思う。
- ・参加アーティストの男女比50:50の実現には、とてもよい希望をもらえた。
- ・今回のテーマで展示された作品は、時代に呼応していて、今生きる上で立ち止まりたいこと（視点、問題意識）を捉えていると思います。鑑賞しながら友人たちと国際問題、歴史、メディア、家族のことをたくさん議論しました。こんな骨太な美術展はなかなか東京でも出会えません。
- ・展示全体として作品一つ一つが面白く、時間が許すなら映像も飽きずに見ることができるものが多くて普段美術館に行かない人でも楽しめるのではという印象でした。
- ・「現代のアート」を体感することができ初めてでしたので刺激を受けました。

- ・今回の展示中止を乗り越えてさらに、現代的なもの、政治的メッセージを含むもの、若い作家重視、女性の作家の参加を高めてください。
- ・「情の時代」というテーマ、その捉え方はそれぞれだと思いますが、現在の私たちの時代に起こっている課題、考えるべきことをそれぞれの作品から感じることができ、また、振り返ることができました。
- ・政治利用される物の展示は最初からすべきではない。
- ・「美」＝然るべき点を鑑みて、「情」に訴える作品を鑑賞でき大変面白かった。
- ・表現の自由、見る自由、全てが尊重されるためには、展示室前に「不快な思いになるかもしれないので、了承の上見て下さい」と確認するシステムにすべきであった。
- ・アートの世界で平等を実現すると掲げ、多くの女性の作品が展示されていたこと。そしてその女性の作品が、フェミニズム視点だけでないものも多くあったことに感動しました。

《会場運営等に関するご意見》

- ・フリーパスの安さや、アプリの質の良さは驚きです。アートを見る側の裾野を広くしようというささやかな野望も感じます。
- ・1DAY パスをフリーパスへグレードアップできるのがよかった。
- ・フリーパスで同じ会場を何回も観られる仕組みになって良かったです。
- ・前回よりかりずナブルになったのと、フリーパスで何回も入場できるのは大変嬉しいです。
- ・前回のような1会場1入場の全ての会場を周回するパスが欲しかったです。
- ・1DAY チケットで豊田・名古屋会場を見るのは無理です。
- ・交通案内もわかりやすく、スタッフやサポーターの方も皆親切でした。
- ・ボランティアさんのガイドツアーがとても楽しく、他の人の感想もきけて良かった。
- ・どこの会場でも、現場のボランティアスタッフの方々がとても親切に案内や対応をしてくださることが印象的でした。
- ・対話型のガイドは作品への理解が深まって大変良かったです。
- ・アプリが本当に使いやすく、現代アートの距離を縮めてくれて良かったです。
- ・アプリを利用した作品解説は凄く便利でした。
- ・名古屋に長く住んでいるが、円頓寺には行った事がなかったので良い機会でした。
- ・街なかの展示を増やしてほしいです。
- ・地域活性化として、古い町並みを活かした展示を増やしてほしいです。
- ・前回あったような、街中でのパフォーマンス作品をまた観てみたいです。
- ・名古屋市内の各会場、名古屋駅、金山駅を拠点として、自転車にトリエンナーレの広告を提示していれば、レンタサイクルで市内を巡ることで自然と宣伝効果になります。
- ・夏～秋ですと、まだ暑い期間なので美術館はともかく、街中を歩き回るのはつらいかと思います。
- ・筆談で個人対応していただいたのと一般ツアーに友人の手話通訳で参加したのと2回経験しましたが、一般ツアーの方が色々な意見を聞いて有意義でした！日本語で話している映像にも日本語字幕をつけて欲しいです。

《表現の不自由展についての御意見》

- ・キュレーションで説明しすぎないとか、論議が起きるような設定に変更されているようですが見ている観客に対しての最低限の説明や配慮は必要なのではと思いました。
- ・一部作品を見ることができなかったのは残念ですが、改めて表現の自由の大切さを考えさせられました。
- ・今回のトリエンナーレをきっかけにあらゆる立場、意見の方が互いの意見を大切にしながら対話できる機会が増えることを望みます。
- ・表現の不自由展ばかり焦点化されていますが全体を見れば「見て、自分の感情を通して目の前の事象をとらえ直す、考え直す」ことのできる展示の一環であることがわかるのではないかと思います。
- ・周りの人とも話しましたが、その中で「見る人が不快になることが想像できる場合、それを意図しなくてもあのような場で展示すべきではない」という表現がありました。トリエンナーレ、現代美術・芸術・表現、どの方面から考えても正しい答えなんてないのかもしれませんが、一利あると思いました。
- ・アーティスト達の抗議という行為そのものが芸術運動となり世間の注目や人々の関心、物議を醸し、アートの立場が弱いこの国で「アートとは何か？アーティストとは？」ということについて考えることになりました。
- ・今一度、この企画を省みて、企画の主題や意義を十分に伝えられるキュレーション・展示構成だったか、またこれを踏まえて何に基づいてどう展示を批評するのが適切か、芸術事業に公的な補助金を出すということが本来どういうことか、そういったことがこれを機に議論されることがこれからのあいちトリエンナーレやこの国の芸術の発展に重要なことだと感じます。
- ・税金を使う以上、思想が入る展示は公平にすべきです。
- ・検閲になるかもしれませんが見ていてワクワクするものももっとあったら良いなと思いました。

■映像プログラム

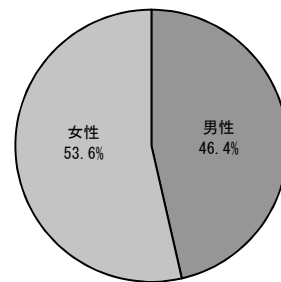
実施時期	9月15日(日)～9月29日(日)
調査対象	映像プログラム(愛知芸術文化センター)の来場者
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配布し、上映終了後に出口付近で回収
回収数/来場者数	889人/4,952人(18.0%)

- ・回答者の年齢をみると、40代以上が70.3%を占め、40代が26.9%と一番多い。
- ・催しをどこで知ったかについては、チラシとインターネットを合わせると約8割を占めていた。
- ・催しの感想については、「大変良かった」「良かった」を合わせると87.0%となり、とても好評であった。

【回答者の属性】

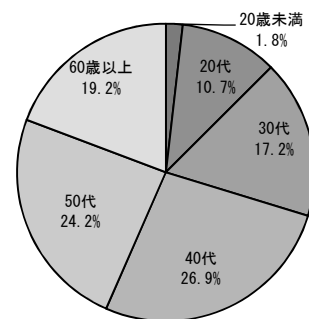
○性別

選択肢	数	比率
男	285	46.4%
女	329	53.6%
計	614	100.0%



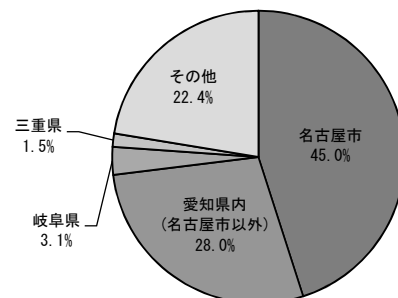
○年齢

選択肢	数	比率
20歳未満	16	1.8%
20代	94	10.7%
30代	151	17.2%
40代	236	26.9%
50代	212	24.2%
60歳以上	169	19.2%
計	878	100.0%



○お住まい

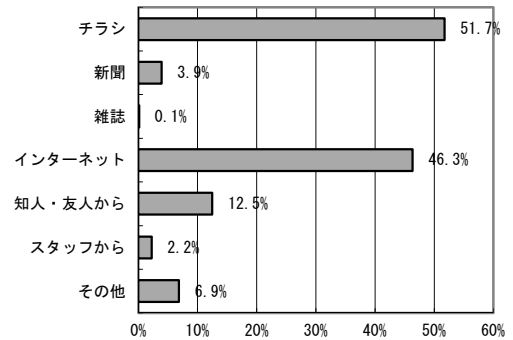
選択肢	数	比率
名古屋市内	395	45.0%
名古屋市外愛知県内	245	28.0%
岐阜県	27	3.1%
三重県	13	1.5%
その他	196	22.4%
計	876	100.0%



【来場理由】

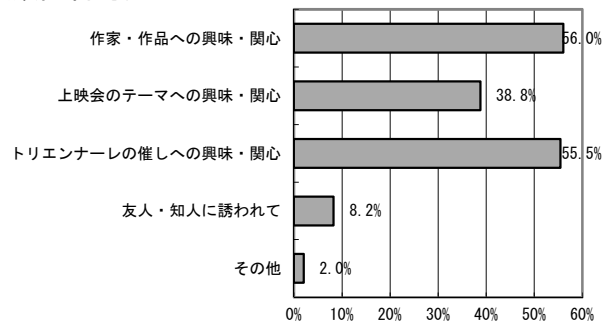
○本日の催しはどこでお知りになりましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
チラシ	460	51.7%
新聞	35	3.9%
雑誌	1	0.1%
インターネット	412	46.3%
知人・友人から	111	12.5%
スタッフから	20	2.2%
その他	61	6.9%
計	1100	—



○本日の催しをご覧になった動機は何ですか（複数回答可）

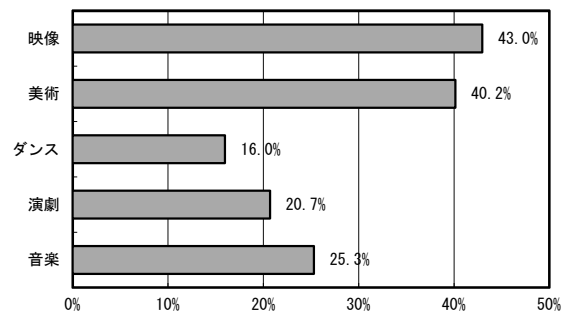
選択肢	数	比率
作家・作品への興味・関心	498	56.0%
上映会のテーマへの興味・関心	345	38.8%
トリエンナーレの催しへの興味・関心	493	55.5%
友人・知人に誘われて	73	8.2%
その他	18	2.0%
計	1427	—



【関心のあるジャンル】

○どんなジャンルに関心がありますか（複数回答可）

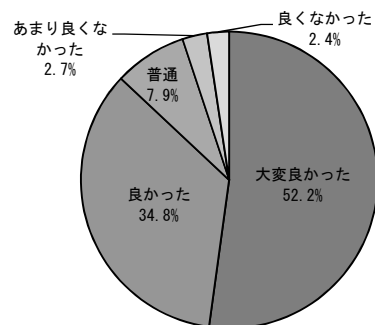
選択肢	数	比率
映像	382	43.0%
美術	357	40.2%
ダンス	142	16.0%
演劇	184	20.7%
音楽	225	25.3%
計	1290	—



【催しの感想】

○本日の催しはいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変良かった	435	52.2%
良かった	290	34.8%
普通	66	7.9%
あまり良くなかった	23	2.7%
良くなかった	20	2.4%
計	834	100.0%



○自由意見抜粋

- ・映像プログラムの上映スケジュールがもう少し多くあると、もっと参加しやすいと思った。是非次回も開催して欲しいです。
- ・解釈が自由な作品ほど、トークイベントなどの議論やコミュニケーションの場があると、より豊かな体験ができてうれしい。
- ・以前は整理券システムがなかったので、配ることにしてもらって良かったです。
- ・忙しい毎日の中で、こうして長時間没頭して、自分の気持ちなどを整理したり、気づいたりできるステキな機会になっています。
- ・アフタートークがあると、作品の理解が深まるだけでなく、観客の方の多様な視点を知ることができてよいと思いました。
- ・今回のトリエンナーレの映像プログラムはとても良いです。地元在住でフリーパスを買って良かった。愛知を誇りに思える数少ない名古屋のイベントだと思います。
- ・映像プログラムの回数をもっと増やして欲しい。別料金をとってもよいと思うくらい、面白い作品ばかりでした。
- ・あいちトリエンナーレのファンで、1回目の頃からずっと見守っています。今回一番良かったと思うのは、映像プログラムでした。自分の興味をもった作品はもちろん、普段見ないようなSFや、知らなかった作品を見て、気持ちが揺さぶられることが多くあった。その映画の監督が、過去にどんな作品を撮っているのかも見たくなった。あいちトリエンナーレが終わっても、関連事業で映像を取り上げて欲しいくらい。仕事で見れないことが多かったけど、全部見てみたいを思うくらい、ラインナップに興味をもった。ありがとうございました。
- ・僧侶にも悩みがあり、苦悩しながら生きている。僕が受けとめきれているかは心許ないが、全く退屈しなかった。トークイベントの老師の話は、とても響いた。上映だけでなく、トークイベントにも参加できてとてもよかった。

(『典座-TENZO-』)

- ・震災後、生きている人が特別ではなく、普通に生きている人がどう震災に向きあっているのか、気持ちがどう変わったか、それが伝わってきた。

(『空に聞く』)

■パフォーミングアーツ

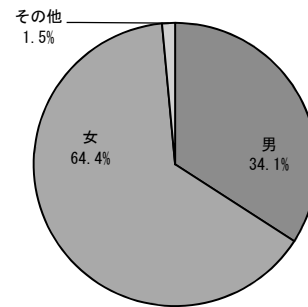
実施時期	8月1日(木)～10月14日(月・祝)
調査対象	パフォーミングアーツ（愛知県芸術劇場小ホール・大リハーサル室、愛知県美術館10階、愛知芸術文化センターアトスペースA、名古屋市芸術創造センター、名古屋市美術館講堂、豊田市民文化会館大ホール、豊田市美術館講堂、なごのキャンパス体育館）14演目の来場者
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、公演終了後に出口付近で回収
回収数/来場者数	1,401人/6,058人（23.1%） ※来場者数はアンケート実施公演分の人数

- ・回答者の年齢をみると、40代が27.0%と一番多く、その他は20代から60歳以上まで幅広いが、20歳未満は3.5%、60歳以上は8.0%と少ない。
- ・ご覧になった動機は、回答者の51.2%が「作品への興味・関心」と答えているが、「トリエンナーレの催しに興味がある」も38.6%と多くなっている。
- ・催しの感想については、「大変良かった」と「良かった」を合わせて92.3%を占め、大変好評であった。

【回答者の属性】

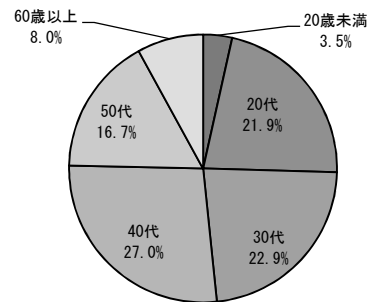
○性別

選択肢	数	比率
男	365	34.1%
女	689	64.4%
その他	16	1.5%
計	1070	100.0%



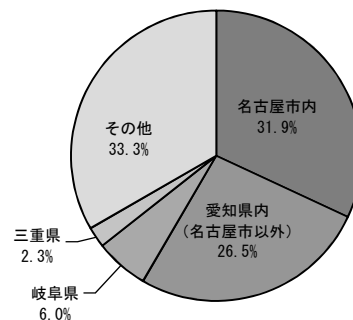
○年齢

選択肢	数	比率
20歳未満	48	3.5%
20代	300	21.9%
30代	314	22.9%
40代	369	27.0%
50代	228	16.7%
60歳以上	109	8.0%
計	1,368	100.0%



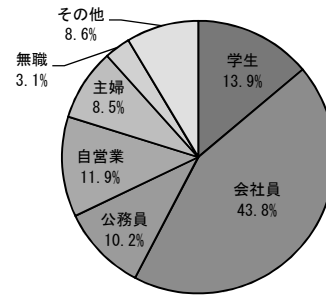
○お住まい

選択肢	数	比率
名古屋市内	434	31.9%
愛知県内（名古屋市以外）	360	26.5%
岐阜県	81	6.0%
三重県	32	2.3%
その他	453	33.3%
計	1,360	100.0%



○職業

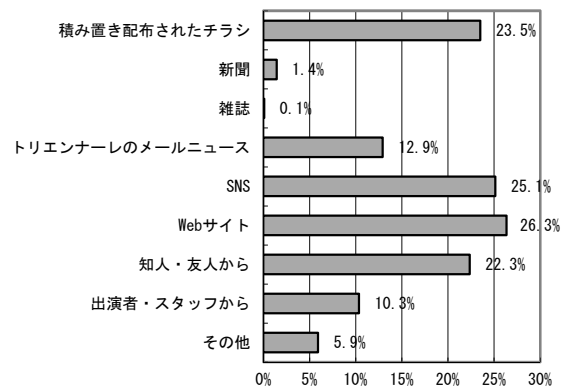
選択肢	数	比率
学生	181	13.9%
会社員	570	43.8%
公務員	133	10.2%
自営業	155	11.9%
主婦	111	8.5%
無職	40	3.1%
その他	111	8.6%
計	1,301	100.0%



【来場理由】

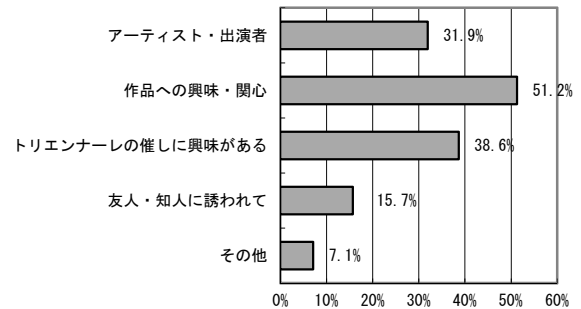
○本日の催しはどこでお知りになりましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
積み置きや配布されたチラシ	329	23.5%
新聞	20	1.4%
雑誌	1	0.1%
トリエンナーレのメールニュース	181	12.9%
SNS	352	25.1%
Webサイト	369	26.3%
知人・友人から	313	22.3%
出演者・スタッフから	145	10.3%
その他	83	5.9%
計	1793	—



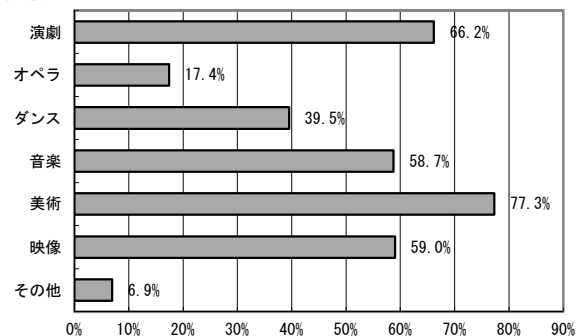
○本日の催しをご覧になった動機は何ですか（複数回答可）

選択肢	数	比率
アーティスト・出演者	447	31.9%
作品への興味・関心	718	51.2%
トリエンナーレの催しに興味がある	541	38.6%
友人・知人に誘われて	220	15.7%
その他	99	7.1%
計	2,025	—



○どんなジャンルに関心がありますか（複数回答可）

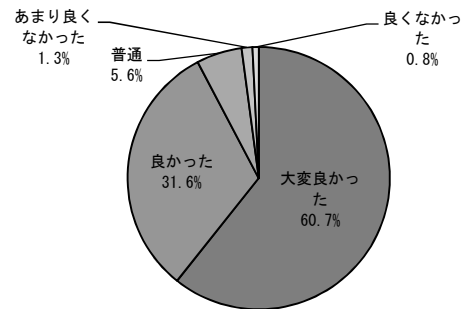
選択肢	数	比率
演劇	927	66.2%
オペラ	244	17.4%
ダンス	554	39.5%
音楽	823	58.7%
美術	1,083	77.3%
映像	827	59.0%
その他	97	6.9%
計	4,555	—



【催しの感想】

○本日の催しはいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変良かった	788	60.7%
良かった	410	31.6%
普通	73	5.6%
あまり良くなかった	17	1.3%
良くなかった	10	0.8%
計	1,298	100.0%



○自由意見抜粋

- ・本 10 冊読んでくらくら勉強になった。企画（作品）の意図がよく分かった。アーティストの「問い」に共感が持てた。
（高山明（Port B）『パブリックスピーチ・プロジェクト』プロジェクトプレゼンテーション）
- ・ポストトークまで見て、ピナ・バウシュのドキュメンタリーを思い出していた。自分のことを悟り、自分の名で舞台に立ちながら、事件・社会をあぶり出すような作品で、演技の練習をする子どもたち。彼・彼女らの楽しさと、彼らの真似した辛いショッキングな出来事の落差について考えたいと思う。
（ミロ・ラウ（IIPM）+ CAMPO 『5 つのやさしい小品』）
- ・ダンスと演劇が合わさって、アメリカの幸福とジレンマを表現されていて大変面白かった。
（ネイチャー・シアター・オブ・オクラホマ+エンクナップグループ『幸福の追求』）
- ・舞台装置、演出ともにすばらしかった。大人にとっても生き方を問うものになっていた。
（劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ『幸福はだれにくる』名古屋公演）
- ・小学生以来の劇団うりんこさんと大好きなアーティストクワクボさんのコラボで 2 つの世界観が合わさり面白い企画だった。アーティスト同士のコラボ企画は世界が広がり興味がある。
（劇団うりんこ+三浦基+クワクポリョウタ『幸福はだれにくる』豊田公演）
- ・想像以上の大作でびっくりした。生と死について考えさせられた。参加型なのがより自分事になり、場の一体感にもつながり素晴らしかった。デザインもキュートなのでグロテスクなシーンにも向き合いやすかった。
（サエボーグ『House of L』）
- ・アラブの世界を知れて面白かった。幻想的な舞台のイメージがとても美しかった。その後のトークではそれとは違いモニラさんの親しみやすいお話がよかった。
（モニラ・アルカディリ『髭の幻』）
- ・視覚がなくなる感覚を体験してとてもショッキングだった。いつかコンピュータが人間とつながり、脳内ネットワークが他人と共有される世界を生で体験できたようなとても不思議な作品ですばらしかった。
（小泉明郎『縛られたプロメテウス』）
- ・きわめて今日的な問いを、演劇的な、あらゆる手法で作品にした演劇を見られたことに感動した。
（市原佐都子（Q）『バックスの信女—ホルスタインの雌』）
- ・すごくおもしろかった。すごいものを見た。演劇を見ながら「自分はどこにいるのか」を考え、観ている間に自分の中で物語を作ろうとしていたことが分かった。アフタートークも聞いて良かった。
（劇団アルテミス+ヘット・ザウデライク・トネール『ものがたりのもものがたり』）
- ・ロミオの前知識はなく参加したので、途中まで趣旨が理解できなかったが、理解してからはとても楽しめた。孤独、愛など今後の人生を考えていくうえで参考になった。最初の説明ではロミオは悪いものかと思っていたが、終了後は、ロミオは誰の心にもいて、良いものだと思うようになった。今回のレクチャーパフォーマンスは初の試みとのことだが、とても良かったのでまたやってほしい。
（【エクステンション】ドラ・ガルシア レクチャーパフォーマンス『ロミオ』）
- ・ハーフをルーツにしていなくても全員全く異なる意見を持っていたのが興味深かった。自発的に発言しない人の方がむしろ突飛な意見を持っていたりしていて面白かった。
（【エクステンション】田中 功起 映像上映/アッセンブリー『抽象・家族』名古屋会場）
- ・少人数で話し合えたのがよかった。自分の無意識の差別に気付いて反省した。広い世界を見ることは大切だなと思う。
（【エクステンション】田中 功起 映像上映/アッセンブリー『抽象・家族』豊田会場）
- ・本展の意義を深く考える機会になった。
（【エクステンション】藤井光 レクチャーパフォーマンス/鑑賞ツアー『無情』）
- ・ムスリムのお祈りを皆でできたりしてよかった。ムスリムの方のお話を色々お聞き出来てよかった。皆でクリケットをすることで仲良く楽しくできて隣人、異国の人々との友情や愛情の交流ができた感じがよかった。世界平和の体験、この経験を今後に生かしていきたい。
（【エクステンション】キュンチョメ レクチャーパフォーマンス/参加型イベント『円頓寺クリケットクラブ』）
- ・とても興味深く、今直面している問題へのポジティブな考えの萌芽のようなものをいただいた気がする。
（【エクステンション】ドミニク・チェン（dividual inc.）レクチャーパフォーマンス『共在言語をつくるために』）

■音楽プログラム

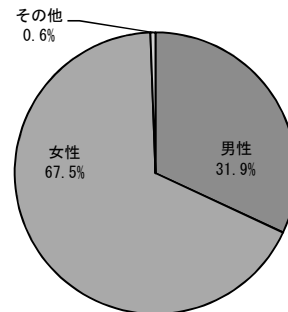
実施時期	8月1日(木)～10月11日(金)
調査対象	音楽プログラム(サカナクション「暗闇-KURAYAMI-」、純烈 Presents「1969年の前川清と藤圭子～昭和を彩るロックとブルース～」、「MUSIC & ARTS FESTIVAL」、「円頓寺デイリーライブ」)4演目の来場者
配布・回収方法	公演終了後に出口付近でアンケート用紙を配付し、回収(サカナクション「暗闇-KURAYAMI-」、純烈 Presents「1969年の前川清と藤圭子～昭和を彩るロックとブルース～」) 入場時にアンケート用紙を配付し、公演終了後に出口付近で回収(円頓寺デイリーライブ) 公演中にアンケートコーナーを設置、アンケート用紙を自由配布し、回収(「MUSIC & ARTS FESTIVAL」)
回収数/来場者数	1,788人/33,875人(5.3%)

- ・回答者の年齢をみると、30代が28.5%と一番多く、その他は20代から60歳以上まで幅広いが、20歳未満は6.3%、60歳以上は3.4%と少ない。
- ・住まいでは、愛知県内が44.8%、愛知県外が55.2%となっており、愛知県外からの来場者が多くなっている。
- ・国際現代美術展へ行ったか、もしくは行く予定があるかを聞いたところ(「円頓寺デイリーライブ」、「MUSIC & ARTS FESTIVALにおいて」)、回答者の67.3%が「ある」と回答しており、国際現代美術展への関心の高さが伺える。
- ・催しの感想については、「とても満足」と「まあ満足」を合わせて94.4%を占め、大変好評であった。

【回答者の属性】

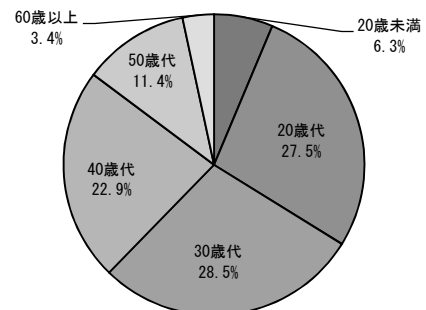
○性別

選択肢	数	比率
男性	561	31.9%
女性	1,186	67.5%
その他	10	0.6%
計	1,757	100.0%



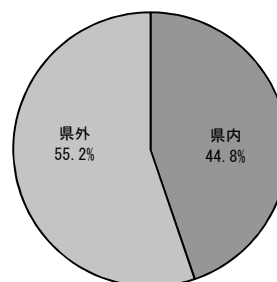
○年齢

選択肢	数	比率
20歳未満	113	6.3%
20歳代	491	27.5%
30歳代	508	28.5%
40歳代	409	22.9%
50歳代	204	11.4%
60歳以上	60	3.4%
計	1,785	100.0%



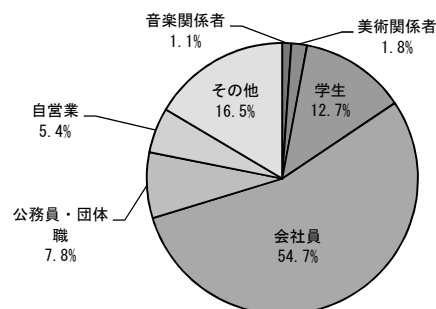
○お住まい

選択肢	数	比率
県内	793	44.8%
県外	978	55.2%
計	1,771	100.0%



○職業

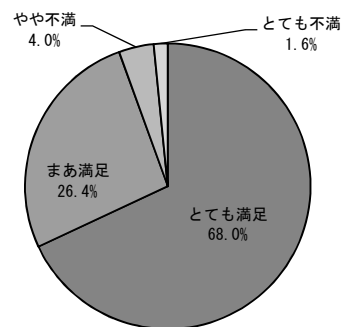
選択肢	数	比率
音楽関係者	19	1.1%
美術関係者	33	1.8%
学生	226	12.7%
会社員	976	54.7%
公務員・団体職	140	7.8%
自営業	96	5.4%
その他	294	16.5%
計	1,784	100.0%



【催しの感想】

○本日の催しはいかがでしたか

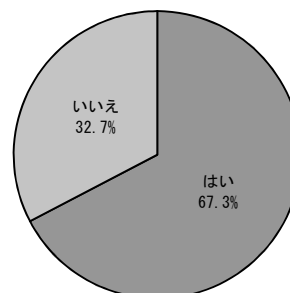
選択肢	数	比率
とても満足	1203	68.0%
まあ満足	467	26.4%
やや不満	70	4.0%
とても不満	28	1.6%
計	1,768	100.0%



【その他】

○国際現代美術展に行きましたか？（予定含む）

選択肢	数	比率
はい	167	67.3%
いいえ	81	32.7%
計	248	100.0%



※『MUSIC&ARTS FESTIVAL』、
『円頓寺デイリーライブ』で実施

■アート・プレイグラウンド

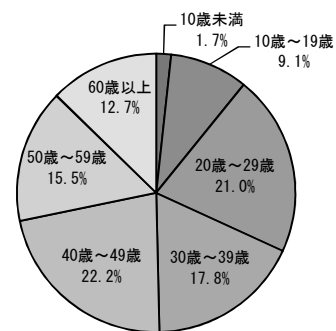
実施時期	8月～10月
調査対象	アート・プレイグラウンドの来場者
配布・回収方法	会場出入口付近において、アンケート用紙を配付して実施
回収数/参加者数	984人/79,518人(1.2%)

- ・「今日は楽しかったですか」という質問については、「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせて70.4%を占め、概ね好評であった。
- ・「今日体験したことをこれからもやってみたいですか」という質問については、「ぜひやってみたい」と「やってみたい」を合わせて68.2%を占め、参加者の今後の美術に関する活動のきっかけになることが期待される。

【回答者の属性】

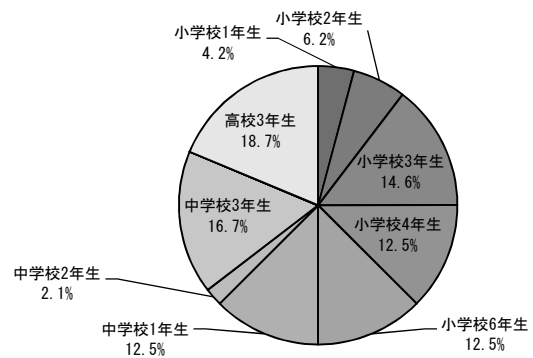
○年齢

選択肢	数	比率
10歳未満	17	1.7%
10歳～19歳	89	9.1%
20歳～29歳	207	21.0%
30歳～39歳	175	17.8%
40歳～49歳	218	22.2%
50歳～59歳	153	15.5%
60歳以上	125	12.7%
計	984	100.0%



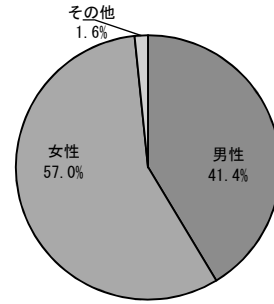
○学年

選択肢	数	比率
小学校1年生	2	4.2%
小学校2年生	3	6.2%
小学校3年生	7	14.6%
小学校4年生	6	12.5%
小学校5年生	0	0.0%
小学校6年生	6	12.5%
中学校1年生	6	12.5%
中学校2年生	1	2.1%
中学校3年生	8	16.7%
高校1年生	0	0.0%
高校2年生	0	0.0%
高校3年生	9	18.7%
大学生	(119)	-
回答なし(未就学児を含む)	(817)	-
計	48	100.0%



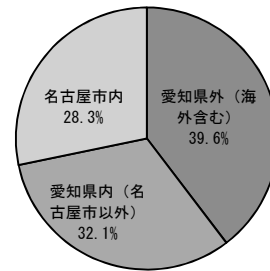
○性別

選択肢	数	比率
男性	407	41.4%
女性	561	57.0%
その他	16	1.6%
計	984	100.0%



○お住まい

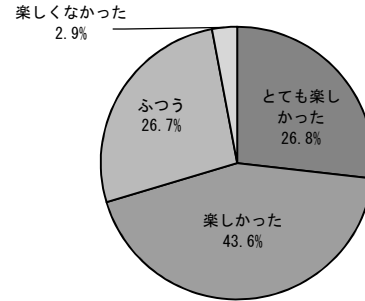
選択肢	数	比率
愛知県外（海外含む）	390	39.6%
愛知県内（名古屋市以外）	316	32.1%
名古屋市内	278	28.3%
計	984	100.0%



【感想】

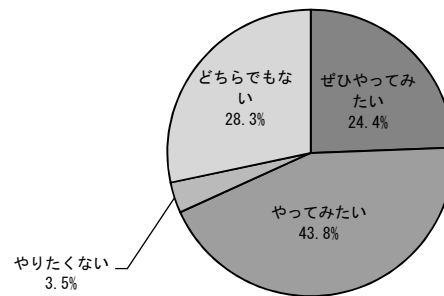
○今日は楽しかったですか

選択肢	数	比率
とても楽しかった	264	26.8%
楽しかった	429	43.6%
ふつう	262	26.7%
楽しくなかった	29	2.9%
計	984	100.0%



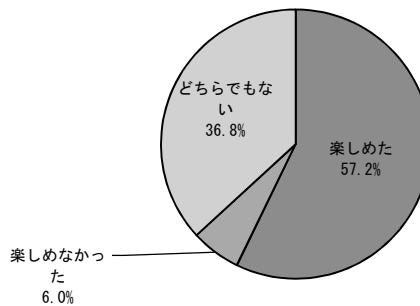
○今日体験したことをこれからもやってみたいですか

選択肢	数	比率
ぜひやってみたい	211	24.4%
やってみたい	379	43.8%
やりたくない	30	3.5%
どちらでもない	245	28.3%
計	865	100.0%



○つくりだすこと、うみだすことは楽しめましたか

選択肢	数	比率
楽しめた	479	57.2%
楽しめなかった	50	6.0%
どちらでもない	309	36.8%
計	838	100.0%



○自由意見抜粋

- ・誰にでもアートをつくれるという体験ができてよかったです。また、目で見る作品から目で感じて考えることから生まれる、自分自身と作品の間のできるもので、ひとつのアートなんだなと感じられて面白かったです。
- ・アート・プレイグラウンドみたいに実際さわったり体験できたら来場者も楽しめると思う。子供が遊べる空間があったことが、親としてうれしかったしこれからの子供たちの発想や夢が広がると思った。
- ・アートプレイグラウンドで参加できるものがあってよかった。とくに、「はなす」で直接見た人同士で話せる仕組みが良かった。次回も、見た人同士が直接意見交換できるとよいと思う。
- ・こうさくいろいろ5かいだてはこジャンプ！（はこをつかったこうさく）
- ・ダンボール公園がよかった。なかなか美術館に4歳、1歳の子供を連れてこれないので、遊び場のようで学べる場があると、子連れも参加しやすい。
- ・アート・プレイグラウンドが、躍動感があって楽しかったです。
- ・今回のアート・プレイグラウンド「しらせる」を体験したのですが、普段芸術というものに触れる機会がなく、学生以来の体験ができ、徐々に味わう感覚がとても新鮮で楽しかったです。またボランティアスタッフの方がとても親切でうれしかったです。
- ・豊田市美術館のアート・プレイグラウンドでの制作はとても面白かったです。
- ・アート・プレイグラウンドは次回もやってほしい。アート・プレイグラウンド以外にも子どもが楽しめたらいいと思う。
- ・毎回こどもたち（小5・小1）を連れて家族で楽しんでいます（特にアート・プレイグラウンド）。次も楽しみにしています
- ・アート・プレイグラウンドはとても子どもが喜んだ。託児も嬉しかった。

■モバイル・トリエンナーレ

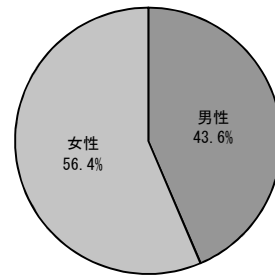
実施時期	モバイル・トリエンナーレの開催日
調査対象	モバイル・トリエンナーレの来場者（4会場）
配布・回収方法	入場時にアンケート用紙を配付し、出口付近に設置したアンケートボックスにて回収
回収数/来場者数	834人/1,937人（43.1%）

- ・国際現代美術展来場者は30代までの年齢層が6割弱を占めるが、モバイル・トリエンナーレにおいては、各年代が満遍なく来場している。また、住まいについては、開催市町内が6割を占めるなど、地域に近いイベントであった。
- ・展示内容の感想については、「良かった」と「まあ良かった」を合わせて85.6%を占め、好評であった。また、展示を見て「あいちトリエンナーレ」に行ってみようと思ったかという質問において、3割強の方が「思った」、3割弱の方が「すでに来場したことがある」と答えている。

【回答者の属性】

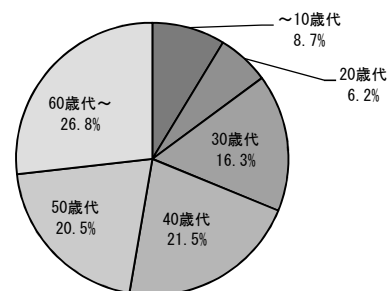
○性別

選択肢	数	比率
男性	349	43.6%
女性	452	56.4%
計	801	100.0%



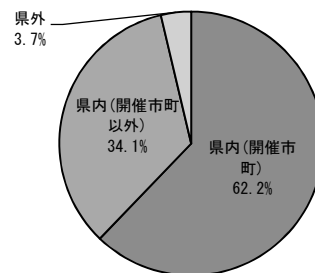
○年代

選択肢	数	比率
～10歳代	72	8.7%
20歳代	52	6.2%
30歳代	135	16.3%
40歳代	178	21.5%
50歳代	170	20.5%
60歳代～	222	26.8%
計	829	100.0%



○住まい

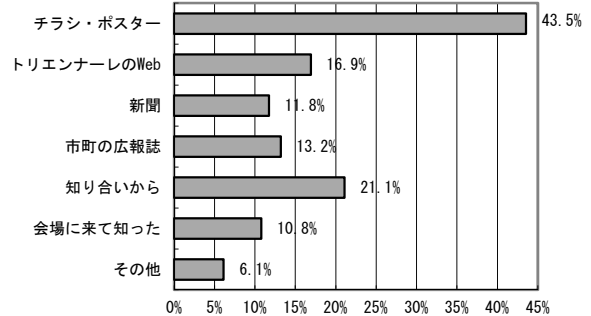
選択肢	数	比率
県内（開催市町）	505	62.2%
県内（開催市町以外）	277	34.1%
県外	30	3.7%
計	812	100.0%



【来場理由】

○モバイル・トリエンナーレをどのようにお知りになりましたか（複数回答可）

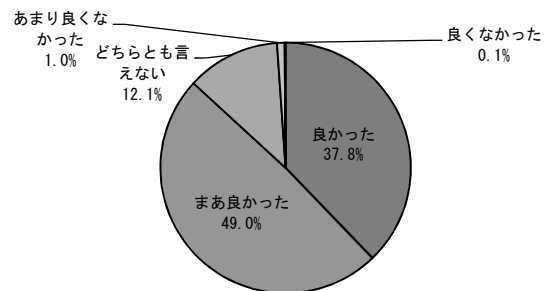
選択肢	数	比率
チラシ・ポスター	363	43.5%
トリエンナーレのWeb	141	16.9%
新聞	98	11.8%
市町の広報誌	110	13.2%
知り合いから	176	21.1%
会場に来て知った	90	10.8%
その他	51	6.1%
計	1,029	—



【展示の感想】

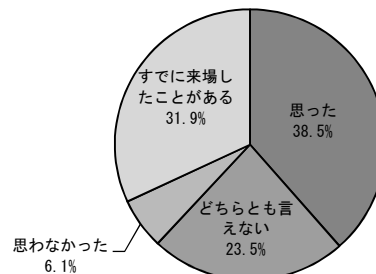
○展示の内容はいかがでしたか

選択肢	数	比率
良かった	311	37.8%
まあまあ良かった	403	49.0%
どちらとも言えない	99	12.1%
あまり良くなかった	8	1.0%
良くなかった	1	0.1%
計	822	100.0%



○本日の展示を見て、名古屋市や豊田市で開催しているあいちトリエンナーレ2019の会場に行きたいと思いましたが

選択肢	数	比率
思った	315	38.5%
どちらとも言えない	192	23.5%
思わなかった	50	6.1%
すでに来場したことがある	261	31.9%
計	818	100.0%



○自由意見抜粋

- ・あいちトリエンナーレ本展とは違う作品が出ていて、本展とはちがう楽しみかたができた。
- ・日頃、絵画などに接することがないのでよい機会でした。
- ・名古屋会場で印象に残った作家の作品がダイジェスト的に展示されており、面白さを紹介するのによい機会だと感じた。
- ・会場ごとのおもしろさがありそう。
- ・解説がとても分かりやすく、興味がわきました。ほかの作品も見たいと思いました。
- ・ガイドさんの説明もあって内容がわかって良かったです。
- ・ワークショップは”体験型”で、まるで仲間になれたようでおもしろかった。
- ・ワークショップがとてもにぎやかで楽しそうな雰囲気でした。
- ・ワークショップ楽しかった。自分で刷ったものを記念に持ちかえれたのもすごくうれしかった。

(2) 関係者アンケート

区分	調査対象数	回収数	回収割合	該当ページ
ボランティア	1,219名	168名	13.8%	112
舞台芸術公募プログラム事業参加団体	15団体	15団体	100.0%	116
パートナーシップ事業参加団体	178団体	47団体	26.4%	118

■ ボランティア

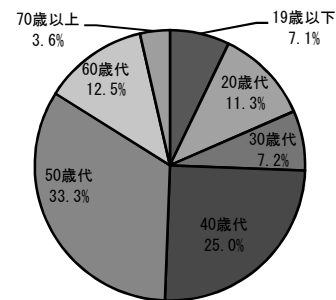
実施時期	11月～12月
調査対象	ボランティア参加者
配布・回収方法	Web
回収数/対象数	168名/1,219名 (13.8%)

【回答者の属性】

- ・ 10歳代から70歳以上まで、幅広い年代の方に参加していただいた。職業については会社員と主婦・主夫が多くなっている。
- ・ 以前にボランティア活動を経験したことのある方が68.5%を占め、そのうち59.1%の方が「過去のあいちトリエンナーレでのボランティア」経験ありと回答している。

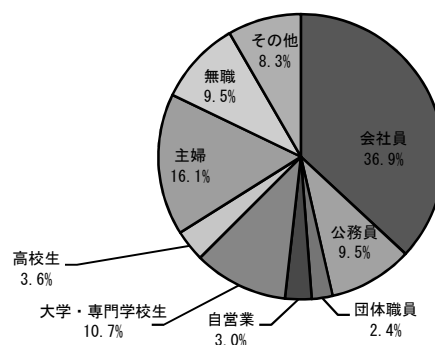
○ 年代

選択肢	数	比率
19歳以下	12	7.1%
20歳代	19	11.3%
30歳代	12	7.2%
40歳代	42	25.0%
50歳代	56	33.3%
60歳代	21	12.5%
70歳以上	6	3.6%
計	168	100.0%



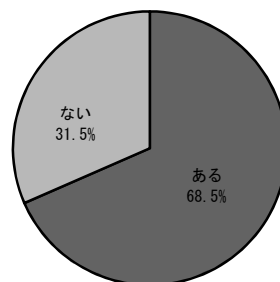
○ 職業

選択肢	数	比率
会社員	62	36.9%
公務員	16	9.5%
団体職員	4	2.4%
自営業	5	3.0%
大学・専門学校生	18	10.7%
高校生	6	3.6%
主婦	27	16.1%
無職	16	9.5%
その他	14	8.3%
計	168	100.0%



○あいちトリエンナーレ 2019 のボランティアに参加する前にボランティア活動に参加した経験がありますか

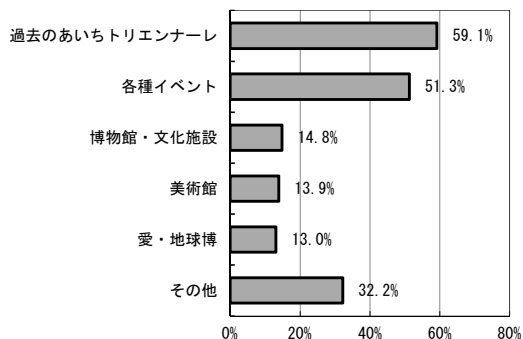
選択肢	数	比率
ある	115	68.5%
ない	53	31.5%
計	168	100.0%



○これまで、どのような活動に参加されましたか（複数回答可）

（※前問で「ある」と回答した方のみ）

選択肢	数	比率
過去のあいちトリエンナーレ	68	59.1%
各種イベント	59	51.3%
博物館・文化施設	17	14.8%
美術館	16	13.9%
愛・地球博	15	13.0%
その他	37	32.2%
計	212	—

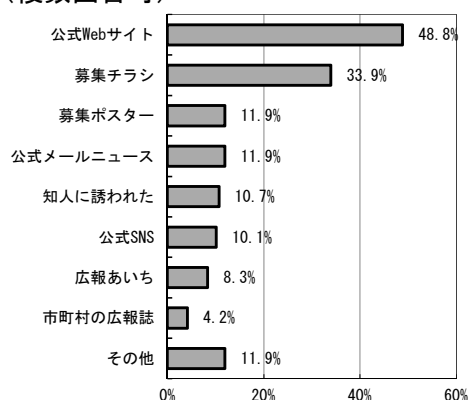


【参加理由】

- ・募集を知ったきっかけは、「公式 Web サイト」と「募集チラシ」が多い。
- ・参加理由としては、トリエンナーレや現代アートに興味があったという人が最も多いが、「ボランティア活動に興味がある」「人との交流が好き」「社会や人のためになりたい」との回答も多くなっている。

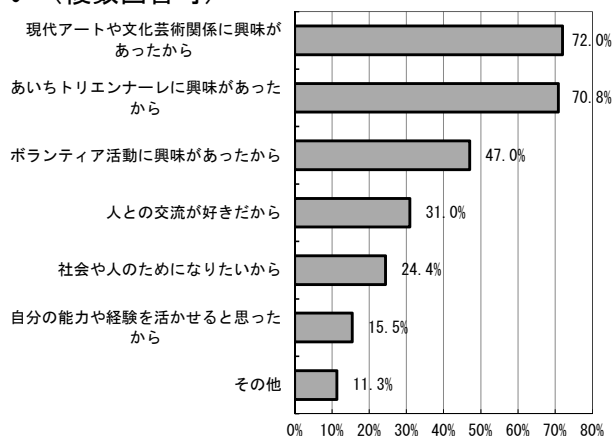
○ボランティア募集について、どのように知りましたか（複数回答可）

選択肢	数	比率
公式 Web サイト	82	48.8%
募集チラシ	57	33.9%
募集ポスター	20	11.9%
公式メールニュース	20	11.9%
知人に誘われた	18	10.7%
公式 SNS	17	10.1%
広報あいち	14	8.3%
市町村の広報誌	7	4.2%
その他	20	11.9%
計	255	—



○ボランティアに参加した理由をお聞かせください（複数回答可）

選択肢	数	比率
現代アートや文化芸術関係に興味があったから	121	72.0%
あいちトリエンナーレに興味があったから	119	70.8%
ボランティア活動に興味があったから	79	47.0%
人との交流が好きだから	52	31.0%
社会や人のためになりたいから	41	24.4%
自分の能力や経験を活かせると思ったから	26	15.5%
その他	19	11.3%
計	457	—

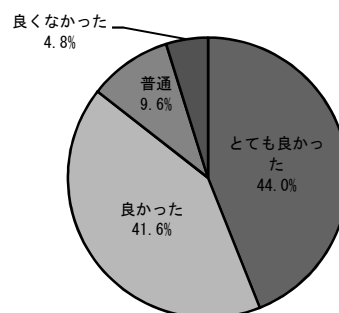


【感想】

- ・ボランティア活動に参加して、「とても良かった」「良かった」という回答は 84.6%にのぼった。その理由として、「現代アートや文化芸術関係に携わることができた」が 87.3%と最も多く、その次に「来場者と交流することができた」が 59.2%、「ボランティア同士で交流することができた」が 57.7%となっている。
- ・次回のトリエンナーレなど、今後このような芸術イベントにボランティアとして参加したいか聞いたところ、83.9%の方が「参加したい」又は「参加を検討したい」と回答した。

○ボランティア活動をしていかがでしたか

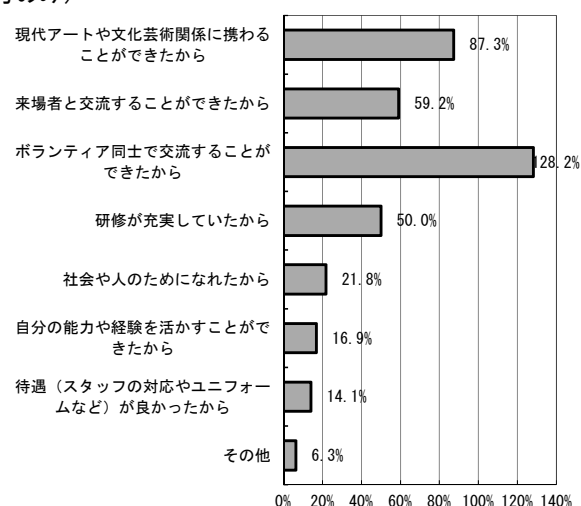
選択肢	数	比率
とても良かった	73	44.0%
良かった	69	41.6%
普通	16	9.6%
良くなかった	8	4.8%
計	166	100.0%



○どのような面で良かったと思いますか（複数回答可）

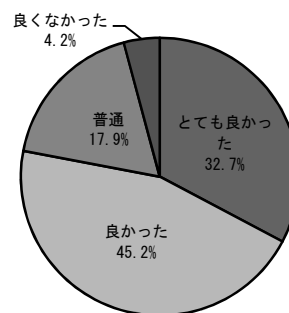
（※前問で「とても良かった」「良かった」と回答した方のみ）

選択肢	数	比率
現代アートや文化芸術関係に携わることができたから	124	87.3%
来場者と交流することができたから	84	59.2%
ボランティア同士で交流することができたから	182	128.2%
研修が充実していたから	71	50.0%
社会や人のためになれたから	31	21.8%
自分の能力や経験を活かすことができたから	24	16.9%
待遇（スタッフの対応やユニフォームなど）が良かったから	20	14.1%
その他	9	6.3%
計	545	—



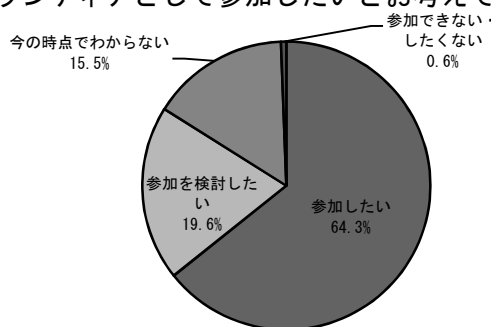
○全体研修の内容はいかがでしたか

選択肢	数	比率
とても良かった	55	32.7%
良かった	76	45.2%
普通	30	17.9%
良くなかった	7	4.2%
計	168	100.0%



○今後、トリエンナーレのような芸術イベントにボランティアとして参加したいとお考えですか

選択肢	数	比率
参加したい	108	64.3%
参加を検討したい	33	19.6%
今の時点でわからない	26	15.5%
参加できない・したくない	1	0.6%
計	168	100.0%



○自由意見抜粋

- ・対話型鑑賞という、今まで知らなかった内容の研修を受けられたのは、大変有意義だった。
- ・研修が充実していたと思う。しっかりとした研修と準備がボランティア活動の要だと思うので、次回以降も研修の充実にも努められると良いと思う。
- ・ボランティアという立場にたつと自然とお客様に話しかけることができ、楽しんでもらいたい、もっと違う見方も教えたい、という気持ちを伝えることができた。
- ・今回は従来とは違う印象。いろいろあったおかげで、来場者から励ましの言葉をいただいた。ボランティアの存在を認知していただいていることを実感でき、うれしかった。
- ・不測の事態が会期初めに起こり、大変ではあったが、個人的にはとても充実したワクワクするトリエンナーレだった。アートを取り巻く問題点や苦悩が詳らになり、アーティストの生の声をこれほど聴く機会はかつてなかった。友人間でも政治的なトピックを熱く語ることは初めてだった。問題は解決しておらず、引き続き考え行動していきたいと思う。
- ・展示内容についていろいろと問題が起こり、後味が悪い思いをした。もう少し事前の検討が十二分になされていたら今回のようなことは起こらなかったのではないかなと思う。次回以降は今回のようなことが起こらないようお願いしたい。
- ・もう少し市民に浸透するように宣伝やイベント活動ができる場が欲しかった。
- ・初めての会場だとトイレやロッカー、作品の場所がよくわからないままボランティア活動が始まってしまい、来場者の方に質問された時に困ることが度々あった。事前に簡単に説明していただけるか、良くある質問集などを用意していただけたらもっとスムーズに案内ができたのではないかなと思う。
- ・現場の状況や変更事項などのお知らせ事項等を閲覧したり、共有したりできるようなシステムがあるといいと思った。

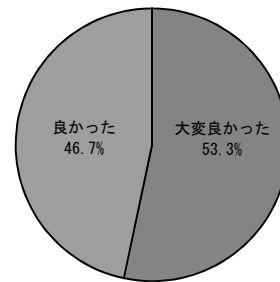
■舞台芸術公募プログラム参加団体

実施時期	12月
調査対象	舞台芸術公募プログラム参加団体
配布・回収方法	メール
回収数/対象数	15団体/15団体(100.0%)

- ・来場者の反応については、「大変良かった」と「良かった」が合わせて100.0%、「舞台芸術公募プログラム」に参加して「大変良かった」と「良かった」が合わせて100.0%となり、高い評価となった。
- ・次回参加したいかという質問に対しては、半数の団体が「参加したい」と回答した。

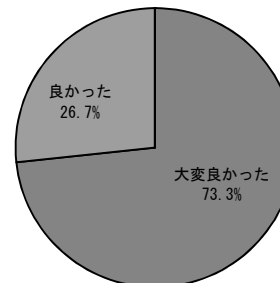
○「舞台芸術公募プログラム」に参加して良かったと思いますか。

選択肢	数	比率
大変良かった	8	53.3%
良かった	7	46.7%
どちらともいえない	0	0.0%
悪かった	0	0.0%
計	15	100.0%



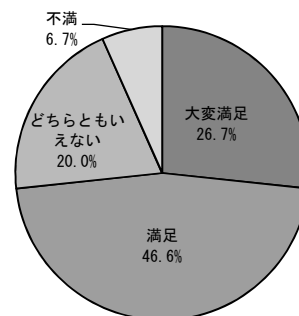
○来場者の反応は良かったと思いますか

選択肢	数	比率
大変良かった	11	73.3%
良かった	4	26.7%
どちらともいえない	0	0.0%
悪かった	0	0.0%
計	15	100.0%



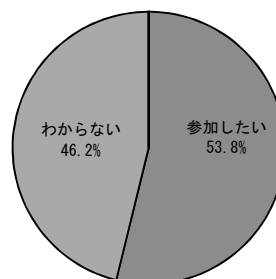
○実行委員会事務局のサポート体制はいかがでしたか

選択肢	数	比率
大変満足	4	26.7%
満足	7	46.6%
どちらともいえない	3	20.0%
不満	1	6.7%
計	15	100.0%



○次回以降のトリエンナーレにおいて「舞台芸術公募プログラム」が実施されるとしたら、参加したいと思いますか。

選択肢	数	比率
参加したい	7	53.8%
わからない	6	46.2%
参加しない	0	0.0%
計	13	100.0%



※募集要項で「多くの団体・個人に応募の機会を提供するため、「あいちトリエンナーレ2016」を起点に、公募プログラムに2回連続で出演した団体・個人は、その次の公募プログラムに応募できないものとする。」となっているため、連続出演となる2団体は除く。

○自由意見抜粋

- ・素晴らしい国際芸術祭の企画に参加することができ、大変うれしく思っている。
- ・色々な問題があったが、今後もぜひ継続してほしい。何があっても続けていくべき企画だと思う。
- ・トリエンナーレ全体から見た「舞台芸術公募プログラム」の比重をもう少し多くして欲しい。
- ・ホール使用日程、公演数を増やして欲しい。1公演につき連続2日間のホール提供をお願いしたい。
- ・舞台芸術公演の各々の企画の宣伝協力を全体チラシを制作するのみならず、様々な公演や、音楽関係者、広報誌、メディアに宣伝して集客協力をして欲しかった。アートを主体としたイベントであるので、アート関係者にも宣伝してもらい公演に来て欲しかった。全くイベントの横の繋がりがなかったのが残念であった。
- ・告知に関して公募プログラムは独立した単独公演であるため、個別のきめ細かい告知サポートをお願いできると嬉しい。
- ・実行委員会の経費負担分が少なくなってくると、実験的な舞台芸術をやりにくいと感じた。
- ・個人団体の参加は費用的にも非常に厳しい。大がかりなことや人員を確保することにより負担がかかるので、経費的に行政はもっと協力してもらえると嬉しい。
- ・愛知県芸術劇場小ホール・コンサートホール・名古屋市芸術創造センターが会場となっているが、他の劇場（舞台の形が特殊な劇場等）を増やしてもいいのではないか。

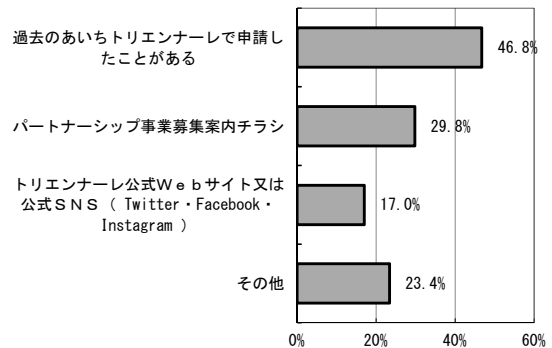
■パートナーシップ事業参加団体

実施時期	11月
調査対象	パートナーシップ事業参加団体
配布・回収方法	メール
回収数/対象数	47団体/178団体 (26.4%)

- ・満足度としては、「大変満足」と「満足」が合わせて 59.6%、「どちらともいえない」「不満」が 40.4%となっている。
- ・パートナーシップ事業へ参加して感じられた効果については、「自らの事業の知名度があがった」「ブランド力が高まった」「入場者数の増加につながった」「入場料収入の増加につながった」との回答が 85.1%あったものの（複数回答可）、「特になかった」との回答も 30%あった。
- ・次回トリエンナーレのパートナーシップ事業にも参加したいか聞いたところ、「是非参加したい」「可能であれば参加したい」が合わせて 80.8%であった。

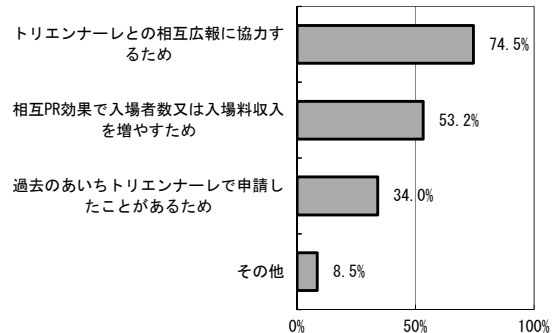
○「パートナーシップ事業」の募集のことを何で知りましたか？（複数選択可）

選択肢	数	比率
過去のあいちトリエンナーレで申請したことがある	22	46.8%
パートナーシップ事業募集案内チラシ	14	29.8%
トリエンナーレ公式Webサイト又は公式SNS（Twitter・Facebook・Instagram）	8	17.0%
その他	11	23.4%
計	55	—



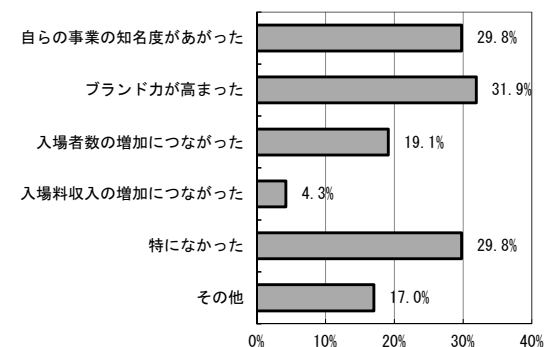
○パートナーシップ事業に参加された理由をお聞かせください（複数回答可）

選択肢	数	比率
トリエンナーレとの相互広報に協力するため	35	74.5%
相互PR効果で入場者数又は入場料収入を増やすため	25	53.2%
過去のあいちトリエンナーレで申請したことがあるため	16	34.0%
その他	4	8.5%
計	80	—



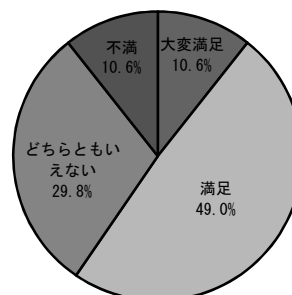
○パートナーシップ事業によって、どのような効果があったと感じられていますか（複数回答可）

選択肢	数	比率
自らの事業の知名度があがった	14	29.8%
ブランド力が高まった	15	31.9%
入場者数の増加につながった	9	19.1%
入場料収入の増加につながった	2	4.3%
特になかった	14	29.8%
その他	8	17.0%
計	62	—



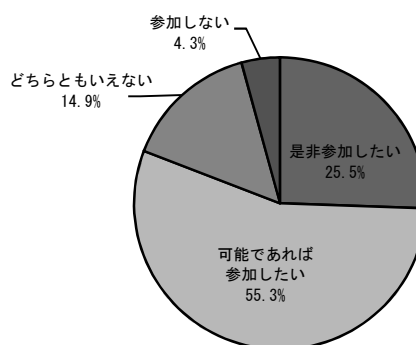
○パートナーシップ事業に対する満足度をお聞かせください

選択肢	数	比率
大変満足	5	10.6%
満足	23	49.0%
どちらともいえない	14	29.8%
不満	5	10.6%
計	47	100%



○次回のトリエンナーレが開催される場合、「パートナーシップ事業」が実施されるとしたら、参加したいと思いますか

選択肢	数	比率
是非参加したい	12	25.5%
可能であれば参加したい	26	55.3%
どちらともいえない	7	14.9%
参加しない	2	4.3%
計	47	100%



○自由意見抜粋

- ・美術に興味を持つ人を増やしたい、地元として業界全体を盛り上げたいと思い参加しました。若年層が夢を抱けるような機会にしていけたらと願っています。
- ・現代美術の良さが広く伝わるように継続的に事業を進めていただくとともに、理解を深めるための手段について多様な手法を今後も示してくださることをお願いいたします。
- ・私たちの事業とトリエンナーレとの相互関係は特にはないと思いますが、多くのパートナーシップ事業によって、愛知のアートの活気を印象付けることができていると思いました。

(3) 関係機関等アンケート

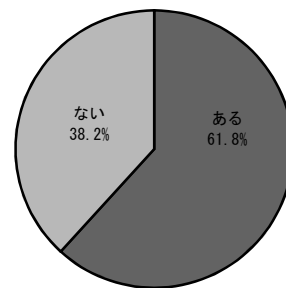
区分	調査対象数	回収数	回収割合	該当ページ
学校向け団体鑑賞プログラム参加校	42校	35名	-	124
学校等へのアーティスト派遣事業参加校	5校	21名	-	126

【学校向け団体鑑賞プログラム参加校】

- ・学校向け団体鑑賞プログラム参加校 54校の内 42校にアンケートを行い、35名から回答を得た。
- ・参加した児童・生徒が現代美術に興味を持つ機会になったと思うか、という質問については、「とても思う」「思う」が97.1%に達した。

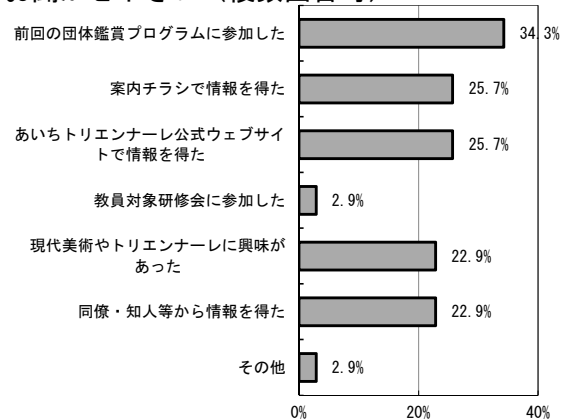
○これまでに、学校団体（部活動含む）で美術展を観覧したことはありますか。

選択肢	人	比率
ある	21	61.8%
ない	13	38.2%
計	34	100.0%



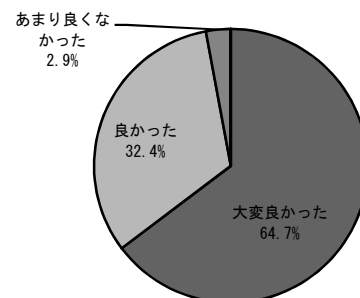
○今回のプログラムをお知りになったきっかけをお聞かせ下さい（複数回答可）

選択肢	数	比率
前回の団体鑑賞プログラムに参加した	12	34.3%
案内チラシで情報を得た	9	25.7%
あいちトリエンナーレ公式ウェブサイトで情報を得た	9	25.7%
教員対象研修会に参加した	1	2.9%
現代美術やトリエンナーレに興味があった	8	22.9%
同僚・知人等から情報を得た	8	22.9%
その他	1	2.9%
計	48	-



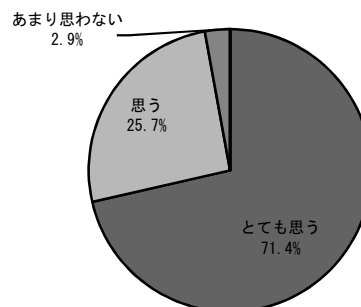
○学校団体鑑賞プログラムに参加していかがでしたか。

選択肢	数	比率
大変良かった	22	64.7%
良かった	11	32.4%
あまり良くなかった	1	2.9%
良くなかった	0	0.0%
計	34	100.0%



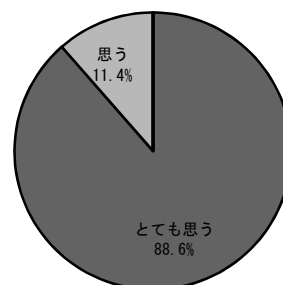
○団体鑑賞に参加したことで、貴校の児童・生徒が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思われますか。

選択肢	数	比率
とても思う	25	71.4%
思う	9	25.7%
あまり思わない	1	2.9%
思わない	0	0.0%
計	35	100.0%



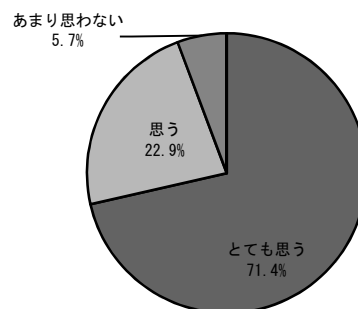
○今後も校外での美術展鑑賞を実施したいと思われますか。

選択肢	数	比率
とても思う	31	88.6%
思う	4	11.4%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
計	35	100.0%



○今後もあいちトリエンナーレの団体鑑賞プログラムに参加したいと思いますか。

選択肢	数	比率
とても思う	25	71.4%
思う	8	22.9%
あまり思わない	2	5.7%
思わない	0	0.0%
計	35	100.0%



○自由意見抜粋

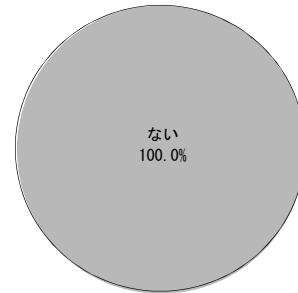
- ・感じたことを思うように口に出すことに生徒たちは慣れていませんが、だんだん言っていくうちに、仲間同士でも思いがけない一面が出てきたりと新鮮な気持ちで鑑賞できたようです。
- ・作品について、帰宅時、後も意見や会話がうまれ、皆で参加するメリットは、大変大きいと思います。今後の作品制作にも、刺激になったことでしょう。
- ・とてもわかりやすい説明でよかった。おとなしく、人とのコミュニケーションをとるのが苦手な子が何人もいたのだが、その子が考える時間をしっかりとってくださったり、答えるまで待ってくださったりしたので、いつも聞いたことがないその子の気持ちを知ることができて、うれしかった。
- ・生徒に対して優しく問いかけながらガイドツアーを進めてくださり、自由に意見を考えたり伝え合ったりすることができました。作品に興味を持って深く考えるきっかけとなり、とても良かったです。学校に帰った後、生徒たちは感想文を普段よりもしっかりと書いていました。興味を持って楽しみながら鑑賞できた証だと感じます。

【学校等へのアーティスト派遣事業参加校】

- ・アーティスト派遣事業参加校5校に教員向けアンケートを行い、21名の教員から回答を得た。
- ・実施したことについて、無回答を除くと全員が「大変良かった」「良かった」という回答であった。
- ・本事業を受けたことで、児童達が造形的な能力を伸ばしたり、今まで知らなかった世界に触れたり、社会性を育む機会になったか、という質問については、「強く思う」「思う」が100.0%であった。

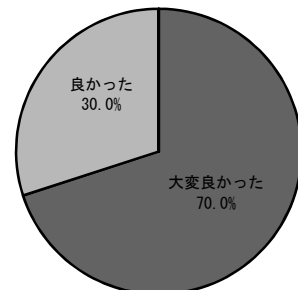
○これまでに、今回と同様の特別授業を実施したことはありますか。

選択肢	数	比率
ある	0	0%
ない	21	100%
計	21	100.0%



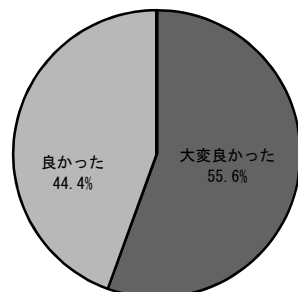
○特別授業を実施していかがでしたか。

選択肢	数	比率
大変良かった	14	70.0%
良かった	6	30.0%
あまり良くなかった	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
計	20	100.0%



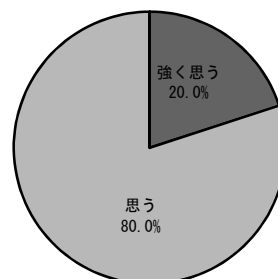
○ダンボール研究会授業を実施していかがでしたか。

選択肢	数	比率
大変良かった	10	55.6%
良かった	8	44.4%
あまり良くなかった	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
計	18	100.0%



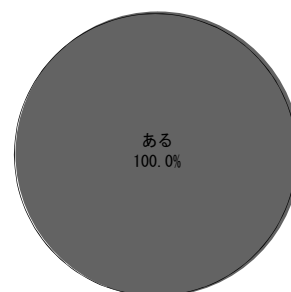
○本事業を受けたことで、児童達が造形的な能力を伸ばしたり、今まで知らなかった世界に触れたり、社会性を育む機会になったと思われませんか。

選択肢	数	比率
強く思う	4	20.0%
思う	16	80.0%
思わない	0	0.0%
分からない	0	0.0%
計	20	100.0%



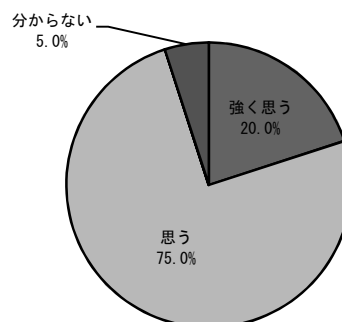
○今回の特別授業について、今後の指導や授業に活かしていきたいと思うことはありましたか。

選択肢	人数	比率
ある	18	100.0%
ない	0	0%
計	18	100.0%



○今後もアーティストと連携した授業を行いたいと思いませんか。

選択肢	数	比率
強く思う	4	20.0%
思う	15	75.0%
思わない	0	0%
分からない	1	5.0%
計	20	100.0%



○自由意見抜粋

- ・友達と協働したり工夫したりして一人ではできない活動な為、社会性を育むよい機会となった。
- ・立体のものをどう制作するか試行錯誤することで、造形の力が身についたと感じた。また、互いにアイデアを出し合ったり協力してつくり上げていく様子が大変好ましかった。「技」を開発できた子達の表情から、「やって良かった」という喜びが感じられた。
- ・ダンボールという身近な物を扱って作ることができる物が色々あることを知り、造形的な能力を伸ばすことができた。また、トリエンナーレという大きな美術展があることを知り、美術展や美術館といったものに対する興味・関心も広げることができた。
- ・子どもの発想の豊かさに驚くほど、夢中になる姿が見られ、新たな子どもの一面を知ることができました。
- ・みんなで想像したことを力と知恵を出し合って形にすることの楽しさを、学校中で（児童も教師も）味わえたことが素晴らしいです。
- ・スタッフの皆さんがとても温かく、たくさんのアドバイスをもらいながら楽しんで取り組むことができました。アーティストの人だけではない連携がとてもよかったですと感じました。

4 有識者意見

- ・文化芸術に関する専門的な知識・見識を有する者 10 名にヒアリングを行い、「あいちトリエンナーレ 2019」に対する評価や今後の展開に向けたアドバイスをいただいた。
- ・今回のトリエンナーレは、106 のうちの 1 つの企画に関する対応について、展示方法に関する意見や運営面に対する意見もあったが、トリエンナーレ全体については力強い作品であったり、国際的にみて標準的な内容であったりなど、有識者においても一定の評価を得た。
- ・また、今後のあいちトリエンナーレに対するアドバイスでは、愛知で行う展覧会としての「愛知らしさ」を出していったらどうか、などの意見があった。

■ヒアリング対象者

(敬称略)

氏名	職名等
浅野 健	(株)都市研究所スぺーシア取締役
逢坂 恵理子	横浜美術館館長、国立新美術館館長
蔵屋 美香	東京国立近代美術館企画課長
高北 幸矢	清須はるひ美術館館長
南條 史生	森美術館特別顧問
久野 敦子	セゾン文化財団常務理事
藤井 慎太郎	早稲田大学文学部教授
藤江 充	愛知教育大学名誉教授
森 司	公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京 Tokyo Art Research Lab 東京アートポイント計画ディレクター
山口 裕美	アートプロデューサー

■あいちトリエンナーレ 2019 に対する評価

○評価できる点

- ・最後の 1 週間とはいえ、展示中止、変更した作品を含め、全作品が復帰したこと。そこに至る過程は並大抵ではなく、多くの県職員とスタッフ、アーティストが心身ともに疲弊したと思うが、復帰できたことによってあいちトリエンナーレへの評価は大きく変わったと思う。
- ・日本にはいまだ「美術は美しいもの」という風土が根強い。しかし世界の潮流として、現代美術は、社会的、政治的な問題を積極的に扱い、議論のプラットフォームを提供するものとなっている。その意味で今回のトリエンナーレは、美術関係者からすると国際的に見て標準的な内容だった。
- ・今回の騒動で、現代美術とは美ではなくアクチュアルな問題を扱うものだ、という認識が一定程度広がったことはよかったと思う。また“行政は資金は提供するが内容に口を出してはいけない”という原則を、今回の議論で初めて知った人も多いのではないかと。この点をよいレガシーとして次に引き継いでほしい。
- ・四間道・円頓寺会場は地域との連携の側面からも商店街の可能性が広がり大変よかった。地元の評価も高い。
- ・街にアートとしての面白さがあった。まちなか展開は、トリエンナーレの醍醐味。これからも、美術館での開催にこだわらず、外に出ていくべきである。
- ・話題作が多く、公演終了後も作品およびあいちトリエンナーレについて語っている。色々な理由はあるが、あいちトリエンナーレの歴史を語るときに外すことのできない回となったのではないのでしょうか。
- ・エクステンションも、同じような舞台だけでなく、美術の作家が出てくるような形になっているのは良かった。
- ・トリエンナーレ全体との連携がとれており、統一テーマに対するそれぞれの分野からのアプローチが効果をあげていた。

- ・問題を解決する以上に、容易には答えが出ない問い、それによって議論を提起する、公共圏の一部となることが、現代芸術を現代芸術たらしめるものである。今回のトリエンナーレには美術、舞台芸術を問わず、力強い作品が多かった。「炎上」「脅迫」「(実質的)検閲」はもちろん論外であるが、表現の自由をめぐる議論を国民的・国際的に喚起し、最終的に(完全なかたちではないにせよ)自由を守れたことは必ずしも否定的に捉えるべきものではなく、むしろ積極的に評価されるべきである。
- ・ラーニングはオープンスペースで広く参加できる場所で開催されたことがよかった。
- ・県内複数場所での開催、また独自性があったことがよかった。特に四間道は地域振興に一役買った。
- ・タブロイド紙のガイドが持ち運びやすく、まちなかで活用できてよかった。
- ・ジャンルの違うキュレーターが横断して協働して作ったやり方は評価できる。
- ・パフォーマンスアーツには良い作品が多かった。
- ・パフォーマンスアーツなど、手法としてコラボがおもしろかった。
- ・ラーニングは試みとしては面白いと思った。4会場をつなぐ、それぞれの目的がはっきりしていた。
- ・今までの芸術監督とは違う視点を取り入れたことは非常に挑戦的で期待が持てるものだったと思います。さらに男女数を同数にするとか、若いアーティストの積極的な登用もよかったと思います。
- ・エデュケーションプログラム(ラーニング)は今後も継続していかれると、多くの子供たちとその親の方々を、大いなるあいちトリエンナーレファンに育てていける可能性もあると思います。

○改善・修正すべき点

- ・四間道のなかでは、その土地や建物の歴史背景を活かしきれていないと感じる作品もありもったいなさを感じた。歴史を捉えたいうで作品づくりをしてほしかった。
- ・モバイル・トリエンナーレについては、文化会館など施設のなかだけでなく、様々なコラボ企画などで街中へ展開していけば、さらに回遊性が生まれてよいのではないか。
- ・実行委員会内部の統制や調整がないように見受けられ、実行委員会組織のあり方が課題として露出したように思う。
- ・海外ではアートの催事が政治問題化する事例が増えている。今回の問題点をきちんと検証、整理することが、この業界にとって次からのリスクに備えるための知恵となるはず。
- ・「表現の不自由展・その後」が必要以上に話題になり、他が見えなくなった。
- ・ジャーナリズムにおける個人レベルの「言論の自由」の戦いとは違い、大きなイベントである展覧会は、内容が問題になった場合、関係者全部を巻き込んで迷惑をかける。その点を、普段からファンドレイジングなどしているキュレーターは理解している。
- ・中止などで作品が見られない所にはガイドボランティアをおいた方がよかったのではないかと。説明配慮があればまた見方が変わったかも。
- ・「表現の不自由展・その後」再開後も、抽選制のために見たい観客が見られなかったことには公共性の観点から問題が残る。
- ・小さな「失敗」は多い、だが、表現の自由についての踏み込んだ国民的議論が起こったことは大きな功績であり、今回のトリエンナーレは全体としては決して失敗ではなく、ひとつの成功であった。
- ・映像作品について、放映時間の表示や階段式の座席などの配慮があった方がよい。また、子どもでも理解できるような工夫がほしい。
- ・モバイル・トリエンナーレをもっと人の多いショッピングモールなどで開催してはどうか。
- ・街中でやる流行をなぞった感が強かった。ジャーナリズム的な芸文と街中の温度差があり、二つがバラバラ。以前の長者町のインパクトが強かった。
- ・都市型のトリエンナーレの一つの顔を作ったのは長者町。今回の四間道・円頓寺は、芸文や名古屋市美とは一つの展覧会という印象を受けなかった。内容として違うものになっていた印象。
- ・この展示により、問題や表現の自由についての複雑なねじれを生み、本当の問題と「表現の自由」という大きな枠での意味がまったく間違った形で世界へ発信されてしまったことは、あいちトリエンナーレだけの問題ではなく、さまざまな日本の現代アートへの誤解を生む結果となってしまったのは、非常に残念です。さらに今後も大きな影を落とすことになってゆくことを心配しています。
- ・映像作品は全部見ないと完結しないが全作品にその時間を取れない。多くなりすぎないように。見る人のための設計が必要。

○今後の展開に向けたアドバイス

- ・アートには様々な可能性が秘められている。スポーツにはオリンピックとパラリンピックがあるが、それを融合していけるのがアート。今後は例えば、ジェンダーやアール・ブリュットをテーマに展開していくことも考えてはどうか。
- ・愛知らしさは少なくとも1つあるとよい。瀬戸内等ではない部分をどのように出していくか。例えば“技”の時代として、地元の職人とアーティストのコラボなど考えるのもよいのでは。
- ・トリエンナーレの本来の趣旨「何のためにやっているか」の再確認が必要。地域振興や観光、インバウンドが第一義ではなく、芸術振興をその目的としないと、なにか課題が生じたときに足元がすくわれる。国内外でこうした芸術祭が多発している状況では、格と魅力的なコンセプトを打ち出せなければ、人を惹きつけることができず、継続も難しい。
- ・日本では現代美術の振興を考慮し、尖ったものと一般に受け入れられやすいものとのバランスをどのようにとるか、考慮が必要。子供から大人まで、現代美術に触れる貴重な機会。社会や人間の複雑さや多様性を伝えるものとして現代美術を伝えるトリエンナーレは有効。パフォーマンスアートも含んでいることはあいちトリエンナーレの大きな特徴。
- ・当初注目された”男女比”は重要な問題提起。次回の芸術監督として女性や日本国籍者以外の起用も検討してはどうか。あいちに限らず、日本においてのみ、ディレクターに占める日本人中高年男性の割合が異常に高いことは問題ではないか。
- ・今後は、良い意味でそつなく（問題なく）開催することが大事。やめることはよくない。
- ・会長は民間から選出しては？（アートのスピリットもわかり、政治的な立場も理解できる人）。次の監督はフレッシュなスタートが切りにくく、とてもやりにくいだろう。外国人監督起用も可能性としてはありうる。
- ・専門家の人たちも一般の人たちに認めてもらえるものを作れるという自負を持って展覧会を作るべき。
- ・ラーニングも良かった。同様のフェスティバルで参考にするとところが続くだろう。場内で観客が作品鑑賞をしながらディスカッションしている場面に出会った。ラーニングの成果が出ていると思う。
- ・チケット価格はすでに低廉な水準に設定されているが、さらに、たとえば無料開放の曜日や時間帯を設ける取り組みもありえよう。
- ・チャレンジでなければ現代芸術でない。しかも、たとえばマイノリティや社会的弱者の社会包摂を目的とするような予定調和的な（誰も反対しない種類の）挑戦よりもそうでない挑戦の方が評価されるのが現代芸術である。
- ・多数の来場を前提として「無難」な方向に流れるのは必ずしも肯定できない。異なるテーマによる各回のトリエンナーレを、全体を通して見たときにバランスがとれていれば充分。
- ・モバイル・トリエンナーレについて、今回は山もあったが小都市が中心だったので、愛知県は海、山もあるため、海、山、街、それぞれバランスよく開催できるとよい。
- ・愛知らしさを出すために、“ものづくり”の観点からロボット工学、自動車工学などと組み合わせる（企業の研究所とアーティスト）、またはサイエンスとアートの融合など考えてもよいのでは。
- ・今はピンチだと思うが、大きく変えるチャンスでもあるのではないか。大きく変えていい。当初目的は達成できたと言えるタイミングではないか。ボランティアなど、味方になってくれた人たちと中間年の事業を一緒にやって行くなどが大事ではないか。
- ・今後の愛知の展開として、豊田市で行われた美術館以外の場所での展示などを見ていると、例えば喜楽亭のように歴史的で、時間の層を強く感じるような建物があるのではないかと推察します。それらの新しい展示場所を展開することは、言い古されていることではありますが、長く住んでいる方にとっても新しい場所の発見にもつながるように思いました。
- ・現代アートにバランスはありません。ただし、地域芸術祭という側面があるので、地元のアーティストたちをどう活用するのか、という大きなテーマはあると思います。

○その他の御意見

- ・アートはまだまだ高尚なものというイメージがあるが、もっと地元に入って日常的につながっていくと3年に一度のトリエンナーレにも活かされていくし、地元も変わっていくのではないかと。
- ・愛知はデザイン都市としてユネスコで指定されているので、デザインやグラフィックを意識するのも良いのでは。
- ・今後、経済的にも右肩上がりにはならない日本社会でなぜトリエンナーレをやるのか、を常に反芻しながら継続できる具体的な方策を検討すべき。海外に比べると日本では継続できない事例が多いのは、個人の情熱に頼り、将来を見据えた組織運営と専門人材確保にきちんと取り組まないため。

- ・ 3.11以降、アートで社会を変えることができる、という考えに基づく活動が主流となった。しかし今回のことでアートの“弱さ”が露呈し、アートは万能ではないことをみなが実感した。今後は、自由にものと言える空間としてアートという場を社会から一定程度守りながら、眼前にある「分断」に対して何ができるかを考えることが必要になるだろう。アートの世界にとって大きな変化のきっかけとなるトリエンナーレだったと思う。
- ・ トリエンナーレの意義はジャーナリズム性にあると思う。だが、それが全体で共有できていないため、問題になることがあるので、取扱いには注意が必要である。
- ・ まちなか会場での作品の展示場所は、展示するためにできた場所ではないので、美術館の展示室のような壁や照明がない。なぜそこにこの作品を展示（制作）するのか、という展開力が作家に求められるので、難しいところではある。
- ・ ジェンダー平等について会期前は好意的に受け止めた。このような前向きな仕掛けをつくらなければ男女参画のムーブメントにならないと思う。
- ・ 出品作家が多くを受賞を受け、閉幕後これだけ賞を取った芸術祭もないと思う。
- ・ 今回の芸術監督は芸術分野の人ではないと言われることもあるようだが、あいちトリエンナーレが他の数多ある芸術祭に比べて抜きん出ているのは、他の分野の人が予定調和を超えた新しいことをするところ。勇気があり、素晴らしいことだと思っていた。
- ・ ジャンルを横断してキュレーターが協働していたこともよく感じた。今まさにアートが向き合わなければならない社会や芸術の問題に、全分野が協力して向き合って作り上げたフェスティバルという印象がある。
- ・ 今日の芸術は様々なレベルの無意識を意識化させることによって成り立っている。それは社会的／政治的／歴史的な無意識（私たちが気づいていない、あるいは気づきたくないがゆえに抑圧／不可視化されている領域や対象）であり、芸術的な無意識（これまでの芸術家が気づかなかったような視点、手法、対象）である。そうした盲点を意識させる作品はしばしば観客の虚を突くがゆえに痛みや不快感を伴いもする。だが、それを「来場者／観客への配慮」のもとに無毒化してしまうことは芸術の力を失わせることであり、高い評価には決してつながらない。
- ・ 今回はアートとは何かを考えるきっかけになった。
- ・ アーティストと接するWSやアーティストと一緒に作品をみるなどがたくさんあると、参加者も楽しめるし、トリエンナーレとしての意義があると思う。
- ・ 子供の発想を生かした取り組みができると良い。子供ボランティアガイドなどは、子供ならではの視点を発信できるので、送り手と受け手の双方に効果があると思う。
- ・ トリエンナーレで、間が空くと優秀なスタッフがどこかへ行ってしまう。スタッフの育成という課題も含めて、地元の人材が根付くようにしなければならないだろう。雇用の確保が必要。ビエンナーレにすることでなら可能となるのではないか。
- ・ 体制をどうするか一度立ち止まって考えるべき。ヨコハマや瀬戸内などに比べて、あいトリの意義とはどのようなものであるかの整理が必要な時期ではないか。

5 経済波及効果

- ・トリエンナーレの開催により、愛知県内では約 87.1 億円の経済波及効果があったと考えられる。

■経済波及効果の推計結果

経済波及効果 ①+②+③	直接効果 ①	第1次波及効果 ②	第2次波及効果 ③
87.1 億円	51.0 億円	20.5 億円	15.6 億円

(推計：名古屋学院大学社会連携センター)

- ① 直接効果：あいちトリエンナーレ実行委員会の 2017 年度から 2019 年度までの愛知県内の総支出と来場者消費支出（飲食・買い物、交通費、宿泊費）との合計による最終需要増加額
- ② 第1次波及効果：直接効果が、その他の産業にもたらす生産誘発額
- ③ 第2次波及効果：先の需要の発生により雇用者の所得が生まれるが、その雇用者が消費したことによる生産誘発額

【算出の前提条件等】

- ・産業連関分析の方法により、「平成 23 年（2011 年）愛知県産業連関表」を用いて算出した。具体的な前提条件等は、以下のとおりである。

○主催者総支出額

- ・あいちトリエンナーレ実行委員会の 2017 年度から 2019 年度までの総支出から、愛知県外への支出約 1 億円を差し引いた額とした。

区分	2017 年度	2018 年度	2019 年度(見込)	計
あいちトリエンナーレ実行委員会総支出(県内)	0.4 億円	1.2 億円	9.7 億円	11.3 億円

○来場者数

- ・総来場者数は 675,939 人であるが、この中には複数会場を訪れた来場者がいることから、会期中に行った来場者アンケート調査結果を用いて、平均来訪会場数等を算出し、想定実来場者数を 279,133 人とした。うち宿泊者については、同アンケート調査結果を用いて、約 21.4% (59,730 人) と推計した。

総来場者数(A)	平均来訪会場数(B)	平均来訪日数(C)	想定実来場者数 (A÷B×C)	うち宿泊者
675,939 人	2.47 か所	1.02 日	279,133 人	59,730 人

○来場者消費額

- ・来場者アンケート等からわかる一人当たりの消費額に、想定実来場者数を乗じることで算出した。

区分	一人当たり消費額 (全体平均)	総消費額	(参考)	(参考)
			うち四間道・円頓寺	うち豊田地区
飲食・買い物	5,466 円	15.3 億円	2.2 億円	1.8 億円
交通費	5,597 円	15.6 億円	2.1 億円	3.2 億円
宿泊費	14,753 円	8.8 億円	1.2 億円	1.6 億円
計	—	39.7 億円	5.5 億円	6.6 億円

6 パブリシティ効果

- ・トリエンナーレのメディア報道におけるパブリシティ効果（広告費換算額）は、約 200 億円と考えられる。

■パブリシティ効果の推計結果

種別	掲載・放映件数	合計金額	備考（対象期間）
新聞（一般紙、ブロック紙、地方紙等）	3,005 件	6,953 百万円	2017 年 7 月～2019 年 10 月
雑誌（美術誌、一般紙等）	148 件	75 百万円	2017 年 8 月～2019 年 10 月
テレビ	647 件	5,281 百万円	2018 年 10 月～2019 年 10 月
ラジオ	34 件	124 百万円	2018 年 10 月～2019 年 9 月
Web	10,299 件	7,494 百万円	2017 年 7 月～2019 年 10 月
計	14,133 件	19,927 百万円	

（推計：株式会社 NHK プラネット 中部支社）

※各メディアにおいて掲載・放映された同じ分量を広告出稿した場合の料金を 1 件ごとに算出し、その合計をパブリシティ効果の金額とした。

新聞・雑誌のパブリシティ効果＝原単位価格×記事面積
 テレビ・ラジオのパブリシティ効果＝原単位価格×放送時間
 Web のパブリシティ効果＝簡易換算方式（各 Web サイトの広告金額の平均値を基準として加算）

※掲載・放映の確認ができたもののみを対象として算出しているため、実際には 200 億円以上の効果があったと考えられる。

Ⅶ 実行委員会の状況等

1 実行委員会の収支状況

■総括（2017年度～2019年度）

○収入の部

（単位：千円）

区分	2017年度 （決算）	2018年度 （決算）	2019年度 （予算）※	計
事業収入	14	0	196,000	196,014
負担金収入	39,939	126,527	823,246	989,712
愛知県負担金	29,954	95,645	652,222	777,821
名古屋市負担金	9,985	30,882	171,024	211,891
広告・協賛金等収入	—	—	69,000	69,000
諸収入（利息等）	37	1	1	39
計	39,990	126,528	1,088,247	1,254,765

○支出の部

（単位：千円）

区分	2017年度 （決算）	2018年度 （決算）	2019年度 （予算）※	計
事業費	36,984	123,307	1,069,765	1,230,056
管理費	3,006	3,221	4,256	10,483
予備費	—	—	14,226	14,226
計	39,990	126,528	1,088,247	1,254,765

※2019年度は、2020年3月現在で決算額が未確定のため予算額を記載

■2017年度内訳（決算）

○収入の部

区分		金額（千円）
事業収入	カタログ等販売収入	14
公的負担金収入		39,939
	愛知県負担金	29,954
	名古屋市負担金	9,985
雑収入	受取利息収入等	37
合計		39,990

○支出の部

区分		金額（千円）
事業費		36,984
	事業企画活動費	16,858
	芸術監督・キュレーター等活動費	14,617
	展示等準備費	916
	その他事業企画活動費	1,325
	計画策定費	11,616
	計画策定調査費	2,818
	芸術監督選考費	339
	その他計画策定事務費	8,459
	広報関係費	8,510
	広報業務委託費	6,400
	その他広報関係費	2,110
管理費	管理費	3,006
	運営会議開催費	1,370
	その他管理費	1,636
合計		39,990

■2018 年度内訳（決算）

○収入の部

区分		金額（千円）
事業収入	カタログ等販売収入	0
公的負担金収入		126,527
	愛知県負担金	95,645
	名古屋市負担金	30,882
雑収入	受取利息収入等	1
合計		126,528

○支出の部

区分		金額（千円）
事業費		123,307
	現代美術	57,305
	芸術監督・キュレーター等活動費	38,842
	展示制作等準備費	18,463
	舞台芸術	10,128
	パフォーミングアーツ公演準備費	7,831
	音楽プログラム公演開催費	2,297
	普及・教育	6,913
	エドゥケーター等活動費	6,186
	普及教育資料等作成費	727
	連携事業	12,654
	舞台芸術公募プログラム開催準備費	57
	大学連携・まちなか展開等準備費	9,797
	ボランティア関連経費	2,800
	広報・PR	36,307
	広報業務委託費	27,704
	広報イベント開催費	931
	その他広報物等作成費	7,672
管理費	管理費	3,221
	運営会議開催費	494
	その他管理費	2,727
合計		126,528

■2019 年度内訳（予算）

○収入の部

区分		金額（千円）
事業収入		196,000
	国際現代美術展入場券収入	125,151
	カタログ等販売収入	636
	舞台芸術入場券収入	70,213
公的負担金収入		823,246
	愛知県負担金	652,222
	名古屋市負担金	171,024
広告・協賛金等収入	企業協賛、国及び各種文化財団等の助成金等	69,000
雑収入	受取利息収入	1
合計		1,088,247

○支出の部

区分		金額（千円）
事業費		1,069,765
現代美術		657,186
	芸術監督・キュレーター等活動費	60,774
	展示制作費	395,914
	会場関係費	150,617
	モバイル・トリエンナーレ関係費	3,091
	美術展その他開催費	46,790
舞台芸術		220,297
	パフォーミングアーツ開催費	113,928
	音楽プログラム公演開催費	106,369
普及・教育		26,649
	エドゥケーター等活動費	9,514
	創作・鑑賞プログラム開催費	6,827
	普及教育資料等作成費	10,308
連携事業		76,528
	舞台公募プログラム開催費	9,212
	大学連携関係費	30,066
	その他まちなか展開関連経費	37,250
ボランティア		21,006
広報・PR		68,099
	広報業務委託費	37,225
	広報イベント開催費	3,073
	その他広報関係費	27,801
管理費	管理費	4,256
	運営会議開催費	529
	その他管理費	3,727
予備費	予備費	14,226
合計		1,088,247

2 実行委員会委員等

2020年2月末日現在

区分	職名	氏名及び就任年月日			
		2017年度		2018年度	2019年度
		2017.4.1			
会長	愛知県知事	大村秀章	→	→	→
会長 代行	名古屋市長	河村たかし	→	→	→
副会長	名古屋商工会議所会頭	山本亜土	→	→	→
	一般社団法人中部経済連合会会長	豊田鐵郎	→	→	→
委員	名古屋商工会議所専務理事	小川秀樹	→	→	H28.11.1 内田吉彦
	一般社団法人中部経済連合会専務理事	小川正樹	→	→	→
	中日新聞社代表取締役社長	小出宣昭	2017.7.6 大島宇一郎	→	→
	日本放送協会名古屋放送局局長	中野谷公一	→	2018.7.6 島田敏男	→
	独立行政法人国際交流基金理事	柄 博子	→	→	→
	愛知県立芸術大学学長	松村公嗣	→	2018.4.1 白木 彰	2019.9.1 戸山俊樹
	愛知芸術文化センター総長	神田真秋	→	→	→
	愛知県県民生活部長	鳥居保博	→	→	2019.4.1 齋木博行
	名古屋市観光文化交流局長	渡邊正則	→	→	2019.4.1 松雄俊憲
	公益財団法人愛知県文化振興事業団理事 理事長	野村道朗	→	2018.4.1 菅沼綾子	→
	公益財団法人名古屋市文化振興事業団 理事長	平野幸久	→	→	2019.7.30 杉山 勝
	多摩美術大学学長	建島 哲	→	→	→
	東北大学大学院教授	五十嵐太郎	→	→	→
	多摩美術大学教授	港 千尋	→	→	→
	京都市立芸術大学教授	加須屋明子	→	→	→
	国立国際美術館副館長	中井康之	→	→	→
	名古屋市立大学教授	水野みか子	→	→	→
	山口大学教授	藤川 哲	→	→	→
	南山大学教授	川北眞紀子	→	→	→
	紫牟田伸子事務所	紫牟田伸子	→	→	→
監事	(公認会計士・税理士)	柘植里恵	→	→	→
	(文化行政経験者)	大野明彦	→	→	→
顧問	愛知県議会議員	鈴木孝昌	2017.6.21 中野治美	2018.7.9 松川浩明	2019.6.21 神野博史
	名古屋市会議長	加藤一登	2017.7.4 渡辺義郎	2018.7.11 坂野公壽	2019.6.25 丹羽ひろし
	愛知県市長会会長	鈴木淳雄	2017.6.28 佐原光一	2018.7.5 中野正康	2019.7.18 禰亘田政信
	愛知県町村会会長	久野時男	2017.6.28 大須賀一誠	2018.7.6 竹内啓二	2019.7.19 鈴木雅博

区分	職名	氏名及び就任年月日			
		2017年度		2018年度	2019年度
		2017.4.1			
参与	愛知県議会県民環境委員会委員長	坂田憲治 (総務県民)	2017.6.21 須崎 幹 (総務県民)	2018.6.28 伊藤辰夫 (総務県民)	2019.6.10 安井伸治
	名古屋市会経済水道委員会委員長	大村光子	2017.7.3 佐藤 敦	2018.7.6 鹿島としあき	2019.6.25 鈴木孝之
	中京テレビ放送代表取締役社長	小松伸生	→	→	2019.7.10 丸山公夫
	CBCテレビ代表取締役社長	林 尚樹	→	→	→
	テレビ愛知代表取締役社長	高橋美夫	→	2018.9.4 宮本明彦	→
	東海テレビ放送代表取締役社長	内田 優	→	→	2019.7.19 小島浩資
	名古屋テレビ放送代表取締役社長	横井正彦	→	→	2019.7.23 狩野隆也
	朝日新聞社名古屋本社代表	坂本弘子	→	2018.9.3 長 典俊	2019.7.18 竹内圭介
	日本経済新聞社常務執行役員名古屋支社代表	山崎 宏	→	→	2019.6.21 新井 裕
	毎日新聞社中部本社常務執行役員中部代表	小泉敬太	→	2018.9.3 若菜英晴	→
	読売新聞東京本社執行役員中部支社長	足達 新	→	2018.9.3 依田裕彦	→
	名古屋音楽大学学長	佐藤恵子	→	→	→
	名古屋芸術大学学長	竹本義明	→	→	→
	名古屋造形大学学長	小林亮介	→	2018.4.24 山本理顕	→
	愛知県小中学校長会会長	稲垣 寿	→	2018.4.30 松村光洋	2018.4.22 中谷真人
	愛知県公立高等学校長会会長	笹尾幸夫	→	2018.4.12 竹下裕隆	2019.4.19 荻原哲哉
	名古屋市立小中学校長会会長	川北貴之	→	→	2019.4.18 坂野幸彦
	愛知県私学協会会長	石田正城	→	→	→
	愛知芸術文化協会顧問	藤井知昭	→	→	→
	愛知県美術館館長	南 雄介	→	→	→
愛知県芸術劇場館長	丹羽康雄	→	→	→	
名古屋市美術館館長	横井政和	2017.7.6 早瀬弘親	→	→	
アドバイザー	独立行政法人国際交流基金文化事業部長	伊東正伸	→	→	→
幹事	愛知県県民文化局文化部長	宮澤祐子 (文化芸術課長)	→	2018.4.1 山口智絵子 (文化芸術課長)	2019.4.1 八神秀之
	名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部長	山内正照	→	→	2019.4.1 月東靖詞
	名古屋商工会議所総務企画部長	田中 豊 (企画振興部長)	2017.6.19 馬場宏之 (総務部長)	2018.4.1 (総務企画部長)	→
	一般社団法人中部経済連合会企画部長	森 浩英	→	→	2019.7.16 岩附一人
	愛知芸術文化センター管理部長	中野充康	→	2018.4.1 浅野宏明	2019.4.1 加藤清史
	公益財団法人愛知県文化振興事業団常務理事	知崎剛久	→	→	2019.6.27 大林由孝

※職名は2019年4月現在のもの

3 実行委員会事務局組織

区分	2017年度	2018年度	2019年度
事務局長	愛知芸術文化センター長	愛知芸術文化センター長	愛知芸術文化センター長
愛知県民文化局文化芸術課トリエンナーレ推進室※1 (専任組織)	トリエンナーレ推進室長 (事務局次長)	トリエンナーレ推進室長 (事務局次長)	トリエンナーレ推進室長 (事務局次長)
	主幹(トリエンナーレ)	主幹(トリエンナーレ)	主幹(トリエンナーレ)
	調整グループ 5名 【愛知県】 ・職員 3名 ・一般職非常勤職員 2名	調整グループ 10名 【愛知県】 ・職員 5名 ・臨時的任用職員 1名(※2) ・臨時的任用職員 2名(※3) ・一般職非常勤職員 2名	調整グループ 13名 【愛知県】 ・職員 6名 ・一般職非常勤職員 2名 ・臨時的任用職員 4名(※4) ・市町村等職員実務研修生 1名(津島市)
	事業グループ 4名 【愛知県】 ・職員 4名	事業第一グループ 12名 【愛知県】 ・職員 5名 ・臨時的任用職員 7名(※3)	事業第一グループ 18名 【愛知県】 ・職員 7名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 5名(※4) ・臨時的任用職員 2名(※5) ・臨時的任用職員 2名(※6) ・市町村等職員実務研修生 3名(一宮市、西尾市、大府市)
		事業第二グループ 8名 【愛知県】 ・職員 5名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 2名(※3)	事業第二グループ 9名 【愛知県】 ・職員 5名 ・一般職非常勤職員 1名 ・臨時的任用職員 2名(※4) 【名古屋市】 ・職員 1名
	計 11名	計 32名	計 41名
○愛知芸術文化センター(管理部、愛知県美術館) ○公益財団法人愛知県文化振興事業団 ○名古屋市美術館			

(※1) 2017年4月から2018年3月まで県民生活部、2018年4月から2019年3月まで県民文化部

(※2) 2018年4月から2019年3月まで

(※3) 2019年2月から3月まで

(※4) 2019年4月から11月または2020年3月まで

(※5) 2019年4月から4月または5月まで

(※6) 2019年6月から11月まで

■あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

(愛知県民文化局文化芸術課 トリエンナーレ推進室内)

〒461-8525

愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2 愛知芸術文化センター内

TEL: 052-971-6111

FAX: 052-971-6115

E-mail: triennale@pref.aichi.lg.jp

(資料) あいちトリエンナーレの開催経緯

■平成 17 年度 (2005 年度)

平成 18 年 3 月	・「新しい政策の指針」公表
-------------	---------------

我が国屈指の複合的文化芸術施設である愛知芸術文化センターの機能や蓄積を十分に活用するとの観点や、経済面のみならず、文化芸術面においても世界に向けた創造力、発信力を一層強化しながら、心の豊かさや潤いのある生活が実感できる魅力的な地域づくりに繋げていくとの視点から、平成 18 年 3 月に策定した「新しい政策の指針」において、「愛知芸術文化センターを拠点として、国際的に注目される文化芸術イベントの開催をめざす」こととした。

■平成 18 年度 (2006 年度)

平成 18 年 12 月 25 日	・「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」報告書 ～文化芸術あいち百年の軸をつくる～
-------------------	--

平成 18 年度に開催した「愛知の文化芸術振興に関する有識者懇談会」において、「文化芸術施策の総合戦略としての愛知ビエンナーレを開催すべき」との提言を受ける。

■平成 19 年度 (2007 年度)

平成 19 年 12 月	・「文化芸術創造あいちづくり推進方針」策定
--------------	-----------------------

国際芸術祭の開催を「文化芸術政策全体を推進するための先導的役割を担う取組」として位置づける。

平成 20 年 3 月 21 日	・「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」公表
------------------	-----------------------

初回となる 2010 年は、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、現代美術を中心に、舞台芸術も含めた芸術祭を開催していくこと、この地域から世界に向けた、新しい芸術の創造・発信に加え、芸術文化の普及・教育、祝祭的な賑わいを図ることなどを盛り込んだ基本構想を策定・公表。

○「あいち国際芸術祭(仮称)基本構想」の概要

開催意義	「国際文化交流の豊富な基盤やノウハウ」、「世界にも誇り得る複合的文化芸術施設とその活動の蓄積」、「様々な文化芸術資源」などを十分に活かしながら、経済面だけではなく文化芸術面でも日本、世界に貢献。
開催目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。 ・ 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。 ・ 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。
事業構想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創造・発信：初回(2010年)は美術部門の現代美術を基軸とするが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、音楽、舞踊、オペラなども併せて展開。 ・ 普及・教育：美術、舞台芸術などの部門で幅広い層を対象にした様々な普及・教育プログラムを展開。 ・ 祝祭的展開：美術、舞台芸術を始め、伝統芸能、生活文化も含む様々な部門で県民に親しまれる事業を展開。

■平成 20 年度 (2008 年度)

平成 20 年 6 月 28 日	【設立総会】 ・実行委員会の設立 【第 1 回運営会議】 ・平成 20 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	--

平成 20 年 7 月 22 日	・芸術監督選任 (平成 20 年 8 月 1 日芸術監督就任)
------------------	---------------------------------

○芸術監督
建昌 哲 (国立国際美術館館長)

平成 20 年 10 月 14 日	【第 2 回運営会議】 ・正式名称、テーマ、基本方針決定・公表
-------------------	---

○正式名称、テーマ・基本方針の決定・公表

- ・正式名称
あいちトリエンナーレ 2010 / Aichi Triennale 2010
- ・テーマ
都市の祝祭 Arts and Cities
- ・基本方針 (要約)
あいちトリエンナーレ 2010 を愛知・名古屋の文化のシンボルとして多くの市民に親しまれ、海外への芸術の発信基地としても注目されるユニークな特色をもったものにするために、次の三つの基本方針を掲げた。
- 方針① 美術を中心とした現代芸術の先端的な動向を、国際的な視野によって紹介する。
- 方針② 美術館や劇場のみならずまちなかへも進出し、都市の祝祭としての高揚感を演出する。
- 方針③ 現代美術を基軸にしつつ、オペラやダンス、音楽などのパフォーミング・アートをも積極的に取り込む。

平成 21 年 3 月 25 日	【第 3 回運営会議】 ・企画概要、ロゴマーク公表 ・平成 21 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

○ロゴマークの公表
《ロゴマークデザインのコンセプト》

- ・あいちトリエンナーレの頭文字、A と T を組合せ、芸術の先端的な動向を示す矢印として形作られている。
- ・その矢印は、従来のロゴマークのような固定的なものではなく、あらゆる方向を指し示すことで、芸術表現の多様性、国内外への発信、祝祭的ひろがりを表現できる。
- ・また、街中にもひろがる会場では、視覚的な案内表示としても機能するように考えられている。



デザイナー：山本 誠 (愛知県生まれ、東京都在住。愛知県立芸術大学卒業)

■平成 21 年度 (2009 年度)

平成 21 年 8 月 21 日	【第 4 回運営会議】 ・企画概要公表
------------------	-------------------------------

平成 22 年 3 月 25 日	【第 5 回運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 22 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

■平成 22 年度 (2010 年度)

平成 22 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2010 開催 (8 月 21 日～10 月 31 日)
------------------	---

平成 23 年 3 月 25 日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ 2010 開催結果報告 ・平成 23 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	--

○開催概要

- ・正式名称 あいちトリエンナーレ 2010/Aichi Triennale 2010
- ・テーマ 都市の祝祭 Arts and Cities
- ・開催期間 2010年(平成22年)8月21日(土)～10月31日(日) [72日間]
- ・会場 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、名古屋城、オアシス 21、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど
- ・来場者数 572,023人
- ・芸術監督 建畠 哲
- ・開催内容 [現代美術] 招聘作家による国際美術展、企画コンペによる展示、映像プログラム、
[舞台芸術] パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ
[普及・教育] キッズトリエンナーレ、学校向けプログラム
[祝祭的展開・まちなか展開] 祝祭ウィーク共催事業等

■平成 23 年度 (2011 年度)

平成 23 年 7 月 20 日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
------------------	------------------------

平成 23 年 7 月 28 日	・芸術監督選任(平成 23 年 8 月 1 日芸術監督就任)
------------------	--------------------------------

○芸術監督

五十嵐太郎(東北大学大学院工学研究科教授(都市・建築学))

平成 23 年 10 月 21 日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------------	---------------------

○テーマ

揺れる大地 - われわれはどこに立っているのか : 場所、記憶、そして復活
Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection

平成 24 年 3 月 29 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 24 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

■平成 24 年度 (2012 年度)

平成 24 年 7 月 25 日	【運営会議】 ・企画概要公表
------------------	-------------------

平成 25 年 3 月 22 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 25 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

■平成 25 年度 (2013 年度)

平成 25 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2013 開催 (8 月 10 日～10 月 27 日)
------------------	---

○開催概要

- ・正式名称 あいちトリエンナーレ 2013/Aichi Triennale 2013
- ・テーマ 揺れる大地-われわれはどこに立っているのか : 場所、記憶、そして復活
Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection
- ・開催期間 2013年(平成25年)8月10日(土)～10月27日(日) [79日間]
- ・会場 [名古屋地区] 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場、
中央広小路ビル、オアシス 21、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など
[岡崎地区] 東岡崎駅会場、康生会場、松本町会場
- ・来場者数 626,842人
- ・芸術監督 五十嵐太郎
- ・開催内容 [現代美術] 招聘作家による国際美術展、企画コンペによる展示、映像プログラム、
モバイル・トリエンナーレ
[舞台芸術] パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ
[普及・教育] キッズトリエンナーレ、学校向けプログラム
[祝祭的展開・まちなか展開] 祝祭ウィーク事業、大学連携プロジェクト、建築関連
プロジェクト

平成 26 年 3 月 26 日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ 2013 開催結果報告 ・平成 26 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

■平成 26 年度 (2014 年度)

平成 26 年 7 月 22 日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
------------------	------------------------

平成 26 年 7 月 25 日	・芸術監督選任 (平成 26 年 8 月 1 日芸術監督就任)
------------------	---------------------------------

○2016 芸術監督
港 千尋 (写真家・著述家 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授 (映像人類学))

平成 26 年 10 月 29 日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------------	---------------------

○テーマ
虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅
Homo Faber: A Rainbow Caravan

平成 27 年 3 月 26 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 27 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

■平成 27 年度 (2015 年度)

平成 28 年 3 月 30 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 28 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

■平成 28 年度 (2016 年度)

平成 28 年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2016 開催 (8 月 11 日～10 月 23 日)
------------------	---

○開催概要

- ・正式名称 あいちトリエンナーレ 2016/Aichi Triennale 2016
- ・テーマ 虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅
Homo Faber : A Rainbow Caravan
- ・開催期間 2016 年 (平成 28 年) 8 月 11 日 (木・祝)～10 月 23 日 (日) [74 日間]
- ・主な会場 [名古屋地区] 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか (長者町会場、栄会場、名古屋駅会場)
[豊橋地区] PLAT 会場、水上ビル会場、豊橋駅前大通会場
[岡崎地区] 東岡崎駅会場、康生会場、六供会場
- ・開催内容 [現代美術] 国際現代美術展、映像プログラム
[舞台芸術] パフォーミングアーツ、プロデュースオペラ
[普及・教育] 創作プログラム、鑑賞プログラム、レクチャープログラム、学校等団体向けプログラム
[連携事業] モバイル・トリエンナーレ、舞台芸術公募プログラム、芸術大学連携プロジェクト、特別連携事業、並行企画事業、パートナーシップ事業、サポート体制 (ボランティア、市民団体等によるあいちトリエンナーレ 2016 連携事業)

平成 29 年 3 月 28 日	【運営会議】 ・あいちトリエンナーレ 2016 開催結果報告 ・平成 29 年度事業計画及び収支予算について
------------------	--

■平成 29 年度 (2017 年度)

平成 29 年 5 月 19 日	【運営会議】 ・芸術監督の選考条件決定
------------------	------------------------

平成 29 年 7 月 18 日	・芸術監督選任 (平成 29 年 8 月 1 日芸術監督就任)
------------------	---------------------------------

○2019 芸術監督 津田 大介 (ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

平成 29 年 10 月 20 日	【運営会議】 ・テーマ決定・公表
-------------------	---------------------

○テーマ
情の時代
Taming Y/Our Passion

平成 30 年 3 月 22 日	【運営会議】 ・開催概要、平成 30 年度事業計画及び収支予算決定
------------------	--------------------------------------

■平成 30 年度 (2018 年度)

平成 31 年 3 月 27 日	【運営会議】 ・企画概要公表 ・平成 31 年度事業計画及び収支予算等決定
------------------	---

■令和元年度 (2019 年度)

令和元年 8 月～10 月	・あいちトリエンナーレ 2019 開催 (8 月 1 日～10 月 14 日 [75 日間])
---------------	---

○開催概要

- ・正式名称 あいちトリエンナーレ 2019/Aichi Triennale 2019
- ・テーマ 情の時代 Taming Y/Our Passion
- ・開催期間 2019 (平成 31) 年 8 月 1 日 (木)～10 月 14 日 (月・祝) (75 日間)
- ・主な会場 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか (四間道・円頓寺)、豊田市 (豊田市美術館及び豊田市駅周辺)
- ・芸術監督 津田大介
- ・開催内容
 - [現代美術] 国際現代美術展、映像プログラム
 - [舞台芸術] パフォーミングアーツ、音楽プログラム
 - [ラーニング] アート・プレイグラウンド、アーティスト派遣事業、学校向け団体鑑賞プログラム、ボランティア研修、トリエンナーレスクール
 - [連携事業] モバイル・トリエンナーレ、舞台芸術公募プログラム、芸術大学連携プロジェクト、芸術祭等連携事業、連携企画事業、パートナーシップ事業

令和元年 12 月 26 日	【運営会議】 ・「あいちトリエンナーレ 2019」開催結果概要 ・あいちトリエンナーレのあり方検討委員会からの提言
----------------	---

(資料) あいちトリエンナーレ実行委員会規約等

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、あいちトリエンナーレ実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(事務所)

第2条 実行委員会は、事務所を愛知県名古屋市東区東桜一丁目13番2号に置く。

(目的)

第3条 実行委員会は、あいちトリエンナーレ（以下「トリエンナーレ」という。）の準備及び開催運営等を行うことにより、次に掲げる事項を達成することを目的とする。

- (1) 新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献すること。
- (2) 現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ること。
- (3) 文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ること。

(事業)

第4条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) トリエンナーレの準備及び開催運営
- (2) その他実行委員会の目的を達成するために必要な事業

第2章 組 織

(委員)

第5条 実行委員会の委員は、次のとおりとする。

- (1) 別表1に掲げる職にある者
- (2) 若干名の学識経験者
- 2 前項第2号に規定する委員は、第12条第1項第1号に規定する運営会議（以下「運営会議」という。）の同意を得て会長が委嘱する。

(役員)

第6条 実行委員会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 会長代行 1名
- (3) 副会長 2名
- (4) 監事 2名
- 2 会長は、愛知県知事をもって充てる。
- 3 会長代行は、名古屋市長をもって充てる。
- 4 副会長は、名古屋商工会議所会頭及び一般社団法人中部経済連合会会長をもって充てる。
- 5 監事は、運営会議の同意を得て会長が委嘱する。

(職務)

第7条 会長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。

- 2 会長代行は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 3 副会長は、会長代行とともに会長を補佐する。
- 4 監事は、実行委員会の業務及び会計を監査する。

(任期)

第8条 役員及び委員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠又は増員により選任された役員及び委員の任期は、前項本文の規定にかかわらず、前任者又は他の現任者の残任期間とする。
- 3 役員及び委員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(芸術監督)

第9条 実行委員会に、トリエンナーレの学芸業務の最高責任者として芸術監督を置く。

- 2 芸術監督は、運営会議において選任し、会長が委嘱する。

(顧問、芸術顧問及び参与)

第10条 実行委員会に、顧問、芸術顧問及び参与を置くことができる。

- 2 顧問、芸術顧問及び参与は、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、実行委員会の運営に関し、会長の相談に応じる。
- 4 芸術顧問は、トリエンナーレの学芸業務に関し、会長及び芸術監督の相談に応じる。
- 5 参与は、実行委員会の事業に関し、会長の相談に応じる。

(アドバイザー)

第11条 実行委員会に、トリエンナーレの展開に関し専門的な観点から助言を得るため、アドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、会長が委嘱する。

第3章 会議

(会議)

第12条 実行委員会に、次の会議を置く。

- (1) 運営会議
 - (2) 有識者部会
 - (3) 幹事会
- 2 前項に定めるもののほか、実行委員会に会長が必要と認める会議を置くことができる。

(運営会議)

第13条 運営会議は、会長、副会長その他の委員をもって構成する。

- 2 運営会議は、次の事項を議決する。
 - (1) 事業計画及び収支予算
 - (2) 事業報告及び収支決算
 - (3) その他実行委員会の運営に関する重要な事項
- 3 運営会議は、会長が召集する。
- 4 運営会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 5 運営会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 6 運営会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 7 やむを得ない理由のため運営会議に出席できない構成員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、その構成員は出席したものとみなす。
- 8 会長が必要と認める場合、あらかじめ通知した事項に対する構成員による書面表決をもって、運営会議の議決に代えることができる。
- 9 会長は、必要と認めるときは、運営会議に構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(有識者部会)

第14条 トリエンナーレの芸術部門の企画に関し、専門的な観点から芸術監督に助言を行うため、運営会議に有識者部会を置く。

- 2 有識者部会は、第5条第1項第1号に規定する委員のうちから会長が指名する者及び同項第2号に規定する委員をもって構成する。
- 3 有識者部会に部会長を置き、第5条第1項第1号に規定する委員のうちから会長が指名する者をもって充てる。
- 4 部会長は、有識者部会の事務を掌理する。
- 5 部会長は、有識者部会を構成する委員のうちから部会長代理を指名することができる。部会長代理は、部会長不在のとき、その職務を代理する。
- 6 芸術監督は、有識者部会の経過及び結果を会長に報告する。
- 7 前条第3項、第4項及び第9項の規定は、有識者部会について準用する。この場合において、それらの規定中「運営会議」とあるのは「有識者部会」と、「会長」とあるのは「部会長」と読み替えるものとする。

(幹事会)

第15条 実行委員会の円滑な運営を図るため、運営会議の下に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、幹事長、幹事長代理及び幹事をもって構成し、それぞれ、別表2に掲げる職にある者をもって充てる。
- 3 第13条第3項から第9項までの規定は、幹事会について準用する。この場合において、それらの規定中「運営会議」とあるのは「幹事会」と、「会長」とあるのは「幹事長」と読み替えるものとする。

第4章 会長の専決処分

(会長の専決処分)

第16条 会長は、運営会議の議決事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができる。

- 2 会長は、前項の規定により専決処分をしたときは、これを次の運営会議において報告しなければならない。

第5章 事務局

(事務局)

第17条 実行委員会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、愛知県県民文化局文化芸術課トリエンナーレ推進室に置く。
- 3 事務局には、所要の職員を置く。
- 4 事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

第6章 会計

(経費)

第18条 実行委員会の活動に必要な経費は、負担金その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第19条 実行委員会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7章 補則

(委任)

第20条 この規約に定めるもののほか、必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成20年6月28日から施行する。
- 2 実行委員会の設立当初の役員及び委員並びに顧問は、第5条及び第6条並びに第10条第1項及び第2項の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
- 3 実行委員会の設立当初の役員及び委員の任期は、第8条第1項の規定にかかわらず、設立の日から平成23年3月31日までとする。
- 4 実行委員会の設立当初の会計年度は、第18条の規定にかかわらず、設立の日から平成21年3月31日までとする。

附 則

この規約は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成20年10月14日から施行する。

附 則

この規約は、平成21年8月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成23年7月8日から施行する。

附 則

この規約は、平成24年7月25日から施行する。

附 則

この規約は、平成28年7月29日から施行する。

附 則

この規約は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年8月31日から施行する。

附 則

この規約は、平成31年4月1日から施行する。

別表1（第5条関係）

区 分	職 名
委員	愛知県知事
	名古屋市長
	名古屋商工会議所会頭
	一般社団法人中部経済連合会会長
	名古屋商工会議所専務理事
	一般社団法人中部経済連合会専務理事
	中日新聞社代表取締役社長
	日本放送協会名古屋放送局長
	独立行政法人国際交流基金理事
	愛知県立芸術大学学長
	愛知芸術文化センター総長
	愛知県県民文化局長
	名古屋市観光文化交流局長
	公益財団法人愛知県文化振興事業団理事長
公益財団法人名古屋市文化振興事業団理事長	

別表2（第15条関係）

区 分	職 名
幹事長	愛知県県民文化局文化部長
幹事長代理	名古屋市観光文化交流局文化歴史まちづくり部長
幹 事	名古屋商工会議所総務管理部長
	一般社団法人中部経済連合会企画部長
	愛知芸術文化センター管理部長
	公益財団法人愛知県文化振興事業団常務理事

○あいちトリエンナーレ実行委員会組織図

2019年8月1日現在



(資料) あいちトリエンナーレの推移

項目	2010	2013	2016	2019
名称	あいちトリエンナーレ 2010 Aichi Triennale 2010	あいちトリエンナーレ 2013 Aichi Triennale 2013	あいちトリエンナーレ 2016 Aichi Triennale 2016	あいちトリエンナーレ 2019 Aichi Triennale 2019
テーマ	都市の祝祭 Arts and Cities	揺れる大地ーわれわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活 Awakening - Where Are We Standing? - Earth, Memory and Resurrection	虹のキャラヴァン サライ 創造する 人間の旅 Homo Faber : A Rainbow Caravan	情の時代 Taming Y/Our Passion
芸術監督 (就任当時の職)	建畠 哲 (国立国際美術館館長)	五十嵐太郎 (東北大学大学院工学研究科(都市・建築学)教授)	港 千尋 (多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授(映像人類学))	津田大介 (ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)
会期	平成 22 年 (2010 年) 8 月 21 日 (土) ~ 10 月 31 日 (日) [72 日間]	平成 25 年 (2013 年) 8 月 10 日 (土) ~ 10 月 27 日 (日) [79 日間]	平成 28 年 (2016 年) 8 月 11 日 (木・祝) ~ 10 月 23 日 (日) [74 日間]	平成 31 年 (2019 年) 8 月 1 日 (木) ~ 10 月 14 日 (月・祝) [75 日間]
会場	・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場、 ・納屋橋会場 ※その他、名古屋城、オアシス 21、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・納屋橋会場 ※その他、中央広小路ビル、オアシス 21、名古屋テレビ塔、若宮大通公園など ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・松本町会場	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・長者町会場 ・栄会場 ・名古屋駅会場 ■豊橋地区 ・PLAT 会場 ・水上ビル会場 ・豊橋駅前大通会場 ■岡崎地区 ・東岡崎駅会場 ・康生会場 ・六供会場	■名古屋地区 ・愛知芸術文化センター ・名古屋市美術館 ・四間道・円頓寺 ■豊田地区 ・豊田市美術館 ・豊田市駅周辺
参加アーティスト数	24 の国と地域から 131 組	34 の国と地域から 122 組	38 の国と地域から 119 組	30 の国と地域から 93 組
来場者数	572, 023 人	626, 842 人	601, 635 人	675, 939 人
国際現代美術展 展示面積	18, 127 m ²	33, 963 m ²	21, 644 m ²	20, 033 m ²
舞台芸術 プログラム等	オフエンバック 作曲 「ホフマン物語」	プッチーニ作曲 「蝶々夫人」	W. A. モーツァルト 作曲 「魔笛」	サカナクション 「暗闇 -KURAYAMI-」 等
全体事業費(決算額)	(平成 20 (2008) ~ 22 (2010) 年度) 1, 207, 537 千円	(平成 23 (2011) ~ 25 (2013) 年度) 1, 178, 248 千円	(平成 26 (2014) ~ 28 (2016) 年度) 1, 265, 008 千円	(平成 29 (2017) ~ 令和元 (2019) 年度) 1, 254, 765 千円※
経済波及効果	約 78.1 億円	約 69.0 億円 (うち愛知県内 約 58. 億円)	愛知県内 約 63. 3 億円	愛知県内 約 87. 1 億円

項目	2010	2013	2016	2019
パブリシティ効果 (広告費換算)	47 億円以上	55 億円以上	33 億円以上	約 200 億円
ボランティア登録 者数 (実人数)	1,289 人	1,310 人	1,144 人	1,219 人
主な特徴 (新たな展開)	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 象徴的なテーマ展開 ・ 建築の視点の導入 ・ まちなか展開の拡大 (岡崎市内での展開) ・ 建築関連プロジェクト ・ モバイル・トリエンナーレ (移動型展示) ・ パブリック・プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加アーティストと企画体制の地域的な拡がり ・ まちなか展開の拡大 (豊橋市内での展開) ・ グループとして多様な活動をするアーティストを紹介 ・ 舞台芸術公演が集中する「レインボーウィークス」 ・ コラムプロジェクト等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロックやポップスなどのポピュラーミュージックを新たなプログラムとして展開 ・ 演劇を中心としたパフォーマンス公演 ・ ラーニングとして対話型鑑賞を重視 ・ 名古屋市のまちなか展開を新たに四間道・円頓寺にて実施。伝統的文化的な風情と現代アートの融合 ・ 豊田市内でのまちなか展開

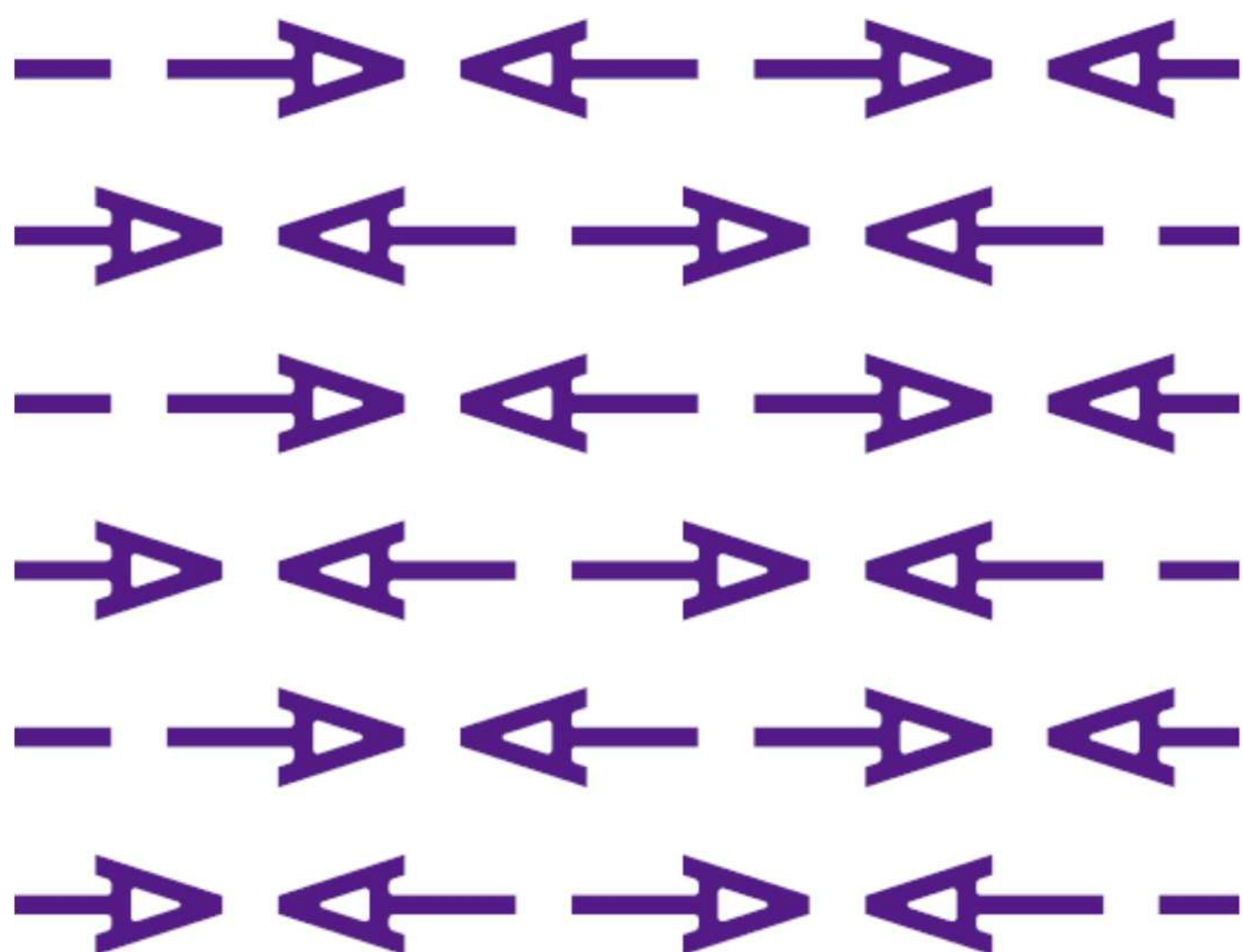
※令和元年 (2019) 年度分は 2020 年 3 月現在で決算額が未確定のため予算額で積算

あいちトリエンナーレ 2019 開催報告書

令和 2 (2020) 年 3 月

編集：あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

発行：あいちトリエンナーレ実行委員会



あいちトリエンナーレ実行委員会事務局(愛知県職員文化局文化芸術課トリエンナーレ推進室)

〒461-8525 愛知県名古屋市中区東横1-13-2 愛知芸術文化センター6階 Tel | 052-971-6111 Fax | 052-971-6115